

介護人材のすそ野を広げるための

『就労していない女性』

『中高年齢層』への

効果的なアプローチについての

取り組み事例集

はじめに -4

I 中高年齢層向け 初めての介護研修 — 6

宮城県福祉人材センター

1. 目的 -6
2. 実施概要 -6
3. 協力施設と日時・参加人数（結果） -6
4. 広報用チラシの配布方法・枚数・地域 -7
5. 広報・啓発の効果と反省 -8
6. 各施設での「介護研修」の成果・発見と失敗・反省点 -9
 - (1) 特別養護老人ホーム 国見苑 -9
 - (2) 特別養護老人ホーム リーフ鶴ヶ谷 -10
 - (3) 特別養護老人ホーム 水泉荘 -11
 - (4) 特別養護老人ホーム 白東苑 -12
 - (5) 特別養護老人ホーム せんだんの館 -13
7. アンケート集計結果 -14

II 第9回健康・福祉フェア in イオンモール与野 — 16

～身近な介護・介護予防と健康・介護の仕事

埼玉県福祉人材センター

1. 実施目的 -16
2. 実施概要 -16
3. 実施報告（①啓発 ②調査 ③目標達成度） -16
4. 動員実績内訳 -17
5. 総評 -18
6. アンケート集計／感想 -19
7. 広告宣伝／記事 -25
8. 会場・運営関係 -27
9. フェア参加メンバー -28

- 10. 当日の様様（写真映像） -28
- 11. 来場者アンケート分析 -30
- 参考：来場者アンケート原票 -43

Ⅲ 福祉・介護のしごと はじめましてセミナー—— 44 (海老名・藤沢)

かながわ福祉人材センター

- 1. 事業実施状況 -44
 - (1) セミナー開催対象・地域について -44
 - (2) プログラムの設定 -44
 - (3) 申込者及び参加者 -45
 - (4) 各セミナー開催の周知広報の状況 -45
- 2. 成果・発見 -48
 - (1) 周知方法（アプローチの手法） -48
 - (2) 評価 -48
- 3. 失敗・反省点 -49
- 4. 今後の活動に生かせること -50
- 5. アンケート集計結果 -51

Ⅳ 第2回ふくしの職場説明会・ 就職面接会—— 57

長野県福祉人材センター

- 1. モデル事業の概要 -57
- 2. 実施結果 -57
- 3. 事業の評価（成果・発見・失敗・反省点） -57
- 4. 今後に向けて -61
- 5. モデル事業関連データ -62
- 6. アンケート集計結果 -64

V

仕事と家庭が両立できる 福祉の職場セミナー—— 70

～女性が働きやすい・活躍できる

三重県福祉人材センター

1. 事業実施結果 —70
2. 成果・発見 —70
3. 失敗・反省点 —73
4. 今後の活動に活かせること —74
5. アンケート集計結果 —75

VI

「あなたのライフプランから 考える福祉の仕事の はじめ方」セミナー—— 82

奈良県福祉人材センター

1. 事業実施結果 —82
 - (1) 実施の背景 —82
 - (2) 事業内容 —82
 - (3) 広報方法 —84
 - (4) 結果 —85
2. 成果・発見 —86
3. 失敗・反省点 —86
4. 今後の活動に活かせること —87
5. その他 —87
6. 受講者アンケート結果 —88

ふり返り・総括 —94

はじめに

平成27年6月に厚生労働省が発表した「2025年に向けた介護人材にかかる需給推計（確定値）について」では、2025年における介護人材の需要の見込みは約253万人、現状推移シナリオによる介護人材の供給の見込みは約215万人と推計されており、約38万人の需給ギャップが生じることが見込まれている。

また、一方で、総務省が発表した国勢調査によれば2015年の生産年齢人口は7,629万人であるのに対し、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計（出生中位・死亡中位推計）によると2025年には7,085万人と、「働き手」についてはこの10年間で500万人以上減少するとの将来見通しも報じられている。

こうした状況のなか、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会が福祉人材確保のあり方全般について検討し、平成27年2月にとりまとめられた報告書「2025年に向けた介護人材の確保～量と質の好循環の確立に向けて～」では、今後の施策の考え方の一つとして「人材のすそ野の拡大を進め、多様な人材の参入促進を図る」が掲げられ、拡大していく対象としては、中高年齢者、就業していない女性、他業種、若者、障害者などが具体例としてあげられた。

しかしながら、中高年齢層や就労していない女性の介護の仕事に対する興味・関心はまだまだ低く、十分な理解も進んでおらず、都道府県福祉人材センター・バンク（以下、人材センター）が行う介護の仕事を紹介する催し物などにも積極的な参加が得られていないのが現状である。

その背景には、人材センターにはまだ、こうした層に対して介護の仕事への興味を喚起させたり、関連のセミナーやフェアなどに足を運んでもらうにはどのような手法でアプローチするのが効果的なのかを見極められるだけの経験がなく、有効な方法が見い出せていないことが要因の一つとしてあるものと思われる。

そこで、中央福祉人材センターにおいては、新たなすそ野となる層の介護の職場への参入を促進していくための効果的な方法につながる手がかりを得るべく、平成29年度社

会福祉推進事業による補助金を財源に「介護人材のすそ野を広げるための『就労していない女性』『中高年齢層』への効果的なアプローチについてのモデル事業」を実施することとした。

事業の実施にあたっては、全国の6か所の人材センターから検討委員をご派遣いただいて検討会を設置し、現状認識を共有したうえで、各県の地域特性に合わせた設定でモデル事業を計画、実施した。

実施にあたっては、モデル事業として行う催し物への参加者数を評価の重点とするのではなく、催し物への案内・周知をできるだけ多様なバリエーションで行い、どのような方法や媒体を通じて情報を得て参加に結びついた人が多かったのかを見定めることを重点とし、今後も同様の催し物を行っていく際にはどのようなアプローチの方法が活用できるのかの手がかりを得ることを最終的な目標とした。

本事例集は、モデル事業の実施後の具体的な結果についてまとめたものである。

発刊の後には、全国の人材センターや関係者のご協力を得ながら、事業で得た成果の集大成である本事例集の活用により、関心を引き、足を運んでいただけるセミナーやフェアなどの企画・立案への取り組みが進み、新たなすそ野となる層へのより効果的なアプローチの実践を通じて介護の職場への多様な人材の参入が促進されることが、介護人材確保難の緩和への一助となることを願いたい。

平成30年3月

社会福祉法人全国社会福祉協議会
中央福祉人材センター
所長 **黒 沢 正 俊**

I

中高年齢層向け 初めての介護研修

宮城県福祉人材センター

1 目的

宮城県では、人材確保の重点事業として「中高年齢者の福祉・介護事業への参入促進を図るための研修事業」を、9月から11月に県内広域的に7か所で企画・実施し、地域福祉・介護の人材の掘り起こしを行っていた。

そこで、政令指定都市仙台圏域では、実施に向けて協力を申し出た施設も多かったこともあり、市町村をまたぐ広域での募集ではなく、施設の設置してある地域（中学校区）にターゲットを絞り、地域住民への周知・案内などへの効果的な方法について工夫を凝らすとともに、研修の内容や進め方についても情報交換・研修を行うなど、効果的なアプローチについてモデル事業として実施し、人材確保に活かそうとするもの。

2 実施概要

仙台市内に5区あることから、5ヶ所の特別養護老人ホームの協力を募り、施設のある中学校区（地域包括センターエリア）の住民各戸に、参加を呼びかけるチラシを「新聞折込」「各戸ポスティング」のどちらかの方法で案内し、参加者を募集し、1日3時間程度の「介護に関する知識や技術の習得」をわかりやすい言葉で2日間実施し、「老人福祉施設の仕事」に興味と関心を持ってもらうこととした。

3 協力施設と日時・参加人数（結果）

地区	施設名	日程	参加者数
青葉東支部	特別養護老人ホーム 国見苑（青葉区）	平成30年1月10日・15日	6名 （チラシ2・関係者4名）
青葉西支部	特別養護老人ホーム せんだんの館（青葉区）	平成30年1月30日・31日	5名 （チラシ4・関係者1名）
宮城野・若林支部	特別養護老人ホーム リーフ鶴ヶ谷（宮城野区）	平成30年1月17日・18日	4名 （チラシ1・関係者3名）
太白支部	特別養護老人ホーム 白東苑（太白区）	平成30年1月19日・25日	11名 （チラシ6・関係者5名）
泉支部	特別養護老人ホーム 水泉荘（泉区）	平成30年1月17日・18日	6名 （チラシ6名）

仙台の5区



それぞれの施設の立地する地域に絞って「町内会」単位でのチラシ配布は、「職員の募集」以外では稀で、研修や施設事業への参加呼びかけは行った実績が少なく、どの程度の反応があるかは、どの施設も楽しみでもあり不安でもあった。結果チラシだけでも6名集まった地域や、民生委員・福祉委員など関係者が声かけあった地域もあり、それぞれの地区の特徴が出た。

4 広報用チラシの配布方法・枚数・地域

施設名	地域での配布枚数	配布の手法
特別養護老人ホーム 国見苑（青葉区）	国見／貝ヶ森／国見ヶ丘等 7,000世帯（約14,000世帯中）	地元新聞の折り込み （12月21日の河北新聞）
特別養護老人ホーム せんだんの館（青葉区）	水の森・東勝山・あけぼの町・鷲ヶ森・双葉が丘・荒巻3地区・桜ヶ丘・中山・滝道等 17,450世帯（約17,500世帯中）	軒並ポスティング （12月20日から3週間で配布）
特別養護老人ホーム リーフ鶴ヶ谷（宮城野区）	鶴ヶ谷・東・北・自由が丘周辺 8,000世帯（約8,000世帯中）	軒並ポスティング （12月20日から2週間で配布）
特別養護老人ホーム 白東苑（太白区）	四郎丸・袋原・中田 7,000世帯（約12,000世帯中）	地元新聞の折り込み （12月21日の河北新聞）
特別養護老人ホーム 水泉荘（泉区）	実沢・館・中山 7,000世帯（約13,000世帯中）	地元新聞の折り込み （12月21日の河北新聞）

平成29年度 受講者募集
【仙台市内各町会にて】
参加費 無料

初めての介護研修

1/10 13:00-16:00
1/15 11:00-15:00

会場 特別養護老人ホーム 国見苑
〒981-0248 仙台市青葉区南8-40-58
TEL: 022-253-8285

定員 各日15名程度（定員1日30名程度）

研修内容
介護に関する基礎及び実践として
介護実習（実習）を行います。
（事前研修が必要です）

【1日目】 13:00～16:00
「介護実習（実習）の事前研修」
「介護実習（実習）の事前研修」
「介護実習（実習）の事前研修」

【2日目】 11:00～15:00
「コミュニケーション研修」
「介護実習（実習）」
「介護実習（実習）」

お問い合わせ・申し込み先
① 社会福祉法人 国見会
仙台市青葉区南8-40-58
TEL: 022-253-8285 FAX: 022-253-8286
② 社会福祉法人 国見会
仙台市青葉区南8-40-58
TEL: 022-253-8285 FAX: 022-253-8286

福祉のお仕事
https://www.fukushi.com.jp

5地区に配布したチラシ

5 広報・啓発の効果と反省

アプローチ方法	評価	評価の理由・コメント
一定地域・ 軒並ポスティング	1・2 (3) 4・5	2地域で、実施。事業所側は、目立つチラシであり、新しい誘い方で効果を期待したが、自主的参加者の増は難しかった。
一定地域・新聞折込チラシ	1・2 (3) 4・5	3地域で、実施。新聞購読者の年代を考え、目立つチラシであり、近隣の方の参加を期待したが、難しかった。
地域内社協・町内会での 広報	(1) 2・3・4・5	今回地区社協・民協・町内会など既存の組織への働きかけ、誘いが同時並行で出来なかった。反省点である。
口コミ・関係者での 呼びかけ依頼	1・2・3 (4) 5	1地域で実施。地域の民生委員・福祉委員の参加呼びかけで、友人も含め参加者が増えた。

ま と め

「地域住民への周知・案内に工夫を施す」という点では、デザインに工夫し、ポスティング又は新聞折込という個別にチラシを届ける手法を取り、研修内容も短時間で分かりやすく案内したつもりであるが、「情報が手元に届いた」だけでは、参加に向けた動機づけにはならず、もう一步、知り合いや、友人からの「必要性、有効性、楽しさ、手軽さ」などを含んでの声かけが必要であったと考えている。

実際、地区民協・町内会（地区社協）に、施設や地域包括支援センターから案内のあった地域は、一般参加者だけでなく、関係者も参加している。

（仕事として働くつもりではないが、施設・介護への興味は高い）

事業への取り組みが年度途中からで遅くなったこと、施設との協力だけでの実施のスケジュールであり、社協の人材センターが絡んでいるにもかかわらず地域の関係機関へ呼びかけできなかったことが反省点である。

各施設には、自らの施設の「地域での周知度・理解度」を、今回のチラシ配布の際の問い合わせなどで感じ取り、今後も、積極的に働きかける必要性を実感してもらっている。

地域への情報提供について、チラシ配布の手法を確認したこと、その後の福祉関係機関の後押し（口コミ）が、参加意欲を高める確実な方法であることに気づかされた。

今回、試行的にも実施でき、反応を見られたことを今後の展開につなげていきたい。

6 各施設での「介護研修」の成果・発見と失敗・反省点〔各施設より〕

(1) 特別養護老人ホーム 国見苑

○成果・発見

参加者は少人数であったが、60歳以上だが、「介護」について、初めて自分のこととしてとらえ、今後の自分自身、さらには、他人のために役立てるのではないかとの思いで参加していただいた方がいた。やはり地域には様々な方がいて、声かけ・啓発が必要だと感じた。

○失敗と反省点

大変良い企画であったが、開催日が年明けすぐで、年末年始を挟んだことは、多忙さで参加の余裕のない時期であったと考察する。また、新聞折込だけでなく、地区役員への説明・声かけの必要性、また、他の新聞購読者もいるので、地区の回覧板も併用する必要があった。

○今後に活かせること

- ①生活圏内にある、ある程度歴史と実績があると思っていた当施設であっても、地域の方々には、施設がどこにあり、どんな機能を持って、何をしているのかを知られていないことを再認識した。
- ②講師役の職員にとっても、一般の方にわかりやすく説明する難しさを体感でき、養成につながった。



施設の室内



6名の参加者で、男性が多かった地区でした

(2) 特別養護老人ホーム リーフ鶴ヶ谷

○成果・発見

参加者は少人数であったが、現場の介護補助の職員の参加もあり、参加者と職員の距離の近い本音で話しあえる、笑いの多い良い研修になった。(内部職員の参加も良い)

研修の講師役は、看護師、調理、ケアマネ、介護士など他職種協働で講義・演習を行ったが、参加者のいろいろな声が生で聞けて良かったし、それぞれの専門性も明確になった。

○失敗と反省点

チラシは目につきやすく分かりやすかったが、①外出しやすい時期の設定、②年齢制限をせず、まず、施設に来てもらうこと、③申込み手続きで、あまり「就労の事」など細かく聞かない、④FAXや郵送など、手続きを省き電話だけでも良いなど、申し込み方法の簡便化が必要だったのではないかと思われる。

○今後に活かせること

- ①午後から3時間程度の学習は、参加者にちょうど良い。
- ②講師役の職員も、他職種協働ができ、スキルアップにつながる養成になった。
- ③現場にいる中高年の高齢者にも一緒に参加が雰囲気や和らげた。



少人数でじっくり勉強



車いすの扱いも、実は初めて

(3) 特別養護老人ホーム 水泉荘

○成果・発見

- ・『当施設は知っていたがどんなことをしているのかわからない』というような方々が来てくださり、施設を知っていただくきっかけになった。
- ・施設近隣で暮らしている方々のニーズが一部分でも分かったことはよかった。
- ・講師をした職員のスキルアップになった。

○失敗と反省点

講義内容など、「もっとこうすればよかった」というような細かい反省はあったが、特に大きな失敗や反省はなかった。

○今後活かせること

「自立支援の考え方や生活支援技術は、住み慣れた地域・在宅で暮らすために必要だから、もっと地域でやってほしい」という意見をいただいた。地域での活動の参考にしたい。

研修が終わった後に、研修に参加していない地域の方より「またやってほしい」というような電話があった。今後もこのような事業があれば、ぜひ参加したい。



食事をバイキング形式で実食



介護保険のこれからについて学ぶ

(4) 特別養護老人ホーム 白東苑

○成果・発見

四郎丸の地域で、これまでも地域密着で事業を展開してきたが、あらためて施設の状況を知りたい人が多いことに気づかされた。

以前から施設に関わりがあった方も、初めて参加された方も、介護や高齢者の福祉には興味をもって「このような機会があればもっと学びたい。何か自分にもお手伝いできることがあれば」という意欲的な方が多かった

「今まで親の介護や自宅での家族の看取りなどを経験してきたが、実際に自分で介護を体験してやってみると、『なるほどこのようにやっているんだ』と初めて分かりました」との声もあった

○失敗と反省点

冬季インフルエンザの発症の時期と重なるなか、研修会場を移動しながらの研修であったため、参加者に申し訳なかった。

○今後活かせること

地域を対象としたチラシの配布の有効性、福祉委員・民生委員・婦人部の方などのフォロー一声かけで、さらに参加意欲が増すことが分かった。

お誘いの文化なのだろう。



おいしいカレーでした



11名で熱心にディスカッション



ベッドでの介護実技

(5) 特別養護老人ホーム せんだんの館

○成果・発見

研修参加者が、福祉や施設に対する興味と関心を高く持ち、研修を通じて就業につなげたいとの希望があったことが、実際の大きな成果である。5名という決して多くはない参加者ではあったが、研修から採用につながる方法もあることに気づけた。職員も、今回の研修を主体的に企画・準備したことで自身の学びにつながった。

○失敗と反省点

5名の参加者も、福祉の経験に差があり、参加者の学ぶ意識を前もって知っておくこと、初級コース・中級コースなど分けて対応することの準備も必要ではないかと感じた。

また、ポスティングは、配り始めから終了まで比較的長い日数が必要であり、申込期日の設定も幅を持たせなければならず、費用対効果も検討が必要である。

○今後に活かせること

今回のように、研修をきっかけに就労につなげることも可能であることを経験できたことは大変意味があり、今後の採用活動につなげていきたい。



介護の実技も学びました



「地域包括ケア」「認知症ケア」学びました



食事の自立は大切な点！
『実際に食べてみて』重要性を学びました

7 アンケート集計結果

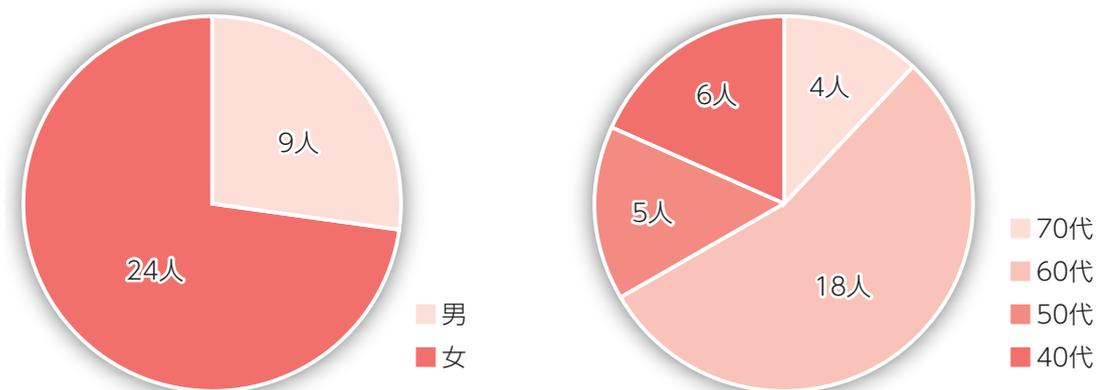
※5会場の参加者 33名

(1) 男女の比率

女性の方が多いが、男性も、企業などでの仕事を終え、福祉への参加・協力を求め自ら参加してくる方もいる。

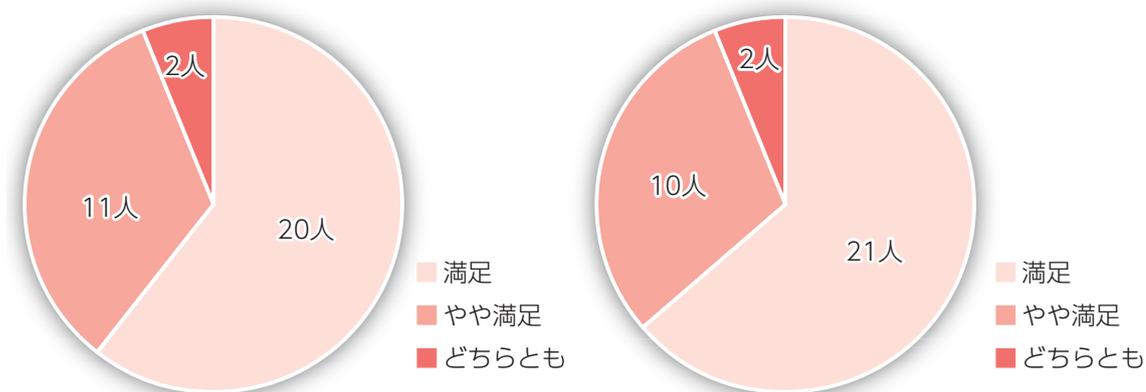
(2) 年代別

今回の研修のねらいから、60代が多いが、40代50代、70代も興味と関心を持ってきていることがわかる。



(3) 研修における講義・実技の内容の評価

施設のなかに入り、職員から講義を受ける事自体初めての方がほとんどであり、施設サイドも、一般の地域住民への説明という配慮、職員の工夫などにより、受講生からの評価は高く、満足して帰っていただいている。その後、地域への出前を頼まれたり、参加できなかった人からのリクエストが来るなど、「施設の持つ介護の専門性」があらためて見直されている。



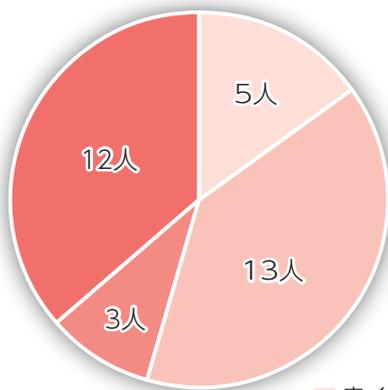
(4) 今回の研修までに『その施設』を知っていたか、どうかについては、地域の社会的福祉資源として知ってはいたが、十分ではないし、職員の顔・業務内容、施設の内部までは知っている地域住民は少ないことがあらためて分かった。

これまでは、サービス利用者・その家族・地域の福祉関係者が、施設の内部へ出入りしていることで成り立ってきたが、今後は地域住民が気軽に、積極的に関わり、ギブ&テイ

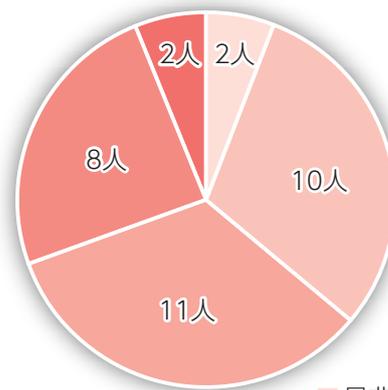
クで施設を見守り、人材確保も一翼を担い、協力し合って行くことが求められる。

(5) 今回の研修を経て、「福祉施設での就労に関してどう考えるか？」については、すぐにでもという方が1名、何かあれば働きたいという方も多いが、仕事ではなく、ボランティアとして、手伝いたいという声も多かった。「高齢者の自立に向けた介護技術」の習得は、年代的に難しくとも、これまでの経験からの生活支援的サービス、介護補助、自立支援見守りなど、重層的な支援の役割を担ってもらえるのが理想である。

ぜひ、人材センターへの登録から、福祉の現場へマッチングを薦めたいし、その方向で努力したい。



- 良く知っていた
- 多少知っていた
- どちらとも
- あまり知らなかった



- 是非働きたい
- 何かあれば働きたい
- 仕事でなく手伝い
- どちらともいえない
- 困難である

II

第9回健康・福祉フェア in イオンモール与野

～身近な介護・介護予防と健康・介護の仕事

埼玉県福祉人材センター

1 実施目的

「就労していない女性」「中高年齢者層」の集客率の高いイオンモール与野店のイベントスペースで『健康・福祉フェア』を開催し、一般の来場者を対象にして

- ①啓発活動：福祉・介護・介護予防の認知・理解を高めるために、セミナーや展示実演で広くアピールする。
- ②調査活動：介護人材のすそ野を広げるため、「就労していない女性、特に主婦層」「中高年齢者層」を対象に“福祉・介護への関心度”“介護職への就業意識”についての調査を行い、介護職への参入促進のための効果的なアプローチ方法を検討し、来年度以降の活動に反映させる。

2 実施概要

イベント名：第9回健康・福祉フェア ～身近な介護・介護予防と健康・介護の仕事

開催日時：2017年12月10日（日曜日） 11:00～16:00

開催場所：イオンモール与野店

目 標：動員（セミナー・ブース参加）：1,000人

PR（クイズ・パネル見学）：1,000人

アンケート回収：200件

出展予算：100万円（税込み）

※運営は さいたまPRセンター（埼玉新聞社関係会社）に委託

3 実施報告

当報告で使用している割合データは、アンケート集計結果から引用。（集計結果は19頁の6 アンケート集計／感想 参照） アンケート回収率 13.7%（192人/1,395人）

- ①啓発：動員数 2,226人のうち、目的をもって来場された方は60%、通りがかりやイオン店内の案内を見ての来場参加は40%を占め、一般の生活者に対し福祉や介護の認知・理解を高める効果はあったといえる。特に認知症予防セミナーが人気を集め、中高年齢層の来場があった。また、「ふくしクイズ」（子供中心に231人参加）と社協の説明パネル展示には子供連れのファミリー層の集客に寄与した。

説明パネル展示については回遊性を高めた構造にすれば、より集客力があつたと見込む。

PR 活動 { たまログ（11月号、12月号） 開催記事広告（さいたま市、上尾市 35万部）
 ポスター（イオンモール与野店内掲示コーナー）
 DM（900通発送） COOL求職登録者への案内（約2,000）
 埼玉新聞（12月9日催し案内、12月16日開催記事）

- ②調査：・来場者の属性は、女性が74%、50歳以上の中高年層が60%を占めた（対象者にマッチ）
 ・通りがかり、イオン店内掲示物を見て来場した方が40%あった（無関心層の動員）
 ・DM等のPRで来場された固定層は“認知症”に関心が42%と高い（高年齢者の傾向）
 ・働くための条件は ①仕事内容 ②職場の雰囲気 ③職場までの距離で60%を占める。
 →参考：当センター調べの介護届出者アンケート調査（2017年8月）では、
 ①職場までの距離 ②年齢制限 ③資格を反映した給与体系・安全体制が53%
 →条件に合えば働く興味をもつが42%（就労意向あり）
 ・介護施設見学会 参加意向は33%（潜在希望層は開拓の余地有）
 ・福祉人材センターを知っていると答えた人が20%は高い数字（展示を見たから？）

③目標達成度：動員・PR実績/目標 2,226名/2,000名（111%）
 アンケート回収実績/目標 192件/200件（96%）

4 動員実績内訳

動員内訳

観測項目		目標	実績	達成率	
来場者数	参加客	・DM/チラシ/たまログ持参	150	98	65%
		・ステージ（着席）	350	368	185%
		・ステージ（立ち見）	0	279	
		・展示ブース参加	500	650	130%
	ステージ講演や展示ブースに参加	中計	1,000	1,395	140%
	一般客	・クイズ回答	250	231	92%
		・パネル見学	750	600	80%
	イオン来場の一般の客で興味をもって見学	中計	1,000	831	83%
来場者数計		2,000	2,226	111%	
アンケート回収		200	192	96%	

参加客：ステージでのセミナーを聴講したり、展示ブースに立ち寄り、実演に参加された積極的な来場者
 一般客：「ふくしクイズ」に参加したり、パネル展示や展示ブースを見学し関心をもたれた来場者

セミナー動員内訳

セミナープログラム	ステージ	立ち見	計
シニアの健康運動	40	5	45
生活支援サポーター	16	3	19
認知症にならないために	40	30	70
認知症のウラに隠れた病気	40	50	90
マッスル・スーツ	40	50	90
エンディングノートの書き方	22	18	40
介護ロボットHAL	18	10	28
上条百里奈	40	25	65
介護ロボットHAL	24	10	34
介護の魅力PR隊	40	40	80
マッスル・スーツ	30	20	50
薬局在宅サービス	10	10	20
シップの正しい貼り方	8	8	16
動員計	368	279	647

5 総評

アプローチの方法と評価

アプローチ方法	想定対象		評価	評価の理由・コメント
	就労していない女性	中高年齢層		
案内ダイレクトメール		◎	1・2・3 (4) 5	来場者アンケートでDMによる認知・来場33%。900通 11月未発送。
たまログ広告	○	○	1・2 (3) 4・5	来場者アンケートで広告による認知・来場11%+広告力。15万部×11月1日、12月1日2回
cool求職者マイページ案内			1・2 (3) 4・5	登録2157人に案内(12/6)、4アクセス39人(1.8%)。参考同イベント案内の平均アクセス率1.6%。18案内中5位
チラシ	○	○	(1) 2・3・4・5	来場者アンケートでチラシによる認知・来場8%。
実施施設内掲示	◎	○	1 (2) 3・4・5	来場者アンケートで掲示による認知・来場12%。
ステージでの講演・実演	○	◎	1・2・3・4 (5)	認知症ケア・介護予防・生活支援、介護ロボの専門家による説明。動員目標185%
個別展示コーナーでの実演	○	◎	1・2・3 (4) 5	ブース3箇所立ち寄りで記念品交換。動員目標130%
「ふくし」クイズ回答	△	○	(1) 2・3・4・5	子供連れファミリー層を狙い「ふくし」という文字を書いてもらう。目標数92%
商業施設での一般者接触	○	○	1・2・3・4 (5)	来場目標2000人に対し、2226人(111%)。来場者アンケートでも「通りがかり」27%
専門職の一般生活者へのPR	○	○	1・2 (3) 4・5	介護PR隊や施設職員が直接、一般者への説明機会になった。また認知症寸劇などの手法開発
埼玉新聞記事掲載		○	1・2・3・4 (5)	事前案内記事、翌日に開催記事が掲載された。
想定対象へのアンケート調査	◎	◎	1・2・3 (4) 5	アンケート目標数96%+今回のモデル事業検討のために初めて調査分析となった。

評価基準 5 (50%以上) 4 (30~50%) 3 (20~30%) 2 (10~20%) 1 (10%以下)

今後の活動に生かせること

- ・働くに当たっての自分の条件さえ満たせば、介護の仕事に興味をもつ人が多い（42%）ことから、一般に広く介護の仕事の魅力をアピールすることは有効である。
- ・就労していない女性は、賃金や職場までの距離を重視する傾向が強いことから、介護事業所に未経験女性向けの求人を作ってもらうことを提案することも考えられる。
- ・中高年齢層は、就業時間や賃金より職場までの距離や職場の雰囲気重視する傾向が強い。

このため、個々の介護事業所の雰囲気や働いている人の顔が見られるようにすると、興味を引きやすいものとする。

- ・中高年齢層向けに、介護の仕事に興味をもってもらうイベントを開催する際は、「健康運動」に関することを絡めると有効である。（例えば、イベントのプログラムに健康運動の講座や体験を入れる。）

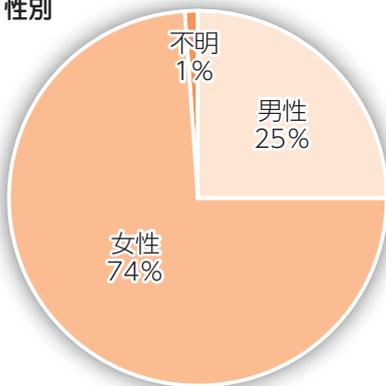
6 アンケート集計／感想

アンケート方法：ステージ参加者を中心にアンケート用紙配布・記入後回収、ブース3箇所の見学の上、記念品と交換。 192名回収

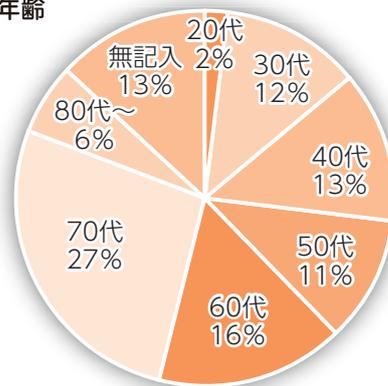
※アンケート表は 43頁【参考 アンケート調査表】参照

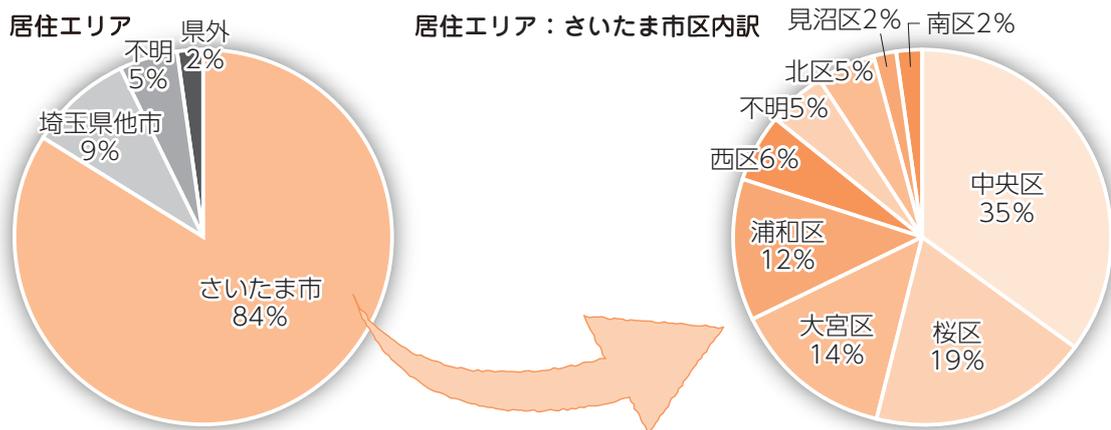
Q0 回答者プロフィール

性別

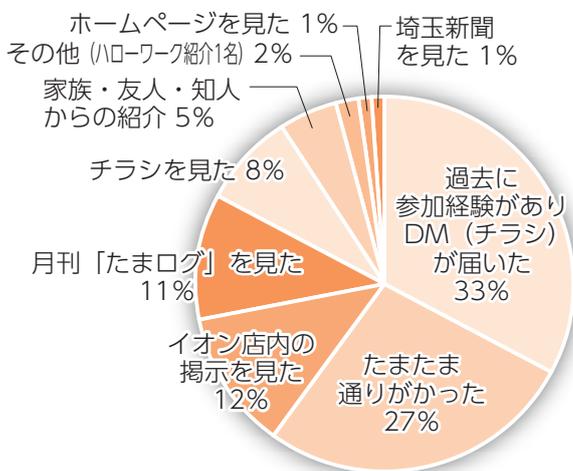


年齢

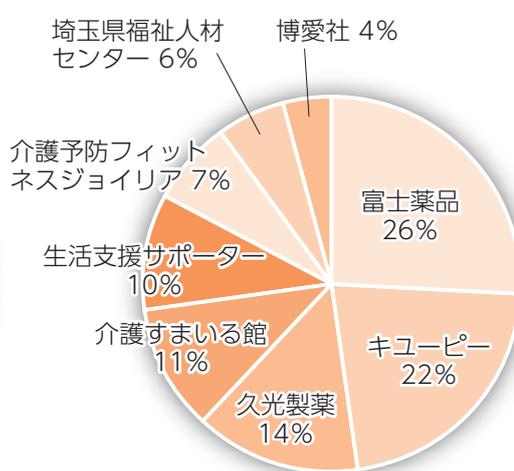




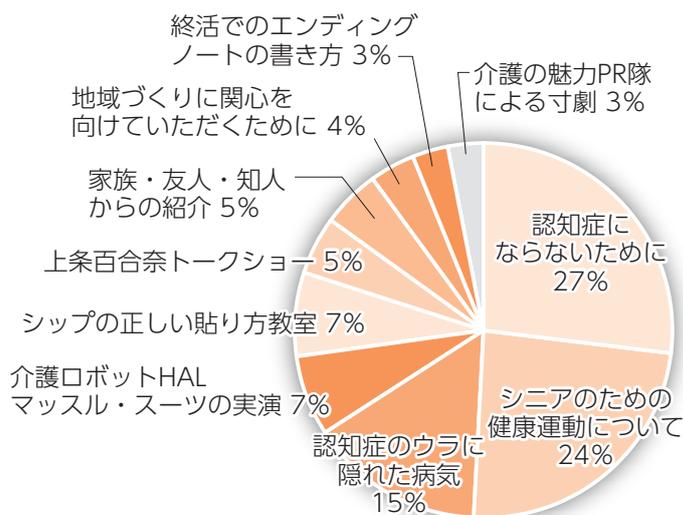
Q1 今回のイベントを何でお知りになりましたか？



Q2 興味をもち、資料を希望される出展社は？



Q3 (セミナーに参加された方) 興味をもったものは？



感想

●全体

- ・色々な事、知らないことを教えていただきありがとうございます。(67歳 無職 女性)
- ・福祉人材センターを今回で知りました。(42歳 会社員 男性)

●上条百里奈トークショー

- ・美人の上条さんの話を聞いて良かったです。(75歳 主婦)
- ・勉強になりました。(52歳 公務員 女性)

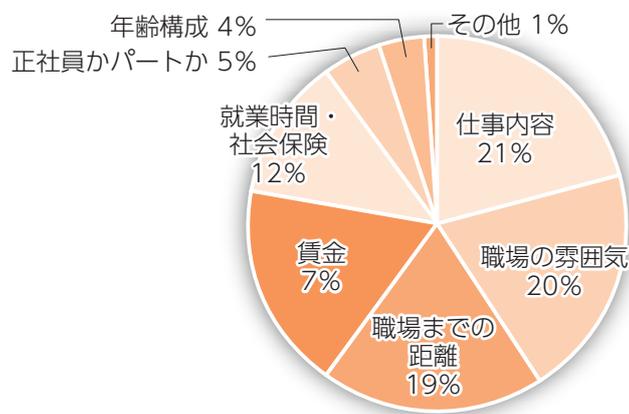
●介護の魅力PR隊寸劇

- ・劇はBad/Goodがあり分かりやすかった。認知症テーマで皆さん興味を持って見ていたと思いました。お客さんと参加型で講義(演)するともっと興味をもってきいていただけたと思います。(不明)

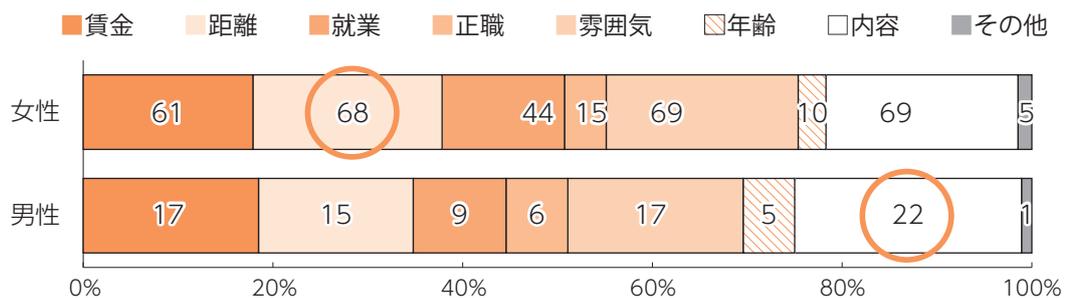
●介護ロボットHAL/マッスル・スーツ

- ・ロボットをつけたのとつけないのでは、ぜんぜん違った。(71歳 無職 女性)
(補足説明:当感想は71歳無職の女性で 介護ロボットの展示ブースにてマッスル・スーツを実際に着用し、10kgほどの荷物を上げ下げした。つけていないときに比べて、力のかけ具合も少なく、腰や腕への負荷もないことに驚いたと話す。この女性の声を聴き、実際に試してみる人が増えた。当女性は、福祉・健康フェアの常連で認知症予防・健康に関心を持って来場している。)

Q4 あなたが働く際に重要だと思う条件は？(複数回答可)

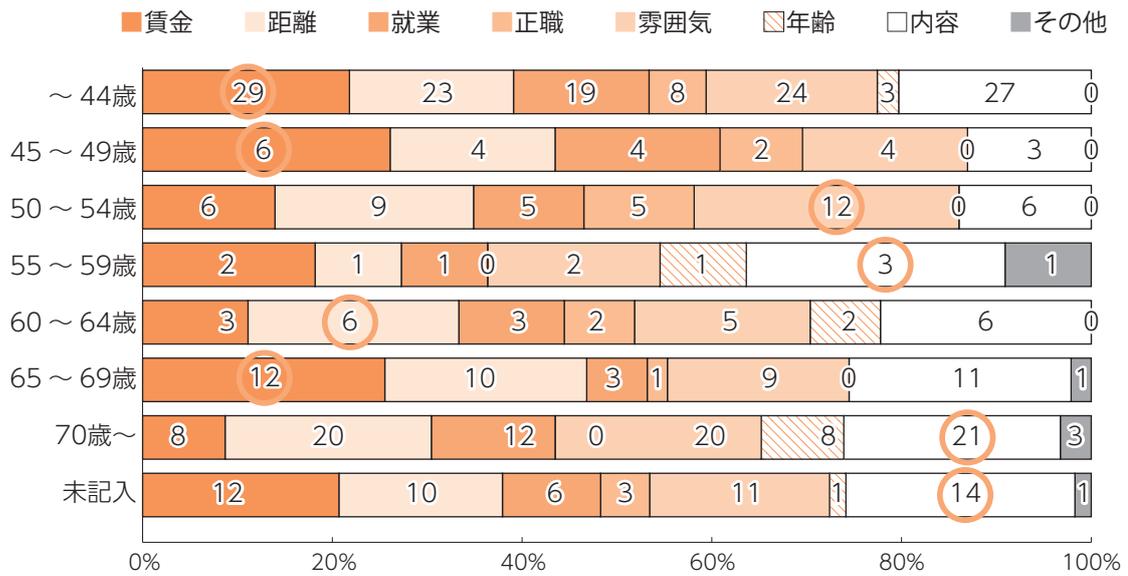


●男女別：働く際に重要だと思う条件は？

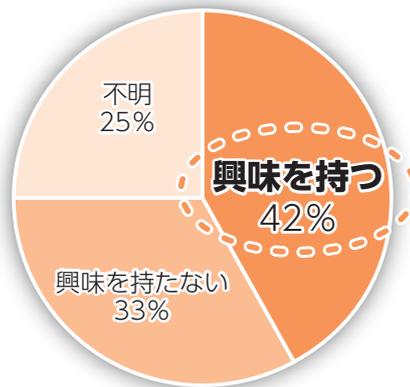


グラフのデータ中の数値は回答数。オレンジ色の丸は該当属性中の最も多い回答。

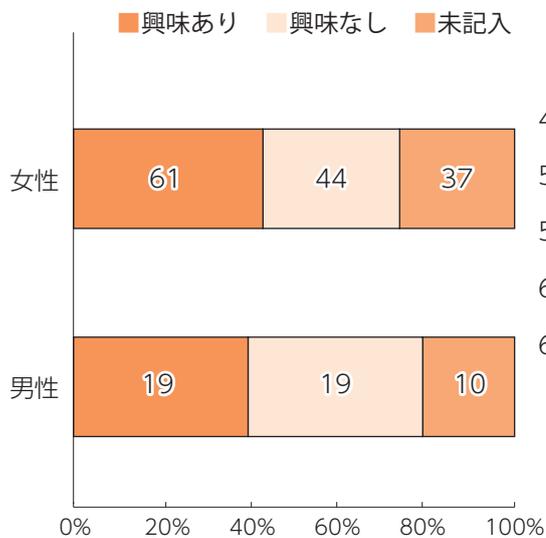
●年齢別：働く際に重要だと思う条件は？



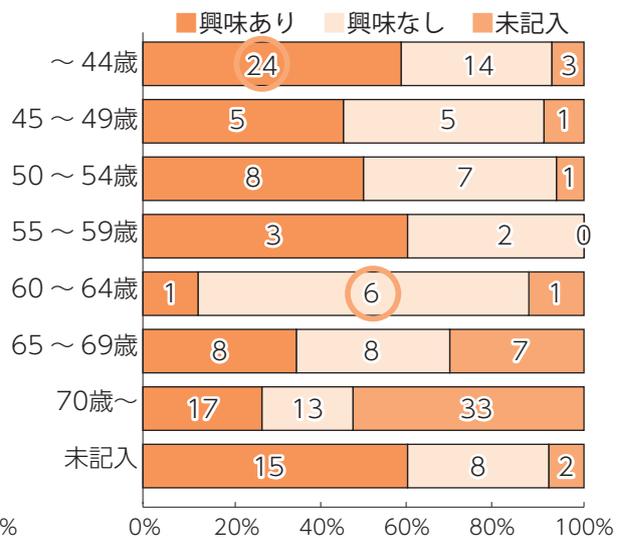
Q5 Q4の条件にあった「介護の仕事」があれば興味（働きたい）をもちますか？



●男女別：興味の有無

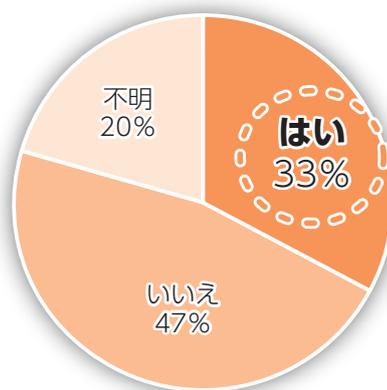


●年齢別：興味の有無

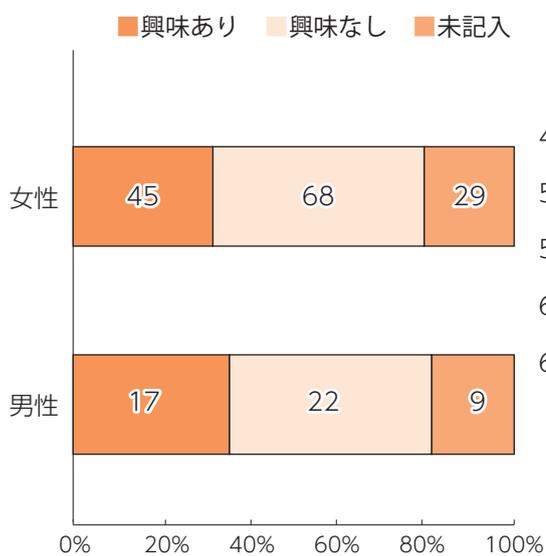


グラフのデータ中の数値は回答数。
オレンジ色の丸は「はい」「知っている」と答えた割合が他の属性と比較して多いもの。

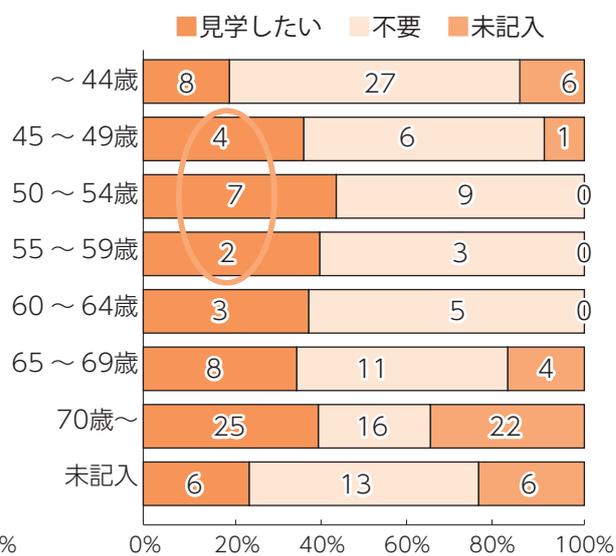
Q 6 近郊の介護施設の職場見学会があれば参加したいですか？



●男女別：興味の有無



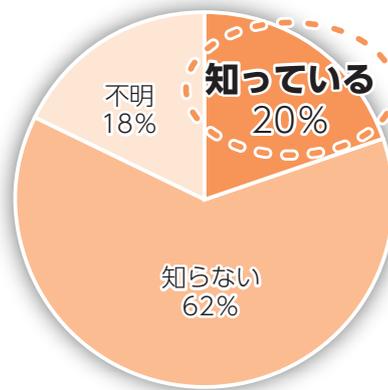
●年齢別：興味の有無



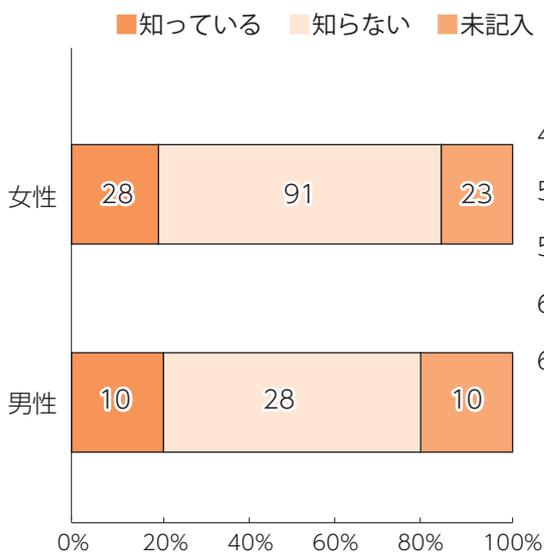
グラフのデータ中の数値は回答数。

オレンジ色の丸は「はい」「知っている」と答えた割合が他の属性と比較して多いもの。

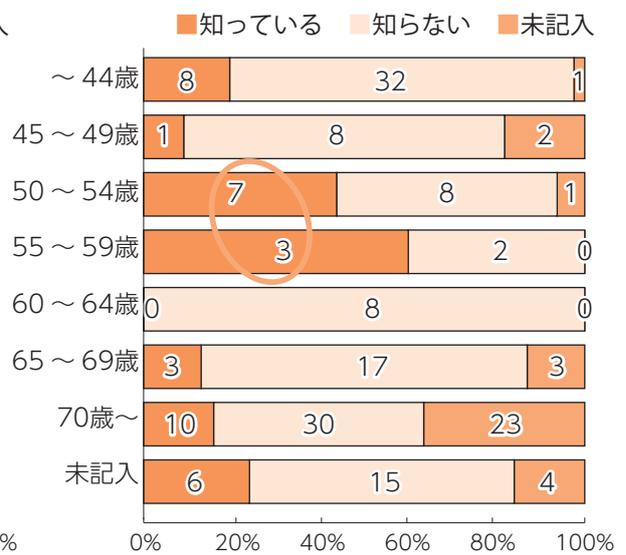
Q7 福祉専門に無料で職業紹介を行う「福祉人材センター」をご存知でしたか？



●男女別：興味の有無



●年齢別：興味の有無



7 広告宣伝 / 記事

●たまログ広告

11月号 広告

あなたは力を介護・福祉の仕事に生かしてみませんか!

実は主婦や中高年が求められています!

将来、利用するかもしれない介護・福祉のサービスや介護機器に今のうちから接してある良い機会にもなります

さまざまな人と出会い仲間の輪(和)がグーンと広がります

パート採用でも正職員雇用がありキャリアを積めば資格取得支援も

週に1回から、1回2時間から近所で少しずつ始められます

子育て経験や豊かな人生経験が介護・福祉の現場ではとても役に立ちます

介護・福祉・健康にもっと楽しみがわく関連イベント開催予定

第9回 健康・福祉フェア

平成29年 **12月10日** ① 11:00~17:00
in イオンモール与野 ① 1階リフトコート

◆ 講師・専門家による講演
◆ 介護の魅力PR際の座談会
◆ モデルとしても活躍する介護士のトークショー
◆ プレゼントがもらえるパネル展示クイズ
◆ 介護・福祉用品の展示
◆ 介護・福祉の仕事相談窓口 など開催予定

イベントの詳細は月刊たまログ12月号(12/1発行)で発表

埼玉県福祉人材センター A

【お問い合わせ】 ☎048-833-8033 月~金 10:00~17:00(年末年始・祝祭日を除く)
〒330-8529 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 影の国すこやかプラザ1階(与野駅西口徒歩約10分)

ハローワーク浦和・就業支援サテライト内福祉人材就職コーナー B

【お問い合わせ】 ☎048-826-5601(代) 月~金 10:00~17:00(年末年始・祝祭日を除く)
〒336-0027 さいたま市南区沼影1-10-1 ラムザタワー 3階(武蔵浦和駅西口徒歩約3分)

発行部数・地域

さいたま市・上尾市 35万部

大宮・上尾版	19万部
浦和版	16万部
内 宅配	31万部
ラック配置	4万部

12月号 広告

健康・生活に役立つ講演・セミナーを開催!

ブースでの生活情報展&専門医師による健診・健康相談コーナー

～さいたま市 生き生きふれあいフェア2017～

第9回 健康・福祉フェア in イオンモール与野

身近な介護・介護予防と健康・介護の仕事

平成29年 **12月10日** ① 11:00~17:00 **参加無料**

介護福祉士業モデルとして活躍 **上条 百里奈 トークショー**

14:30 ~ 14:50

講演・セミナー(すべて予定)

11:30~11:50 シニアのための健康運動について 介護予防アドバイザー 健康運動指導士 藤野 雅夫氏

12:00~12:20 地域づくりに関心を抱いていただくために 生活支援サポーター

13:00~13:20 認知症にならないために ~今日からできる認知症予防~ 介護福祉士会 副会長 藤原 孝 氏 西村 伸子氏

13:30~13:50 認知症のウラに隠れた病気 ~認知症になりやすい隠れ疾患~ さいま病院 内科 藤原 孝氏

14:00~14:20 終活でのエンディングノートの手書き方 株式会社福祉社 終活カウンセラー 藤原 伸子氏

14:30~14:50 介護福祉士業モデルが語る“介護職の魅力” 介護福祉士 上条 百里奈氏

15:00~15:30 認知症に寄り添う介護スタッフによる“あるある寸劇” 介護の魅力が伝わる介護の仕事をサポートするための研修が実施した介護職員

15:40~16:00 薬局の在宅サービスについて 株式会社福祉社

16:10~16:30 シップの正しい貼り方教室 久光製薬株式会社

福祉の仕事・保育の仕事 約30法人が参加

12月5日、春日部で就職相談会開催

参加者全員プレゼント

清涼飲料水、健康・介護食品、健康冊子などがら1つ進呈!

健康・福祉フェア会場は、お申し込みは ☎048-789-6005 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 影の国すこやかプラザ1階(与野駅西口徒歩約10分) mail@tamalog.jp FAX048-789-8510

●事前チラシ(1ヶ月前)

あなたは力を介護・福祉の仕事に生かしてみませんか!

実は主婦や中高年が求められています!

将来、利用するかもしれない介護・福祉のサービスや介護機器に今のうちから接してある良い機会にもなります

さまざまな人と出会い仲間の輪(和)がグーンと広がります

パート採用でも正職員雇用がありキャリアを積めば資格取得支援も

週に1回から、1回2時間から近所で少しずつ始められます

子育て経験や豊かな人生経験が介護・福祉の現場ではとても役に立ちます

介護・福祉・健康にもっと楽しみがわく関連イベント開催予定

第9回 健康・福祉フェア

平成29年 **12月10日** ① 11:00~17:00
in イオンモール与野 ① 1階リフトコート

◆ 講師・専門家による講演
◆ 介護の魅力PR際の座談会
◆ モデルとしても活躍する介護士のトークショー
◆ プレゼントがもらえるパネル展示クイズ
◆ 介護・福祉用品の展示
◆ 介護・福祉の仕事相談窓口 など開催予定

イベントの詳細は月刊たまログ12月号(12/1発行)で発表

埼玉県福祉人材センター A

【お問い合わせ】 ☎048-833-8033 月~金 10:00~17:00(年末年始・祝祭日を除く)
〒330-8529 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 影の国すこやかプラザ1階(与野駅西口徒歩約10分)

ハローワーク浦和・就業支援サテライト内福祉人材就職コーナー B

【お問い合わせ】 ☎048-826-5601(代) 月~金 10:00~17:00(年末年始・祝祭日を除く)
〒336-0027 さいたま市南区沼影1-10-1 ラムザタワー 3階(武蔵浦和駅西口徒歩約3分)

●チラシ・ポスター

表

健康・福祉フェア
～さいたま市 生き生きふれあいフェア2017～
身近な介護・介護予防と健康・介護の仕事

12月10日 11:00～17:00
上条百景園 トークショー

049-789-6005

裏

健康・福祉フェア
12月10日 11:00～17:00
健康・生活に役立つセミナーを開催!

キユーピー株式会社
0120-14-1122

株式会社富士食品
048-644-2146

株式会社博善社
0120-02-1870

久光製薬株式会社
0120-133250

●埼玉新聞記事 12月9日

県央 県東
得意
梨の収穫作業改善
プロレスで防犯呼び掛け

●埼玉新聞記事 12月16日

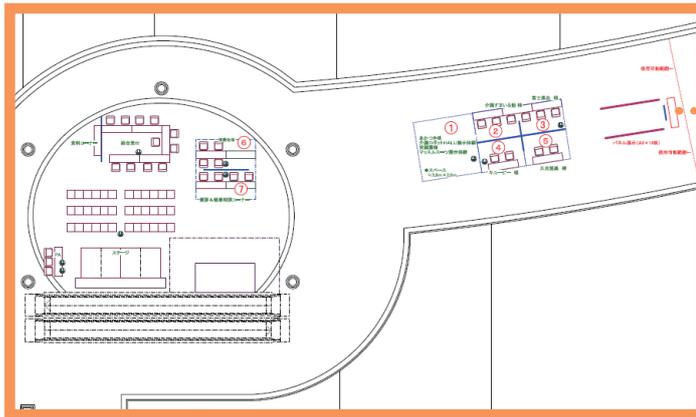
県央 県東
和洋折衷ガラスに触れて
年末特別警戒で出陣式
「家族の絆で詐欺防止」
わが街5オピニオン

8 会場・運営関係

●タイトル看板



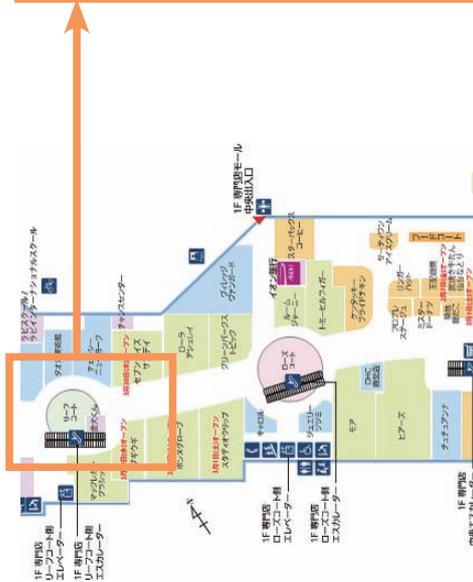
●会場平面図



●クイズパネル



●ステージプログラム



ステージ		
	出演者	内容
8:00	設営準備	
11:00		
11:20	ジョイリハ 健康運動管理士 星野秀斗氏	講演:シニアのための健康運動について
11:50	↓	
12:00	埼玉県社協 地域福祉部 職員	講演:地域づくりに関心を向けていただくために(生活支援サポーター)
12:20	↓	
12:30		
12:50		
13:00	誠信会 専務理事 河西伸子氏	講演:認知症にならないために～今日からできる認知症予防～
13:20	↓	
13:30	かさい医院 河西信勝氏	講演:認知症のウラに隠れた病気～認知症になりやすい基礎疾患～
13:50	あかつき	介護ロボットの実演
↓		
14:00	博愛社 終活カウンセラー 藤崎榮子氏	講演:終活でのエンディングノートの書き方
14:20	安誠園	マッスルスーツの実演
↓		
14:30	上条百里奈氏 介護福祉士兼モデル	トークショー:介護の魅力=介護のしごと・ライフスタイル・求められる人材
14:50	あかつき	介護ロボットHALの実演
15:00	介護の魅力PR隊	介護のしごと"あるある"座談会&認知症がわかる寸劇
15:30	安誠園	マッスル・スーツの実演
15:40	富士薬品	薬局の在宅サービスについて
16:00	↓	
16:10	久光製薬	シップの正しい貼り方教室
16:30	↓	
17:00		

9 フェア参加メンバー

所属		名前	
1		国本	
2	埼玉県社協 福祉人材センター	橋本	
3		龍前	
4		箕田（みだ） 陽助	
5	社会福祉法人 邑元会 特別養護老人ホーム あかつき	成田 大介	
6	社会福祉法人 安誠福祉会 介護老人福祉施設 安誠園	須藤 百合香	
7		金田 拓郎	
8		介護老人保健施設 大宮ナーシング・ピア	本橋 憲太
9	介護の魅力PR隊	特別養護老人ホーム春輝苑	渡邊 美帆
10		愛の家グループホーム さいたま八王子	荒山 愛
11		特別養護老人ホームみずほ苑	太田 遼
12	埼玉県社協	地域活動支援課	山野邊 明美
13		介護すまいる館	佐藤 弘子

10 当日の様様（写真映像）



ステージ



クイズ・パネル展示コーナー



ステージ講演風景（認知症）



パネル展示コーナー風景



上条百里奈さん ステージ



介護の魅力PR隊 認知症寸劇



安誠園 マッスル・スーツ ステージ



あかつき 介護ロボHAL ステージ



生活支援サポーター ステージ



介護ロボ/マッスル・スーツコーナー



すまいる館コーナー



「ふくレクイズ」コーナー



上条さんと介護の魅力PR隊



ステージ鳥瞰

1.1 来場者アンケート分析

「就労していない女性」「中高年齢層」を対象に、介護職への参入促進のための就労意向調査【アンケートについて】

1. アンケート目的

「就労していない女性」「中高年齢層」を対象に、介護職への参入促進のための就労意向条件等の傾向を知る。

2. アンケート方法

商業施設に集まる一般の生活者に向けてアンケートを行い、回収したアンケートの中から「就労していない女性」「中高年齢層」を抽出し、下記の項目で集計分析を行う。

- ① 働く際に大事だと思う条件
- ② ①の条件にあった場合に「介護の仕事」に興味をもつか（働きたいか）
- ③ 介護施設の職場見学への参加意向
- ④ 福祉人材センターの認知度

当調査では

- ・「就労していない女性」は「無職の女性」「主婦」とする
- ・「中高年齢層」は「45歳から69歳の層」とする

3. アンケート実施概要

- ・場 所：イオンモール与野店 第9回健康・福祉フェア 会場
- ・時 間：2017年12月10日（日曜日） 11:00～16:00
- ・方 法：ステージ・ブース見学者（約1,300人）に対しアンケート回答依頼
- ・調査数：A アンケート全数 有効回答数 100件（来場者数に対し8%）
（アンケート回答数192件のうち 20歳以下70歳以上64件省く 重複3件、年齢未記入25件を無効とした）
- B 就労していない女性 有効回答数 64件
（Aのうち女性のみ、職業不明除く）
- C 中高年齢層 有効回答数 100件

参考 70歳以上 62件

アンケート設問

Q4. あなたが働く際に大事だと思う条件は？（複数回答可）			
ア. 賃金	イ. 職場までの距離	ウ. 就業時間・社会保険	エ. 正職員かパートか
オ. 職場の雰囲気	カ. 働くスタッフの年齢構成	キ. 仕事内容	ク. その他()
Q5. 上記の条件にあった「介護の仕事」があれば興味（働きたい）を持ちますか？			
ア. 興味を持つ	イ. 興味を持たない		
Q6. 近郊の介護施設の職場見学会があれば参加したいですか？			
ア. はい	イ. いいえ		
Q7. 福祉専門に無料で職業紹介を行う「福祉人材センター」をご存知でしたか？			
ア. 知っている	イ. 知らない		
お名前		住所 〒	
電話番号 ()		性別 男・女	年齢 歳 ご職業

【アンケート分析の概要】

A アンケート回答者の傾向

- ・働く際に重要だと思う条件は「賃金」「職場の雰囲気」「仕事内容」で全体の60%を占める
- ・条件が合えば47%が「介護の仕事」に関心を示す
- ・回答者の32%が 職場としての施設見学意向がある。数は少ないが男性の意向（37%）が高い
- ・人材センターの認知は21%あった
- ・全体の回答者のうち43%が「主婦」「無職」であった
- ・70歳以上を除くと44歳以下の来場者率が42%あった

B 就労していない女性の傾向

- ・就労していない女性のうち44歳以下は38%、60歳以上は33%で この層が全体の70%近くを占める→ヤング&シニア
- ・就労していない女性の就労条件は「賃金（23%）」「距離（21%）」「雰囲気（19%）」が63%を占める
- ・そのうち条件が合えば46%の女性が就業に関心をもち
- ・人材センターの認知は全体平均より2%高い
- ・就労していない女性のうち主婦層は44歳以下が一番多い、無職は65歳以上が多い
- ・主婦層の就業条件では「正職員かパートか」の割合が高い
- ・無職の就業条件では「職場の雰囲気」「年齢」の割合が高い

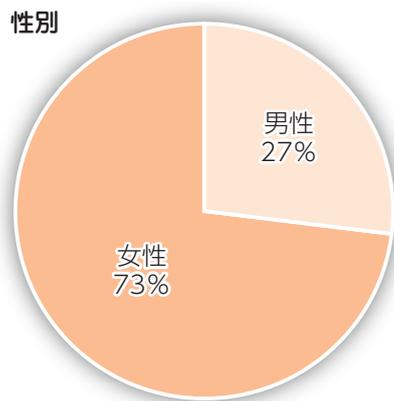
C 中高年齢層の傾向

- ・「就業時間・社会保険」「賃金」について44歳以下よりも条件が緩くなっている
- ・「職場までの距離」「職場の雰囲気」についての条件が高い
- ・働く条件がなかった場合の就労意欲（41％）は44歳以下（56％）に比べて低い
- ・中高年齢層の人材センター認知（23％）は平均（21％）

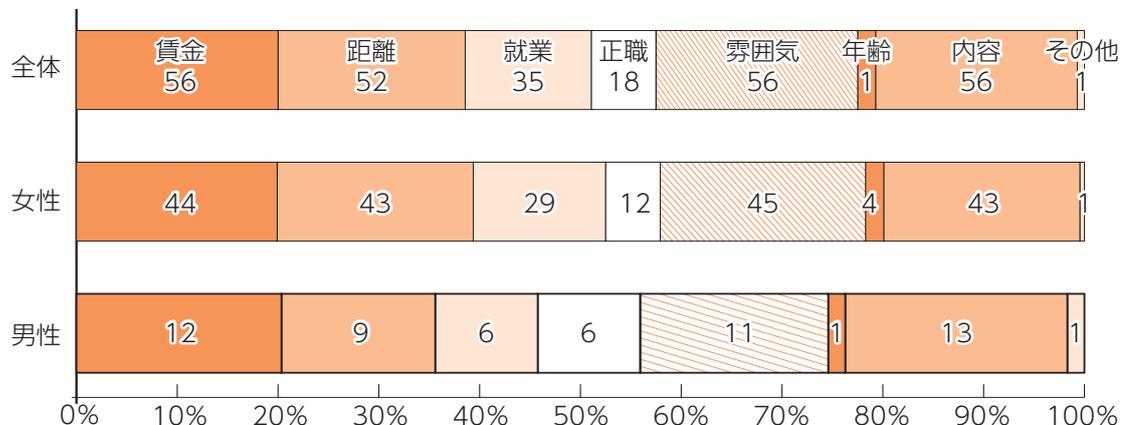
◎ まとめ

- ・福祉・健康フェアに来場した「就労していない女性」「中高年齢層」は「賃金」「距離」「雰囲気」に関心が高いことから、この層に向けてのアピールを研究することで、未開拓の人材を「介護」の領域に取り込める可能性がある。
- ・60歳以上の高年齢層（シニア層）の元気な集団を介護の現場に誘導することで 介護人材確保だけでなく介護予防にもつながる運動を推し進めることができる。

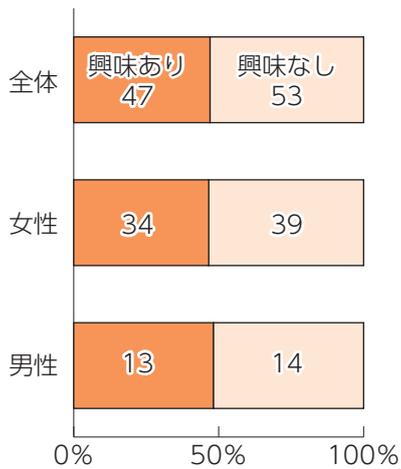
【A アンケート回答者の傾向】 有効数100件



1. 働く際に大事だと思う条件

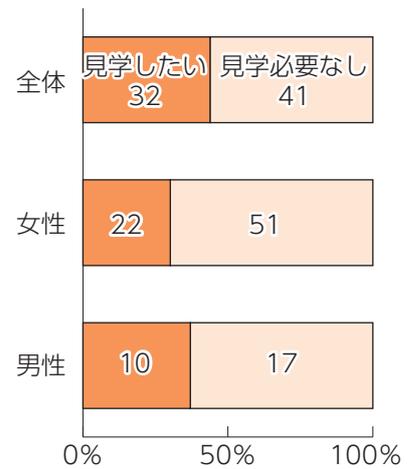


2. 1. の条件があった場合「介護の仕事」に興味は



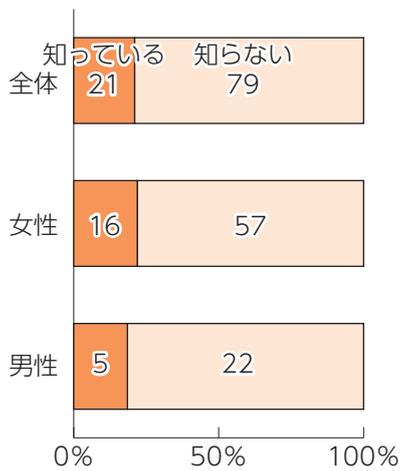
条件が合えば半数が働いても良い

3. 施設見学意向



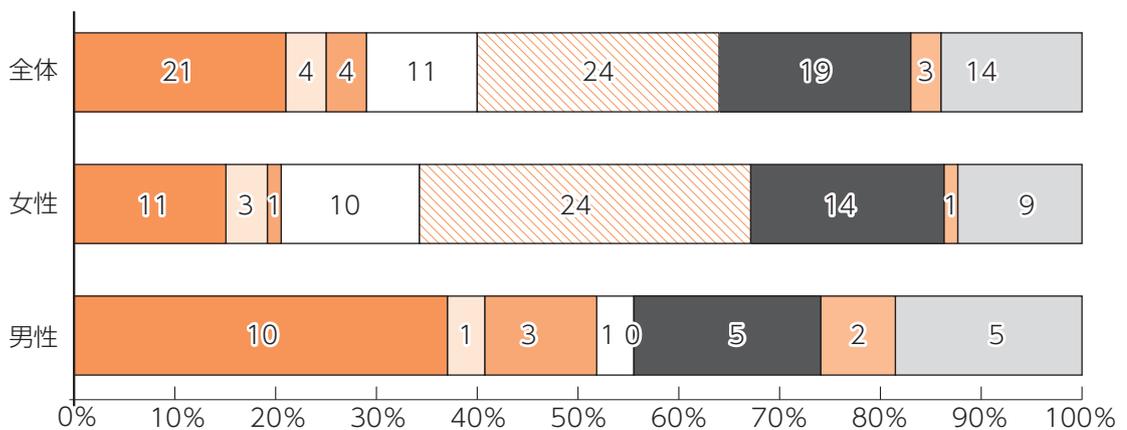
見学意向は高い44%

4. 人材センター認知

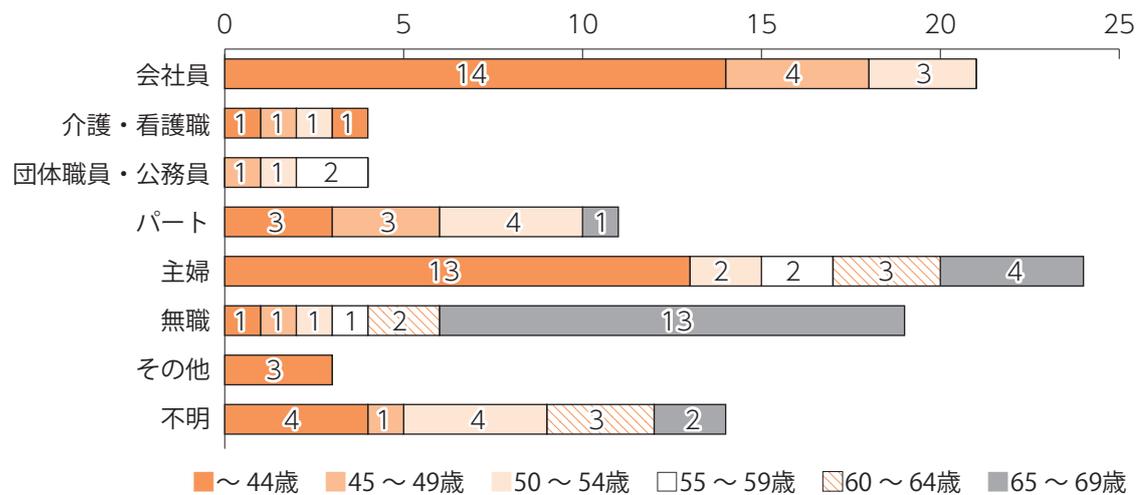


5. 性別と職業 … 無職は男女同率、主婦の来場が女性内33%を占める

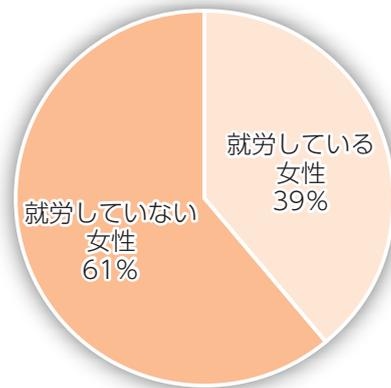
■会社員 ■介護・看護職 ■団体職員・公務員 □パート ▨主婦 ■無職 ■その他 ■不明



6. 職業と年代 … 44歳以下の来場割合が高い（42%）



【B 就労していない女性の傾向】 有効数64件



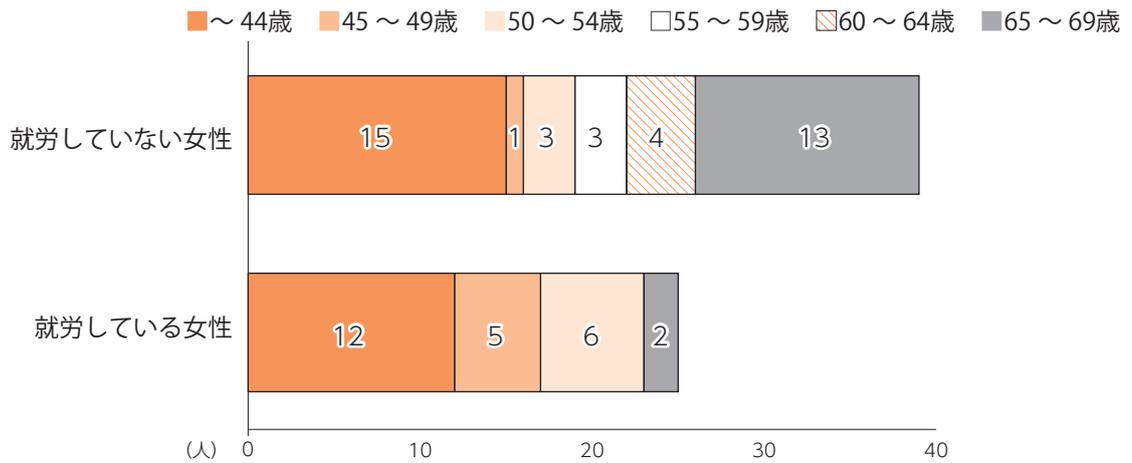
就労していない女性は

- ・ 年齢 44歳以下（38%）、60歳以上（43%）を占める
- ・ 就労している女性に比べ、働く際に大事なことは「賃金」「距離」が高い、「正職員」にこだわらない
- ・ 条件次第で働く意思がある女性は半分近い
- ・ 無職と主婦層の就労の条件は「仕事の内容」「年齢」で差がある

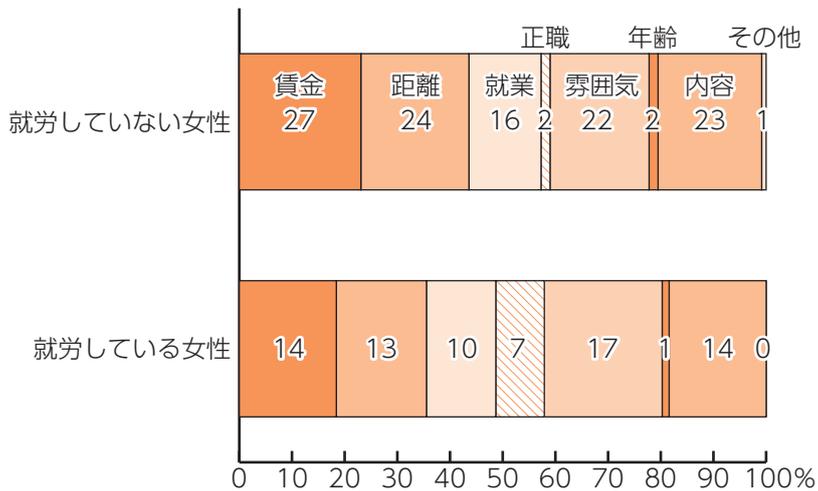
その他

- ・ 人材センターの認知は「主婦層」で低い
- ・ 正職員での条件次第では転職意向はある（44歳以下が多いことが要因？）
- ・ 無職の施設見学希望の割合が高い（高年齢なので利用者として関心が高いのか？）

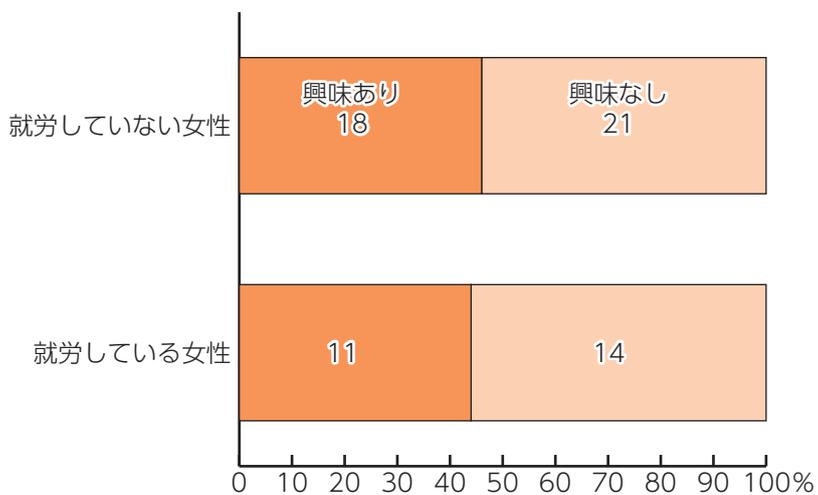
1. 年齢



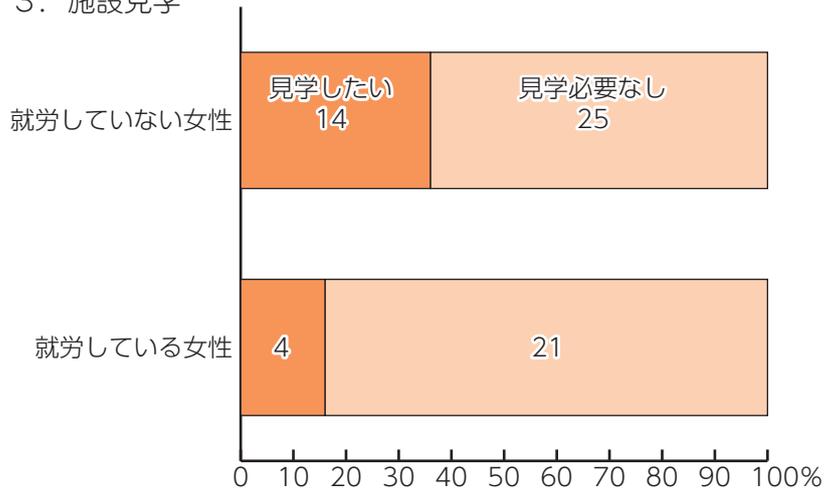
2. 働く際に大事だと思う条件



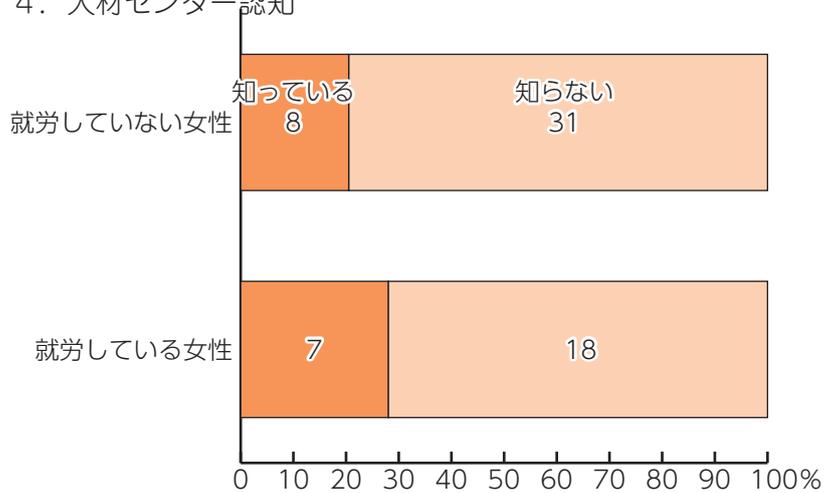
2-1. 2. の条件次第で介護の仕事に



3. 施設見学

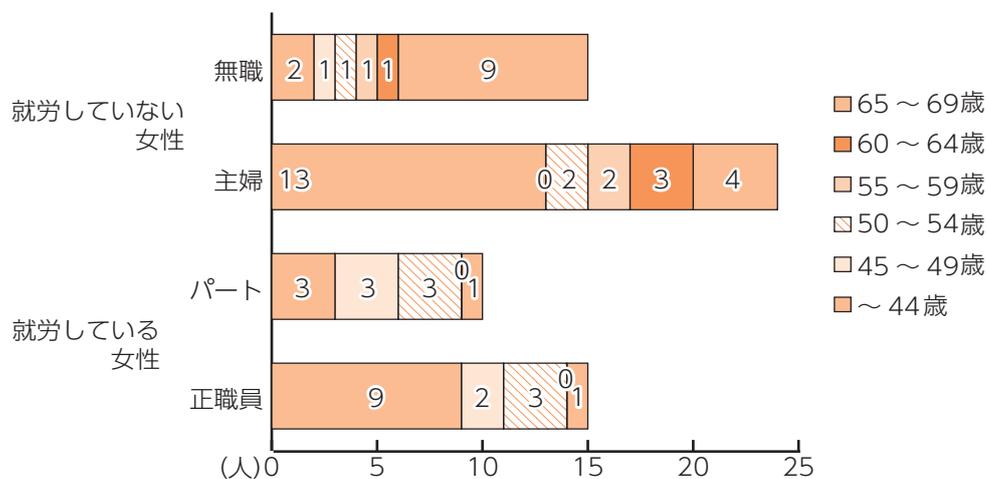


4. 人材センター認知

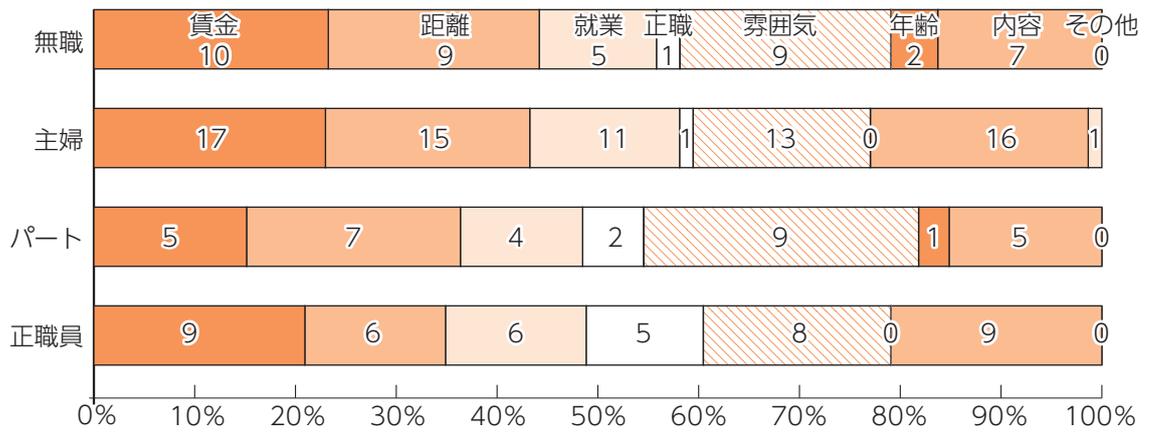


【1. の詳細 就労していない（無職・主婦）、就労している（パート・正職員）女性】

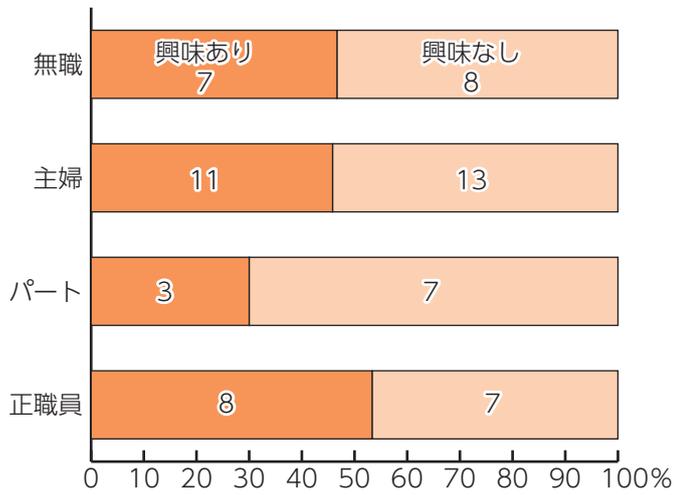
1. 年齢



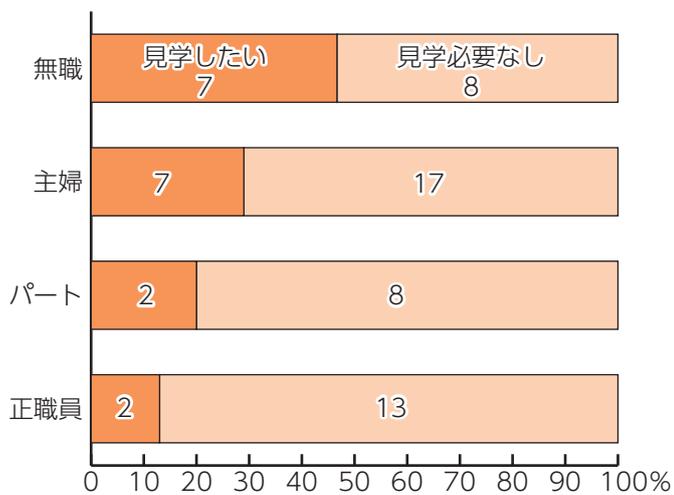
2. 働く際に大事だと思う条件



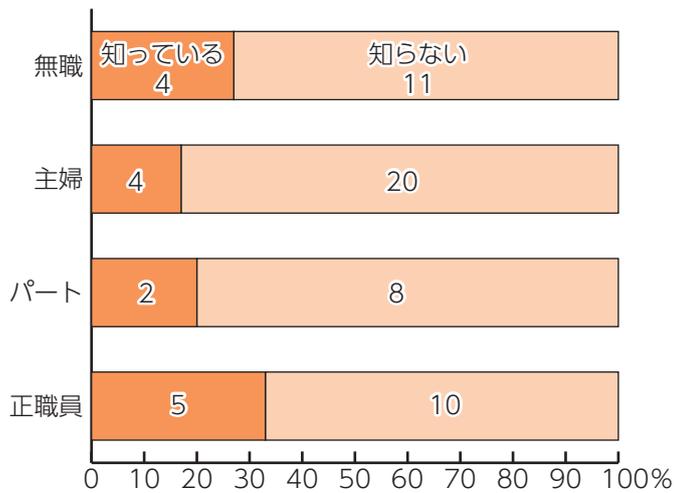
2-1. 2. の条件次第で介護の仕事に



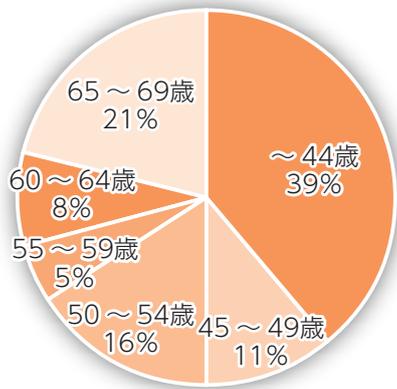
3. 施設見学



4. 人材センター認知



【C 中高年齢層の傾向】 有効数100件



中高年齢層（45歳～69歳）は44歳以下の年齢層に比べて

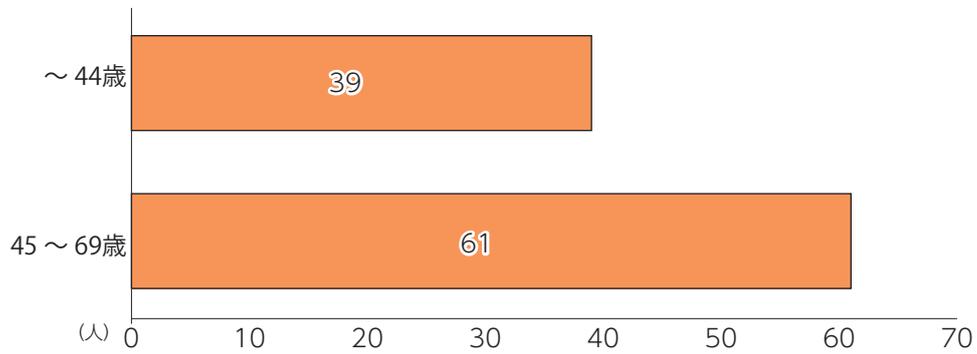
- ・「賃金」「就業時間・社会保険」について働く際の条件として緩くなっている
- ・「職場までの距離」「職場の雰囲気」について関心が高い
- ・働く条件がなかった場合の就労意思は44歳以下に比べて低い
- ・一方で職場見学の意向は高い
- ・中高年齢層の人材センター認知（23%）は平均（21%）

年齢層別の傾向

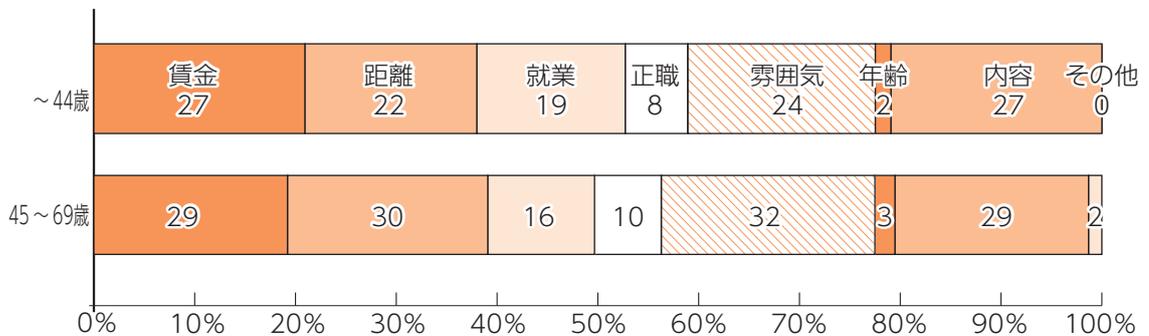
- ・50～54歳の傾向が全体傾向に相似している
- ・働くスタッフの「年齢」構成に関心があるのは55歳～64歳
- ・50歳から59歳層が好奇心が強い

1. 44歳以下との比較

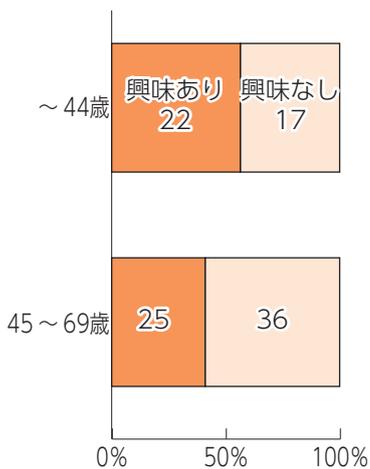
(1) 年齢



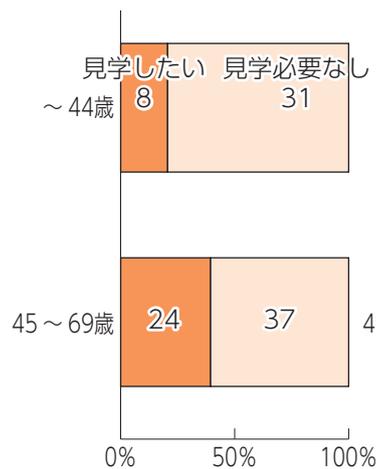
(2) 働く際に大事だと思う条件



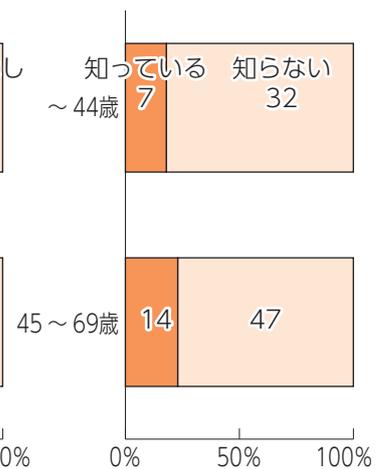
2-1. 1-(2)の条件次第で介護の仕事に



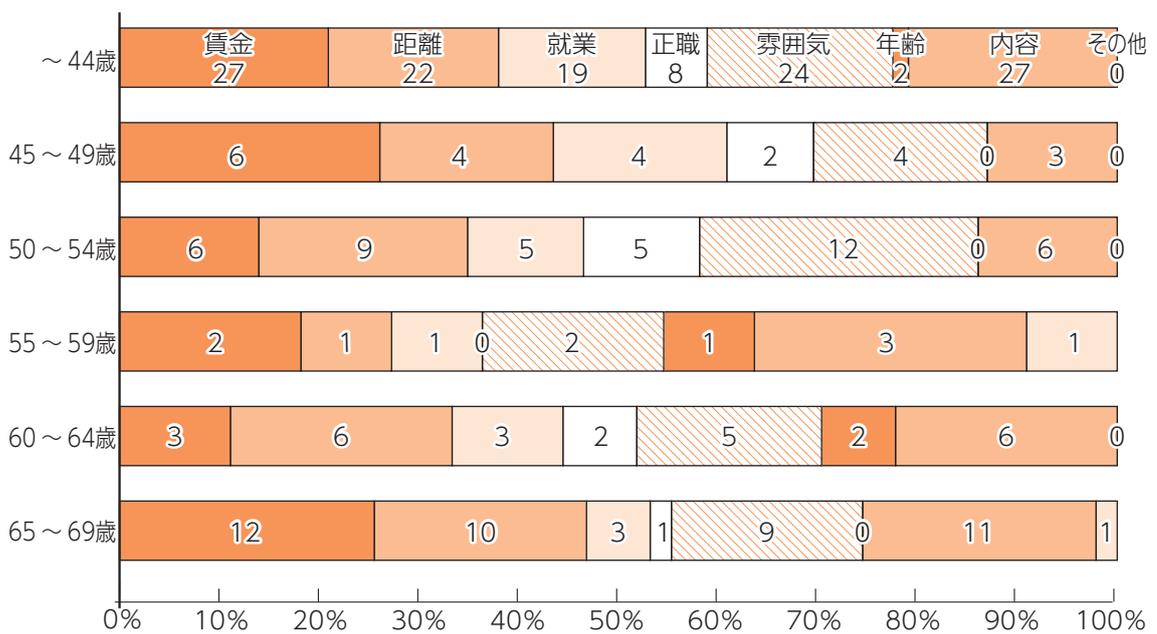
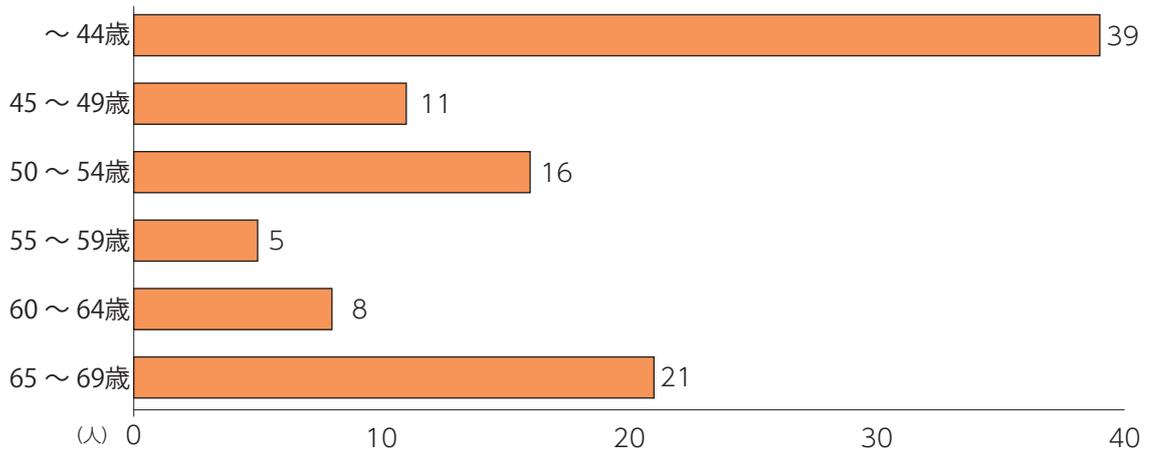
3. 施設見学



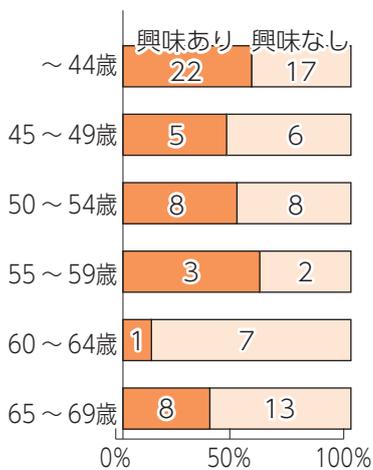
4. 人材センター認知



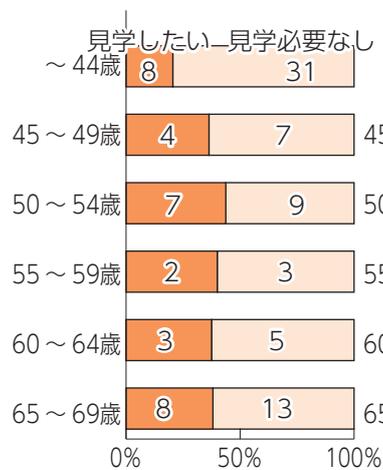
2. 年齢層別の傾向



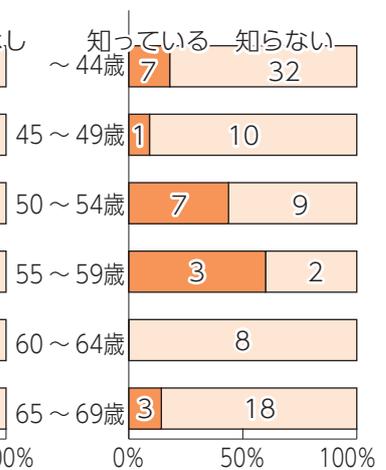
2-1. 2の条件次第で介護の仕事に



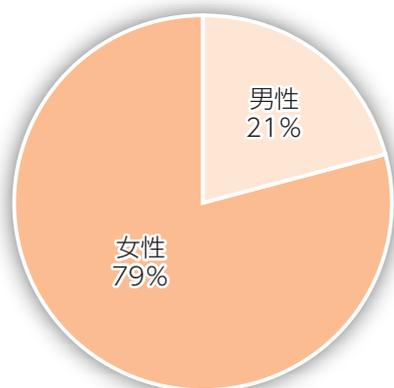
3. 施設見学



4. 人材センター認知

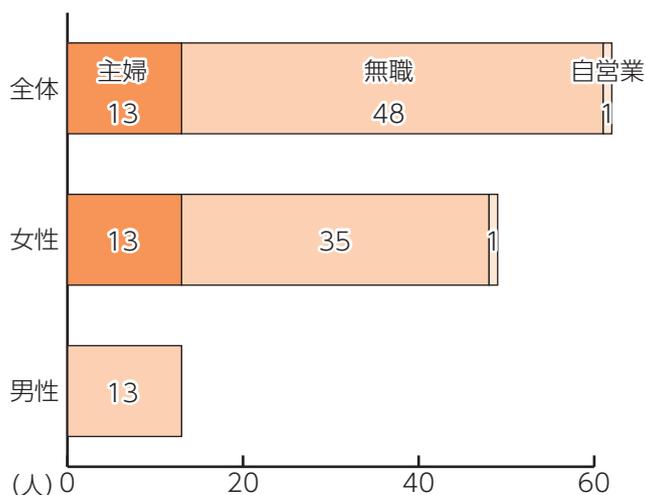


【参考 70歳以上の回答者傾向】 有効数62件

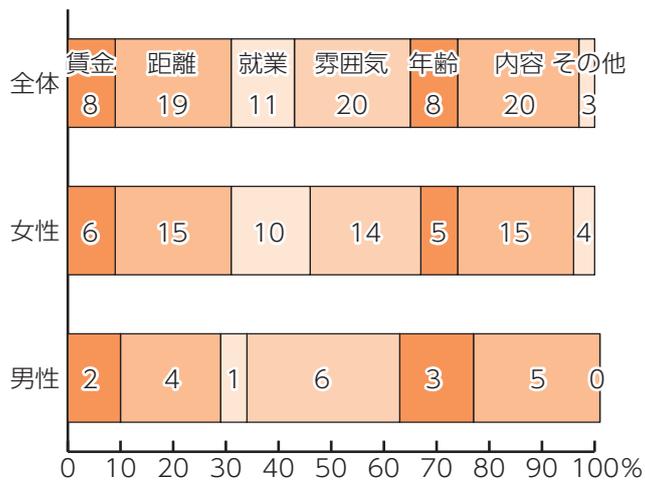


- ・ ほぼ全員が無職（内 主婦は21%）
- ・ 働く際に大事だと思う条件では A全体傾向に比較して「賃金」が低く、「年齢」が高い
 - 「賃金」よりも「職場の雰囲気」や「仕儀の内容」のウエイトが高い
 - 「働くスタッフの年齢構成」を気にしている。また「正職員かパート」はゼロ回答
- ・ 働く条件がかなっても「介護の仕事」に興味（働きたい）がある割合は27%（A全体傾向では 74%）
 - 「働きたい」という意思是少ない
- ・ 施設見学意思是、40%で全体傾向（44%）の近い
- ・ 人材センターの認知は、14%で全体傾向（21%）に比べ少ない
- ＊ 来場者アンケートでは70歳以上の来場者が33%を占めることから、元気なシニア層の存在には注目したい。年金生活+新たな就労という新しい生活スタイルが、本人の介護予防や、介護援助スタッフの増員に結びつく可能性がある

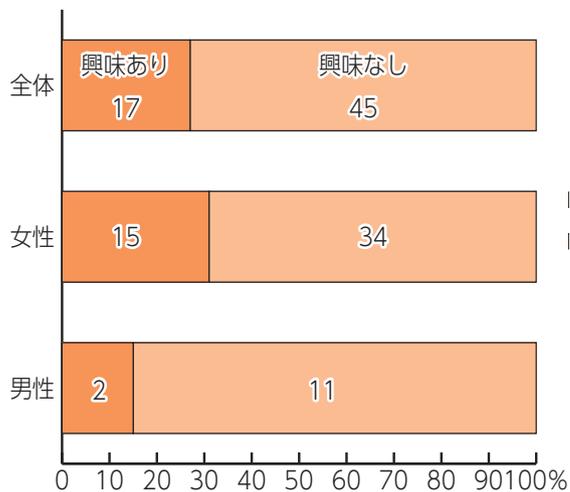
1. 職業



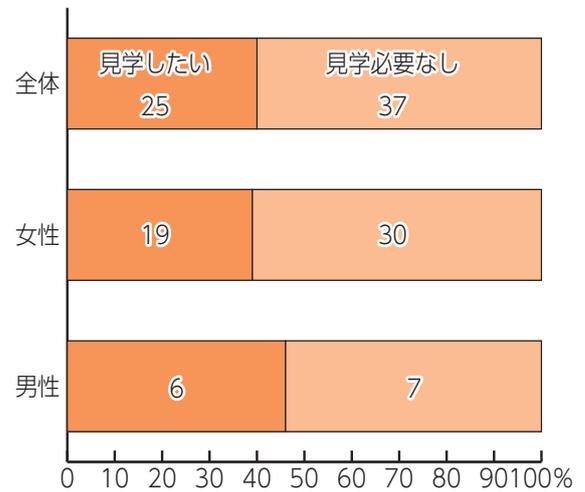
2. 働く際に大事だと思う条件



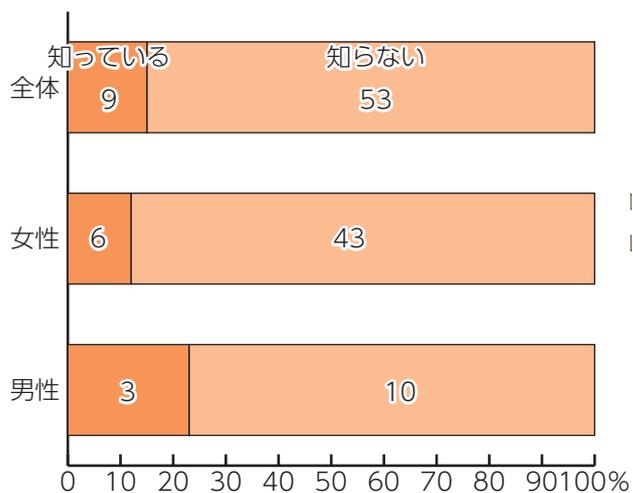
2-1. 2. の条件次第で介護の仕事に



3. 施設見学



4. 人材センター認知



III

福祉・介護のしごと はじめましてセミナー

(海老名・藤沢)

かながわ福祉人材センター

1 事業実施状況

かながわ福祉人材センターでは、本モデル事業での取り組みを企画する際、同時期に広く県民を対象とした介護をテーマとしたイベントが計画されていることや、複数の市域・広域でいわゆる施設見学などのバスツアーを企画されていることから、次の点を考慮した具体的な個別の就労支援につなげていける「セミナー」を、県内2か所で開催することとした。

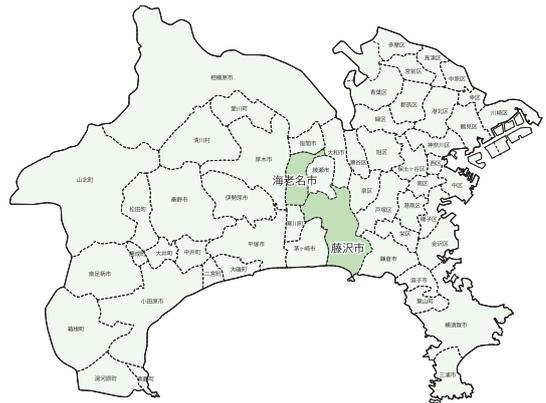
(1) セミナーの開催対象・地域について

- ①対象は、福祉・介護の仕事に限らず、何らかの形で就労したいと考えている概ね40歳以上の人
- ②開催地域は、福祉人材センターがある横浜市ではなく、主要鉄道が複数乗り入れているターミナル駅があり、神奈川県を内陸部と、海側に分けて設定した。

11月：海老名市、12月：藤沢市

※各地域エリアの特徴

高齢化率は海老名23.4%、藤沢23.5%で（市部では三浦が34.7%で最も高い）高齢化率が高いエリアではないが、今後ますます少子高齢化が進み、高齢者夫婦世帯や単身世帯が増加していき、介護サービスへのニーズが一層高まっていくと予想される。また、セミナー対象等の年齢層（稼働層）も多い地域と言える。



(2) プログラムの設定

- ①両地域ともに同一のものとするが、プログラム内の「先輩からのメッセージ」は、同一地域圏内の高齢者福祉及び障害者福祉施設・事業所から該当者に依頼するものとした。
- ②「先輩からのメッセージ」を推薦いただく福祉施設・事業所は、本セミナーと同一地域で本所が開催する「合同就職相談会」の参加申し込み時に、中高年齢層の職員採用について実績があると回答したところから選出、依頼した。
- ③福祉人材センターの他の事業との連携を視野に入れ、3段階とし、本モデル事業である「セミナー」はその最初の第1歩として位置付けた。

＜セミナーのプログラム＞

13:30~14:00	受付
14:00~14:05	講師紹介・オリエンテーション
14:05~14:20	講義「福祉の仕事の基礎知識」キャリア支援専門員 ○福祉の仕事の種類 ○求人票の見方、実例・仕事探しのポイント
14:20~15:10 (各25分)	講義「経験がなくてもできる 福祉・介護の仕事」 ○ゲストスピーカー（高齢分野） ○ゲストスピーカー（障害分野）
15:10~15:15	休憩
15:15~15:45	懇談
15:45~16:00	就職活動の案内・アンケート 施設見学申込み・求職登録等

※福祉人材センター事業も含めた「3段階」でのプログラムは、下欄の“チラシ”を参照ください。

(3) 申込者及び参加者

- ①海老名市域： 申込者 10 人、 当日参加者 4 人
 ②藤沢市域： 申込者 32 人、 当日参加者 27 人

※申込状況及び、当日参加者の状況などは51頁の5 アンケート集計結果 のとおり。

(4) 各セミナー開催の周知広報の状況

①地元関係機関・団体への協力依頼

○市社会福祉協議会登録ボランティア団体、介護関係研修受講者へのチラシ配布

○コミュニティセンター、地域包括支援センター、子育て支援拠点等でのチラシ掲示・配布

(海老名では大型スーパー、福祉施設の地域交流拠点、ともしびショップ、JAなどにも依頼)

○近隣ハローワークでのチラシ配布

②福祉人材センターからの広報

○チラシ新聞折込み（朝日・神奈川）、ラジオCM（FM横浜）、タウンニュースなど

○福祉人材センター求職登録者（公開情報希望者のみ）などへの案内

○本会及び福祉人材センター単独ホームページへの掲載

<チラシ新聞折込み>

・海老名市内 10月14日（土）朝日 6,950部、神奈川2,650部

・藤沢市内 11月11日（土）朝日39,950部、神奈川7,300部

<ラジオCM>

・10月25日（水） FM横浜 Lovely Day 9:55から60秒

・11月14日（火） FM横浜 Lovely Day 9:55から60秒

<タウンニュース>

・海老名版 10月20日（金） 外面7cm×2段6.5cm 27,850部

・藤沢版 11月10日（金） 外面7cm×2段6.5cm 98,350部

海老名セミナー ラジオ生CM原稿

神奈川県社会福祉協議会の「かながわ福祉人材センター」では、福祉・介護の分野で働きたい方と働き手を求めている福祉施設などを結びつける無料職業紹介事業のほか、福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を伝え、必要な情報を提供するなど、様々な取り組みを行っています。

今回は11月1日の水曜日、午後2時から海老名市総合福祉会館で開催する「福祉・介護のしごと はじめましてセミナー」を紹介します。子育てや介護の合間の時間を活かしたい方など、概ね40歳以上の方で福祉・介護の仕事に関心があれば経験がなくても参加できます。近隣の福祉施設で働く職員の方の体験談を聞きながら、自分の働き方を考えていただきます。

詳しくは「かながわ福祉人材センター」ホームページを検索してください。電話番号は045-312-4816、045-312-4816です。

藤沢セミナー ラジオ生CM原稿

神奈川県社会福祉協議会の「かながわ福祉人材センター」では、福祉・介護の分野で働きたい方と働き手を求めている福祉施設などを結びつける無料職業紹介事業のほか、福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を伝え、必要な情報を提供するなど、様々な取り組みを行っています。

今回は12月1日の金曜日、午後2時から藤沢商工会議所ミナパークで開催する「福祉・介護のしごと はじめましてセミナー」を紹介します。子育てや介護の合間の時間を活かしたい方など、概ね40歳以上の方で福祉・介護の仕事に関心があれば経験がなくても参加できます。近隣の福祉施設で働く職員の方の体験談を聞きながら、自分の働き方を考えていただきます。

詳しくは「かながわ福祉人材センター」ホームページを検索してください。電話番号は045-312-4816、045-312-4816です。

2 成果・発見

(1) 周知方法（アプローチの手法）

①第1回海老名市域開催

基本的な地域特性の違いはあるとしても、1回目の海老名市域では参加申し込み時に、セミナーを知った方法や年齢を把握せずに参加受付を行った。そのため、どのような周知方法でセミナー開催を知ったかどうかなどについては、参加者アンケートでの把握となった。

しかし、申込受付の日付から推察すると、申し込んだが当日不参加となった方の多くが、「タウンニュース」掲載日の直後であることから、タウン誌による広報も一定の成果があるといえる。しかし、結果として、ハローワークや福祉人材センターで個別相談などにかかわっている人のみの参加となった。

②第2回藤沢市域開催

第1回の反省点を踏まえて、広報・周知時に参加対象を中高年齢層に絞って案内し、同一下車駅にあるハローワーク藤沢や市社協などでの案内チラシの配架にも力点を置いたほか、タウンニュースなどの掲載日も一定の工夫をした。

その結果、開催地域住民の参加が多く、福祉人材センターのことを知らず、本セミナーで初めて知ったという人も参加者の60%いた。

(2) 評価

アプローチの手法	評価	評価の理由とコメント
チラシ	1 2 ③ 4 5	海老名は対象が明確でなかったことから、参加申込が少なかったと考えられる。藤沢では対象を明確にしたことで参加申込が伸びたと考えられる。
ホームページ	1 2 ③ 4 5	ホームページを見ての参加申込もあったことから、福祉・介護の仕事に関心のある中高年齢層もホームページを閲覧していることがうかがわれる。
ミニセミナー、相談会等各種事業	1 2 3 ④ 5	ミニセミナーや相談会などの事業に参加したことをきっかけとして申込んだ方については、ほぼ確実な参加が得られている。
福祉人材センター、ハローワーク等での個別相談	1 2 3 ④ 5	福祉人材センター、ハローワークなどでの個別相談をきっかけとして申込んだ方については、ほぼ確実な参加が得られている。
友人・知人等の口コミ	1 2 ③ 4 5	同じセミナーなどへの参加をきっかけとした口コミが少なからず存在している。地域開催では口コミにつながる周知を考えていく必要がある。
コミュニティーセンター、地域包括支援センター、子育て支援等地域交流拠点でのチラシ掲示・配布	1 2 ③ 4 5	海老名では大型スーパーや福祉施設地域交流拠点、ともしびショップ、JAなどを試している。直接的な効果は得られていないが、藤沢ではアンケートに、身内が入所という記載も見られる。地域交流拠点の活用の仕方が課題である。
チラシ新聞折込み	1 2 3 ④ 5	海老名と藤沢で、折込み部数に大きな差があるが、アプローチ手段の1つとしては効果が認められた。
タウンニュース	1 2 3 ④ 5	海老名と藤沢で配布部数に差があるが、アプローチ手段の1つとして効果が認められた。

ミニコミ紙「リベルタ」 (11/1 海老名のみ)	1 ② 3 4 5	市内全戸配布であるが、海老名では効果が得られなかった。様々なミニコミ紙があるなかで、購読者層などを調べて選択する必要がある。
ラジオ生CM	1 2 ③ 4 5	一定のリスナーがいるものと思われるが、アンケートでラジオを選んだ参加者はいなかった。事前申込のイベント案内では、複数日告知することで効果が得られるものと考えられる。

3 失敗・反省点

第1回目の海老名市域では、同時期（1か月以内）に介護・福祉関係のセミナー・ガイダンスなどが本会だけでも4回あり、このほかハローワークの「介護デイ」の対応など実施しており、対象などはそれぞれ異なるものの参加者が散逸してしまった部分もみられる。そのため、今回は一定の時期での開催のため、主要交通網を中心に開催場所を設定したが、今後に向けては、開催時期を他機関・団体の状況も含め、設定する必要があると改めて確認した。

2地域で同様の周知のためのアプローチを行ったが、エリアによって大きな差が出た。

両市域とも、横浜駅から電車で30分の距離があるが、藤沢市域は横浜に隣接している地域であることや、当該市行政や市社協も福祉・介護関係のセミナーなどを同時期に多く開催していることから参加状況が不可視であったが、定員を上回る参加申込者があった。

海老名市は本県の中では比較的高齢化率が低いことなどから、中高年齢層のセカンドキャリアや子育て終了後の女性層で新たな就労を希望するなかでは、福祉・介護分野の関心は今後の課題となっている状況のようにも考えられた。

また、両セミナーで新たに、求職者登録をされた人が6人（事前に登録済者8人を除く）であり、実際の見学・職場体験につながった件数は1件のみで、地域展開の合同就職相談会への参加者も4人とどまった。

< 「セミナー」から他の就職支援事業への参加状況など（平成29年12月末現在） >

①第1回海老名市域開催	参加者 4人	→ 新規求職者登録 1人
ア) 見学・職場体験につながった件数		<u>1</u> 件
イ) 合同就職相談会や個別相談につながった件数		<u>1</u> 件
②第2回藤沢市域開催	参加者 27人	→ 新規求職者登録 5人
ア) 見学・職場体験につながった件数		0 件
イ) 合同就職相談会や個別相談につながった件数		<u>3</u> 件



11月1日 海老名会場 講師を囲んで懇談

4 今後の活動に生かせること

いわゆる“アクティブシニア”層への介護人材としての働きかけについては、さまざまなアプローチが現在も行われているが、同一年齢層でも個人差が大きい状況があり、求人情報などさまざまな分野や業務内容、職員育成、新任指導状況の情報があることなどのPRを行う。

2セミナー参加者で前向きな反応をされた人でも一定の時間がたつと次の相談会などへの参加が億劫になる場合もあると考えられるので、“熱”が冷めないタイミングでの相談会との同時開催などの工夫も必要と考える。

5 アンケート集計結果

(1) 福祉・介護のしごと はじめましてセミナーin海老名（中高年齢層向け）

参加者数	4
アンケート回収数	4

事前申込 10
開催日：平成29年11月1日(水)
(横浜4、相模原1、海老名2、大和1、秦野1、愛川1)

	年齢	男性	女性	性別無回答	男性割合	女性割合
1	40代	0	0		0.0%	0.0%
2	50代	2	2		50.0%	50.0%
3	60代以上	0	0		0.0%	0.0%
4	無回答	0	0		0.0%	0.0%
	合計	2	2		50.0%	50.0%

	属性	男性	女性	性別不明	男性割合	女性割合
1	一般 福祉分野以外に就労	0	0		0.0%	0.0%
2	求職中	2	2		50.0%	50.0%
3	その他	0	0		0.0%	0.0%
	合計	2	2		50.0%	50.0%

●お住まい

横浜市	2
相模原市	1
秦野市	0
厚木市	0
大和市	1
海老名市	0
無回答	0
合計	4

●周知方法 ※複数回答可

①福祉人材センターのホームページ	1
②福祉人材センターの各種事業	1
③ちらし	2
④個別相談	2
⑤福祉人材センターからのダイレクトメール	0
⑥ちらし新聞折込み・タウンニュース・FMヨコハマ	0
⑦友人・知人から聞いて	0
⑧その他	0
合計	6

＜福祉人材センター各種事業内訳＞	
ミニセミナー	0
フェア	1
その他	0
無回答	0
＜ちらし内訳＞	
福祉人材センター	0
ハローワーク	2
社会福祉協議会	0
その他	0
無回答	0
＜個別相談内訳＞	
福祉人材センター	1
ハローワーク	1
その他	0
無回答	0

●参加動機(※該当するもの1つ)

①	福祉・介護分野の仕事に就職を希望しているから	2
②	福祉・介護分野に興味関心があり、就職を検討しているから	2
③	福祉・介護分野の仕事への就職は考えていないが、興味関心があるから	0
④	その他	0
合計		4

●聞きたかったこと ※複数回答可

①	就職活動体験談	2
②	仕事の内容・職種	2
③	労働環境（給料・シフト・休日など）	0
④	やりがい・魅力	1
⑤	資格取得	0
⑥	その他	0
合計		5

●福祉人材センターを知っていましたか。

①	知っていた	3
②	知らなかった	1
合計		4

●福祉人材センターで求職登録をしていますか。

①	登録している	4
②	登録していない	0
合計		4

●話を聞いて参考になりましたか。

①	大変参考になった	4
②	参考になった	0
③	あまり参考にならなかった	0
④	参考にならなかった	0
⑤	無回答	0
合計		4

※記述

<p>参考になった内容等 記載なし</p> <p>今後取り上げて欲しいテーマ等 記載なし</p>
--

(2) 福祉・介護のしごと はじめましてセミナーin藤沢（中高年齢層向け）

参加者数	27	事前申込 32	開催日：平成29年12月1日(金)
アンケート回収数	26	(横浜5、相模原2、藤沢20、茅ヶ崎2、平塚1、鎌倉、厚木1)	

	年齢	男性	女性	性別無回答	男性割合	女性割合
1	40代	2	1		7.4%	3.7%
2	50代	2	12		7.4%	44.4%
3	60代以上	5	4		18.5%	14.8%
4	無回答	0	0		0.0%	0.0%
合計		9	17		34.6%	65.4%

	属性	男性	女性	性別不明	男性割合	女性割合
1	一般 福祉分野以外に就労	0	4		0.0%	14.8%
2	求職中	8	8		29.6%	29.6%
3	その他	1	5		3.7%	18.5%
	合計	9	17		33.3%	63.0%

●お住まい

横浜市	4
相模原市	1
藤沢市	16
鎌倉市	1
茅ヶ崎市	2
平塚市	1
無回答	1
合計	26

●周知方法 ※複数回答可

①福祉人材センターのホームページ	1
②福祉人材センターの各種事業	2
③ちらし	16
④個別相談	1
⑤福祉人材センターからのダイレクトメール	0
⑥ちらし新聞折込み・タウンニュース・FMヨコハマ	9
⑦友人・知人から聞いて	1
⑧その他（介護フェア参加、身内が施設入所）	2
合計	32

＜福祉人材センター各種事業内訳＞	
ミニセミナー	1
フェア	1
その他	0
無回答	0
＜ちらし内訳＞	
福祉人材センター	7
ハローワーク	4
社会福祉協議会	2
その他	3
無回答	0
＜個別相談内訳＞	
福祉人材センター	0
ハローワーク	1
その他	0
無回答	0

●参加動機(※該当するもの1つ)

①	福祉・介護分野の仕事に就職を希望しているから	5
②	福祉・介護分野に興味関心があり、就職を検討しているから	13
③	福祉・介護分野の仕事への就職は考えていないが、興味関心があるから	6
④	その他（シニアでも介護の仕事ができるか知りたい）	2
合計		26

●聞きたかったこと ※複数回答可

①	就職活動体験談	11
②	仕事の内容・職種	23
③	労働環境（給料・シフト・休日など）	9
④	やりがい・魅力	8
⑤	資格取得	10
⑥	その他	0
合計		61

●福祉人材センターを知っていましたか。

①	知っていた	10
②	知らなかった	16
合計		26

●福祉人材センターで求職登録をしていますか。

①	登録している	6
②	登録していない	20
	合計	26

●話を聞いて参考になりましたか。

①	大変参考になった	18
②	参考になった	6
③	あまり参考にならなかった	0
④	参考にならなかった	0
⑤	無回答	0
	合計	24

※記述

参考になった内容等

- 介護の仕事には食事、入浴、排せつ以外に余暇などの日常生活支援が重要だと感じた。
- 自分の今までの人生経験がそのまま仕事に役立つ話少し勇気が持てた。
- 講師2名の講義内容が良かった。
- 採用後に資格取得支援する事業所があることを知った。
- 未経験者の就職が可能であることを知った。
- 入所者との接し方が理解できた。
- 就職時の不安や現在の働き方まで聞くことができ印象深かった。
- 日常生活で笑顔をという話は大変参考になりました。
- 高齢者でも可能な介護の仕事を知ることができた。
- 話を聞いてプランクがあってもやりがいを感じた。
- 障害者支援に関する施設の考え方を知ることができた。
- 利用者との向き合い方と生活に合わせた働き方の工夫が分かった。
- 障害分野の現場職員と直接話ができて参考になった。
- 講師の話から転職の経緯、感想、現場の雰囲気を感じる事ができた。

今後取り上げて欲しいテーマ等

- 障害の施設の1日の流れ
- 外国人介護職とのコミュニケーション
- 仕事に困ったこと
- 現場を知るセミナー

IV

第2回ふくしの職場説明会・就職面接会

長野県福祉人材センター

1 モデル事業の概要

長野県では、県からの委託事業で例年行っている「福祉の職場説明会」(合同就職フェア)における集客のための「プレイベント」の枠で本モデル事業を実施した。アプローチの対象は『中高年齢層』に絞った。

福祉の職場説明会は、例年7・8月に4地区、10・11月に4地区、3月に2地区の計年間10地区で開催している。主催は長野県、長野労働局、公共職業安定所、長野県看護協会、介護労働安定センター長野支部らで開催している。

2 実施結果

長野県ではモデル事業の目的を、対象とした中高年齢層の「面接会の来場者増」を通じて、介護人材のすそ野を中高年齢層に広げる、と設定した。このため、モデル事業の効果の一つを来場者数で図ることができる。

事業実施計画では長野会場150人、松本会場100人 計250人とかなり高い目標を設定したが、結果は長野会場76人、松本会場97人 計173人であった。約70%の達成率という結果ではあるが、新しいアプローチ手法を試すなどモデル事業を行った意義はあったと考えている。

また、参加者数の過去からの比較は62頁の5 モデル事業関連データ(別紙1)のとおりである。例年、10・11月に開催する面接会は「介護の日」に合わせて開催するが、長野県ではこの時期に開催してもなかなか参加者の集まりが悪い結果となっていた。また、近年の求職者減の状況で、今年度に入り昨年度の参加者数と同じ人数を確保するのも困難となってきている。以上を踏まえると、昨年と同時期同地区での参加者数と比較すると長野会場では6人、松本会場では15人上回った。事業計画ではかなり高い目標を設定したが、現実的にみれば、まずまずの成果が上がったと判断できる。

なお、平成28年度の福祉の職場説明会において、第2回の時期でのプレイベントの開催は労力や費用対効果を考えた結果行っていない。今回のモデル事業がなければ平成29年度のこの時期の面接会でもプレイベントを実施することはなかった。

3 事業の評価(成果・発見・失敗・反省点)

実施した事業を細かくみていく。実施した事業は大きく二つに分けることができ、福祉の職場説明会は長野会場と松本会場と分けられるが、それぞれ広報、イベントの内容を変えて事業を実施した。

○長野会場

長野会場は長野駅前のホテルで実施している。面接会は例年同じ会場、同じような時期で行っている。

この会場ではモデル事業として両会場のチラシ・ポスターの印刷、SBC信越放送（AMラジオ）でのスポットCM 50本、SBC信越放送の人気ラジオパーソナリティ坂橋克明氏の当日のゲスト出演を実施した。

※以下評価については5段階評価とする

i) チラシ・ポスターの印刷

評価：3

評価理由とコメント

- ・長野県では毎回チラシは1万部程度印刷し、ハローワークや関係機関、介護福祉士養成校などの学校関係、求職登録者などに向けDMを行っている。今回は印刷部数、配布先などは変更していない。
- ・なお、長野県ではこの面接会は労働局などとの共催で実施しており、会場費や事務局を分担しているが、チラシ・ポスターの印刷については全て長野県福祉人材センターが担当している。この印刷した1万部のチラシの半分以上は県内14か所にあるハローワークに送り、求職者への配布を依頼している。今回のアンケートからもわかるように、長野県での福祉の職場説明会の来場理由はハローワークからのDMが毎回一番を占めている。試行錯誤をしているが、なかなかこれを覆すことは厳しいのが現状である。

成果・発見

- ・従来の手法と同じため特になし。

失敗・反省点

- ・従来の手法と同じため特になし。

ii) SBC信越放送のラジオスポットCM 50本

評価：2

評価理由とコメント

- ・長野県ではNHKやローカル放送を除くラジオは、FMではFM長野、AMではSBC信越放送（テレビ放送も行っている）の2局がある。
- ・FM長野に比べ、SBC信越放送の方が聴取層の年齢が高いこと、また、女性が多く聞いているので、今回のモデル事業に適しているという理由でSBC信越放送でのCMを依頼した。なお、ラジオCMは長野市内に限定して放送した。
- ・平成28年度の面接会では、予算規模は同額でFMラジオのスポットCMを実施した。その際は契約の1.5倍から2倍に近い本数のCMを流していただき、本会職員や参加事業所のアンケートからも「CM聞いたよ」「広報頑張ってるね」と言われた。
- ・今回はAMで、かつ別の会社への発注であったが、契約ぴったりの本数のCMを流していただいた。参加者アンケートをみると10%程度の人が「ラジオCMを聞いて来た」で

あった。この数が多いのか少ないのかの判断は難しいが、少なくとも職員や事業所からAMラジオCMについて話題が出ることはなかった。

- ・以上の理由から、個人的にはラジオCMはもう少し健闘するのではないかと期待していたため、今後この手法の広報を選ぶ可能性は低くなった。このため評価2とする。

成果・発見

- ・FMラジオとAMラジオの2パターンでCMをすることができた。予算の都合からテレビCMは難しく、ラジオCMがいいところではないか。面接会の出展事業所のアンケートを見ると、メディアを活用してほしいとの要望は根強い。であれば、CMの単価をきっちり和本数を打つ媒体と、広告単価があってないような媒体の2社があるとすれば、メディアへの露出回数は多いに越したことはないので、広告出稿する媒体は工夫してもよいのではないか。

失敗・反省点

- ・CMの効果を上げるということを考えると、聴取層を考慮するよりも、いかにCM回数を増やすかということ優先すべきであった。今回のモデル事業で試すことができてよかった。

iii) SBC信越放送のラジオパーソナリティのゲスト出演

評価：1

評価理由・コメント

- ・面接会前の時間を使い90分間のトークセッションを行った。(公財)長寿社会開発センター長野支部の理事長を進行役に、中高年から介護の仕事に就いた人、中高年の人を積極的に採用する事業所の担当者、として介護施設の理事長、特別ゲストに坂橋氏の5人でおこなった。トークセッション自体はとても良い中身で、思ったほどに参加者は少なかったが大変盛り上がった。
- ・SBC信越放送で月～金曜日の午前中の帯番組「坂ちゃんのずくだせえぶりでい」の番組を担当する人気ラジオパーソナリティの坂橋克明氏をゲストにお越しいただいたのだが、来場者を増やす目的という観点からみた場合の結論は失敗と言わざるを得ない。

成果・発見

- ・トークセッションは盛り上がったため(要旨は62頁の5 モデル事業関連データ(別紙2)のとおり)、少ない参加者のなかで、確実に採用につながったとすればこの評価は覆るかもしれない。しかし、現時点でこのような報告が上がってきていない。
- ・トークセッションという試み、内容はよかったが、いかに来場者を増やすかは引き続き検討していきたい。

失敗・反省点

- ・先の番組は聴取層がモデル事業の「主婦層」「中高年齢層」と一致するため、介護の仕事に直接的に興味がないが、坂橋氏を目当てに、介護の仕事の話聞きに来る人が一定数いるのではないかと考えていた。しかし、思ったほど坂橋氏の効果はなかった。

○松本会場

松本会場は松本駅から歩いて5分の距離にあるホテルの宴会場で開催した。

モデル事業として長野県内で最も購読されている信濃毎日新聞の、開催地松本市内の51,680戸へのチラシの新聞折り込み、株式会社リクルートキャリアによる中高年向けのセミナーを実施した。

i) チラシの新聞折り込み

評価：4

評価理由・コメント

- ・チラシの折り込みは費用がかかる、というイメージがあり、見積もりもとることはなかった。今回のモデル事業では、今までに「行ったことのない」という実施条件が付いていたため、以前より興味があったチラシの折り込みが行えたことはとてもよかった。
- ・11月4日（土）に実施したのだが、共催団体のスタッフから連絡があるなどインパクトは多かったと思える。
- ・以前は同新聞の記事下広告を行ったことがあるが、費用が高い割にサイズが小さいこと、新聞を読み終わり閉じてしまえば再び開かれる可能性は低いといった理由でその後は行っていない。その記事下広告とチラシの折り込みを比較すると、費用は似た金額で可能で、サイズはB4と大きく、色の制限もなく、チラシを全く見ずに捨ててしまう人は少なからずいるが、興味がある人は抜き出してとっておいてくれる、という大きなメリットがあるため、今後もチラシの折り込みは折を見て実施していきたい。以上の理由から評価4とした。

成果・発見

- ・参加者アンケートを見ると、チラシ・折り込みチラシを見てきたという方は10%ほどであった。決して多くは無いが、松本市内の51,680戸に確実にチラシが届けられるというのは大きいと思われる。そもそも面接会の開催の事実を、広く周知するという目的は折り込みチラシでは達成されたと思う。そのなかで、いかに来場に結び付けていくか、という工夫は引き続き検討していかなければならない。

失敗・反省点

- ・初めてチラシの折り込みを行った。配布向けのチラシと折込向けのチラシのデザインを分けて作成したが、今後は折込向けのチラシで訴求性の高いデザインをより研究していきたい。折込みチラシの多くはB4横方向のデザインであるが、今回はいつもどおり縦方向のデザインで実施した。今後も折り込みチラシは実施していきたいと考えている。

ii) 株式会社リクルートキャリアによる中高年向けのセミナー

評価：5

評価理由・コメント

- ・アンケート結果が評価5に結びつけた。講演・グループワークの満足度が非常に高く、90分間の時間ではあったがもっと長く聞いていたいという意見も見られた（通常、講

師のこの講演は180分程度の時間を要するが今回は短縮版で行っていただいた。

- ・株式会社リクルートキャリアの柴田講師に講演をいただいた。テーマは「自分を活かして働くために」とし、介護のお仕事を前面に出すのではなく、その働く選択肢の一つに介護もあるのではないかと、というアプローチで話をしていただいた。
- ・講師は業界では有名な「伝説の講師」とも呼ばれている人物で、その人個人のポータブルスキル（業種や職種が変わっても通用する、持ち出し可能な能力）を中心に講演いただいた。

成果・発見

- ・この講師を事前に知っていたわけではなく、ちょっとしたきっかけから講師を依頼することになったのだが、インターネットなどで見ても「レジェンド」「伝説の講師」などの言葉が並ぶ有名人であったようだ。話の内容も興味深く、グループワークも含め素晴らしい講演会であった。

失敗・反省点

- ・今回は時間の制約があったため、講演の本来必要とする時間の短縮版という形で行っていただいた。もし次の機会があるとすれば、再度同じ講師に本来の時間での講演をお願いしてみたい。

4 今後に向けて

今回のモデル事業では、対象を「中高年齢層」へ絞り事業を展開した。中高年齢層の興味がありそうなこと、触れることの多いものを予測し広報を行い、イベントを行った。広報は中高年齢層に限定した訳ではなく、イベントも年齢などの入場制限は行わなかった。モデル事業を終えて、「〇〇をすれば、中高年齢層を介護のお仕事に振り向かせることができる」といった結果は出せたとは言い切れない。予想したような結果にならない失敗もあったし、逆に予想以上に満足度の高いものもあった。

今後は、モデル事業があったからこそできた、かつては実施することのなかった広報手段の選択、イベントの組み方などを参考に生かしていきたい。中高年齢層も、主婦層も、その他の層などにむけて引き続き地道に事業を展開していくことが介護人材のすそ野を広げることではないかと考える。そのなかで、成功するかは別として、ターゲットを絞って行っていくことは思わぬ結果をもたらすなど、必要性はあるのではないかと感じている。

5 モデル事業関連データ

(別紙1)

平成29年度 福祉の職場説明会結果

	会場	開催日	参加事業所	求人数(人)	求人件数(件)	参加者数	プレイベント(人)	採用数(人)
第1回	駒ヶ根	7月28日(金)	19	110	45	12	8	2
	松本	8月3日(木)	56			72	50	
	長野	8月4日(金)	57			128	110	
	上田	8月9日(水)	27	171	86	23	22	3
第2回	諏訪	10月12日(木)	28	244	110	10	6	0
	長野	10月27日(金)	50	515	273	76	29	
	松本	11月10日(金)	60	567	287	97	40	
	佐久	11月22日(水)	21	165	80	24	18	

平成28年度 福祉の職場説明会結果

	会場	開催日	参加事業所	求人数(人)	求人件数(件)	参加者数	プレイベント(人)	採用数(人)
第2回	佐久	10月7日(金)	24	163	77	24		7
	諏訪	10月20日(木)	30	273	139	20		5
	長野	11月18日(金)	62	528	274	70		4
	松本	11月25日(金)	56	580	312	82		1

平成27年度 福祉の職場説明会結果

	会場	開催日	参加事業所	求人数(人)	求人件数(件)	参加者数	プレイベント(人)
第2回	松本	10月23日(金)	60	281	570	55	21
	上田	10月28日(水)	21	77	74	18	
	長野	11月6日(金)	67	340	698	61	30
	駒ヶ根	11月13日(金)	15	157	41	30	

(別紙2)

10/27 「中高年が介護の仕事ではたらくには」トークセッションの要旨

(1) 介護現場の現状

○人が集まらない原因は、拘束時間が長いこと、社会的評価が低く、また見返りとしての報酬が少ない。

介護の社会的評価の向上を図る必要がある。

○事業所によって目指すところが違うので、どんな仕事ができるのかなど受け入れ側はこ

ういうことをしてほしいとしっかり伝えることが重要である。

○最近は男性の採用者が増えているが、男女のバランス、年齢のバランスが大切であり、人を育てていくことをしないと業界はダメになる。

(2) シニア世代が働く意義

○シニア世代は、利用者と共通な話題を見つけやすく、豊富な社会経験があるため、高齢者に寄り添いやすい年代であるといえる。

○シニア世代のイメージや介護に対する認識などは昔と大きく変化した。多様なシニアがいると同時に、多様な働き方があっていい。

○シニア世代はその置かれた状況・意欲・体力に合わせて、孤立せず社会とつながり仕事を続ける必要がある。中高年が働くということは、社会参加、自分の健康維持、自分の老後の予測にもつながる。

(まとめ)

介護現場における離職原因、採用時におけるマッチングの重要性などの話からスタートした。人材不足を解消するために海外から人材を受け入れているが、シニア世代が介護で働く意義があることについて理解した。定年や年齢で切るのではなく、その人の状況、意欲・能力・体力に合わせた働き方のニーズに沿った制度を構築する必要性を感じた。シニア世代は、利用者と共通な話題を見つけやすく、豊富な社会経験があるため、高齢者に寄り添いやすいことから、今後は参入促進を図る必要がある。またシニア世代を活用することは、シニア世代にとっても良策であることが理解できた。



(株) リクルートキャリアによるセミナーの様子



トークセッションの様子

介護職体験
平成29年度
第2回 **ふくしの**
職場説明会
就職面接会

中高年の
みなさんも
大歓迎

50歳以上
申込不要
履歴書不要
服装自由
入退場自由

参加費
無料

面接会場は、参加事業所が各ブースにて、事業所概要や採用予定職種等の説明をいたします。

長野会場
平成29年 10/27(金)
メルパルク長野1階ホール
(長野市鏡野高野752-8)
【受付】12:30~
【トークセッション】13:00~14:30
「中高年が介護の仕事で働くには」
長野県社会福祉センター山形理事 兼 実行
部 長に 高橋 幸夫 氏より 講演。 講演
した 事業所の 就業 状況 等 を 紹介 し、 中高年が 介護
の仕事で 働く こと について 考えます。
特別ゲストに 松本 浩二 さん(介護士) 現場 実
験 員 が 来て くださいます!
【面接会】14:30~16:30
事業所 内の 面接 会場 となります。

松本会場
平成29年 11/10(金)
ホテルエナピスタ3階グラウンド
(松本市津1-2-1)
【受付】12:00~
【セミナー】12:30~14:00
「自分を活かして働くために」
講師: 柴田 敦夫 氏(株式会社リクルートキャリア)
株式会社に入社し、働くことをポジティブに選択し
ていくための方法や考え方について、実際に働く
中高年のみなさんへお話いたします。
●セミナーでは、みなさん自身の経験や
スキルを活かすための具体的なアドバイスも
提供いたします。
●面接は採用したい企業や、働く場所や待遇面を
確認するための大切な機会です。ぜひ、積極的に
参加してください。
【面接会】14:00~16:00
事業所 内の 面接 会場 となります。

相談コーナー
●ハローワーク相談コーナー ●介護施設認定センター相談コーナー
●アセスセンター相談コーナー ●長野県福祉人材センター相談コーナー
●長野県介護士人材センター相談コーナー ●長野県福祉人材センター相談コーナー

主催: 長野県社会福祉協議会 協賛: 長野県社会福祉協議会 介護施設認定センター 長野県 長野県社会福祉協議会 (長野県福祉人材センター)
共催: 長野県社会福祉協議会 協賛: 長野県社会福祉協議会 介護施設認定センター 長野県 長野県社会福祉協議会 (長野県福祉人材センター)
長野県社会福祉協議会 福祉人材部 人材グループ (長野県社会福祉協議会) TEL: 026-226-1330 Email: jishu@nagasyokyo.or.jp

介護職体験
平成29年度
第2回 **ふくしの**
職場説明会
就職面接会

就職に
迷っている人
興味はあるけど
資格・経験のない人
中高年の
みなさんも
大歓迎

50歳以上
申込不要
履歴書不要
服装自由
入退場自由

参加費
無料

面接会場は、参加事業所が各ブースにて、事業所概要や採用予定職種等の説明をいたします。

こんな疑問にお答えします!
今仕事を探している方、今後検討されている方大歓迎!!

50歳以上
申込不要
履歴書不要
服装自由
入退場自由

面接会場は、参加事業所が各ブースにて、事業所概要や採用予定職種等の説明をいたします。

平成29年 11/10(金) 12:00~16:00 ホテルエナピスタ3階グラウンド
(松本市津1-2-1)

【受付】12:00~ 【セミナー】12:30~14:00
「自分を活かして働くために」 講師: 柴田 敦夫 氏(株式会社リクルートキャリア)
株式会社に入社し、働くことをポジティブに選択し
ていくための方法や考え方について、実際に働く
中高年のみなさんへお話いたします。
●セミナーでは、みなさん自身の経験や
スキルを活かすための具体的なアドバイスも
提供いたします。
●面接は採用したい企業や、働く場所や待遇面を
確認するための大切な機会です。ぜひ、積極的に
参加してください。
【面接会】14:00~16:00
事業所 内の 面接 会場 となります。

相談コーナー
●ハローワーク相談コーナー ●介護施設認定センター相談コーナー
●アセスセンター相談コーナー ●長野県福祉人材センター相談コーナー
●長野県介護士人材センター相談コーナー ●長野県福祉人材センター相談コーナー

主催: 長野県社会福祉協議会 協賛: 長野県社会福祉協議会 介護施設認定センター 長野県 長野県社会福祉協議会 (長野県福祉人材センター)
共催: 長野県社会福祉協議会 協賛: 長野県社会福祉協議会 介護施設認定センター 長野県 長野県社会福祉協議会 (長野県福祉人材センター)
長野県社会福祉協議会 福祉人材部 人材グループ (長野県社会福祉協議会) TEL: 026-226-1330 Email: jishu@nagasyokyo.or.jp

第2回 福祉の職場体験会・就職面接会 参加費不要

ふくしの
職場体験

「やりがい」 見つけてみませんか?
にふれた
やりがい 体力 福祉の仕事を実験!

福祉施設での職場体験、サービス業での接客体験などを通して、実際の福祉の仕事や職場環境について学び、将来の進路選択に役立ててください。

参加費 無料

申込方法
●申込書・履歴書・写真(2枚)を提出してください。
●申込書は、お申し込みの日の前日までに提出してください。
●申込書は、お申し込みの日の前日までに提出してください。

体験内容
●福祉施設での職場体験(1日)またはサービス業での接客体験(1日)を行います。
●体験内容は、お申し込みの日の前日までに決定いたします。

申し込み
●お申し込みの日の前日までに、お申し込みの用紙を提出してください。
●お申し込みの用紙は、お申し込みの日の前日までに提出してください。

体験日調整
●お申し込みの日の前日までに、お申し込みの用紙を提出してください。
●お申し込みの用紙は、お申し込みの日の前日までに提出してください。

お申し込み・体験費
●お申し込みの日の前日までに、お申し込みの用紙を提出してください。
●お申し込みの用紙は、お申し込みの日の前日までに提出してください。

体験終了
●お申し込みの日の前日までに、お申し込みの用紙を提出してください。
●お申し込みの用紙は、お申し込みの日の前日までに提出してください。

福祉の職場体験会
平成29年11/20(金) 13:00~16:00
福祉人材センター
長野県福祉人材センター
TEL: 026-226-1330

6 アンケート集計結果

●長野会場

開催日時:平成29年10月27日(金)

会場:メルパルク長野

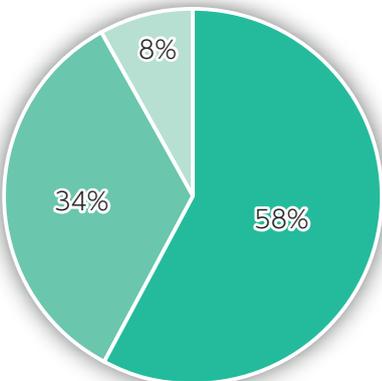
(1) 参加者・出展事業所

参加者							出展事業所			面接会		
一般		学生		参加者計	回答数	回収率 (%)	事業所数	回答数	回収率 (%)	面接者数	1事業所あたりの面接者(人)	参加者1人あたりの面接回数(回)
男性	女性	男性	女性									
27	41	4	4	76	38	50	50	35	70	145	2.9	1.9

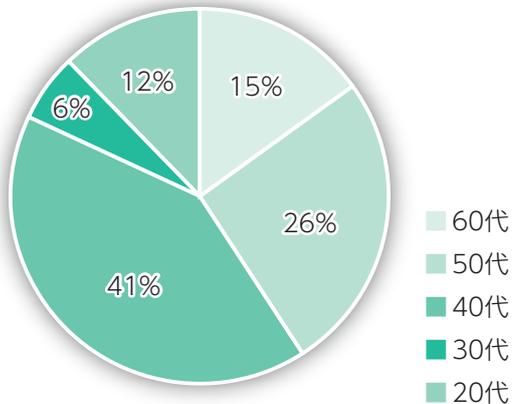
(2) 参加者アンケートより

Q1 あなたの性別・年齢についておたずねします。

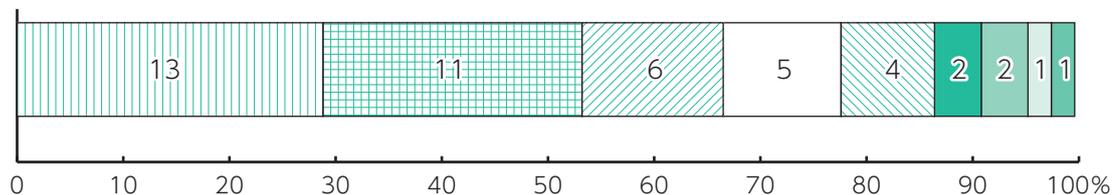
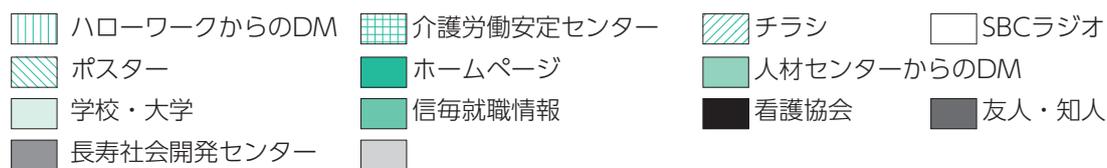
1 性別



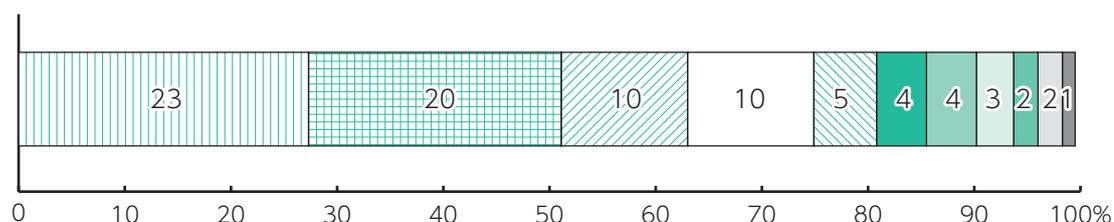
2 年齢



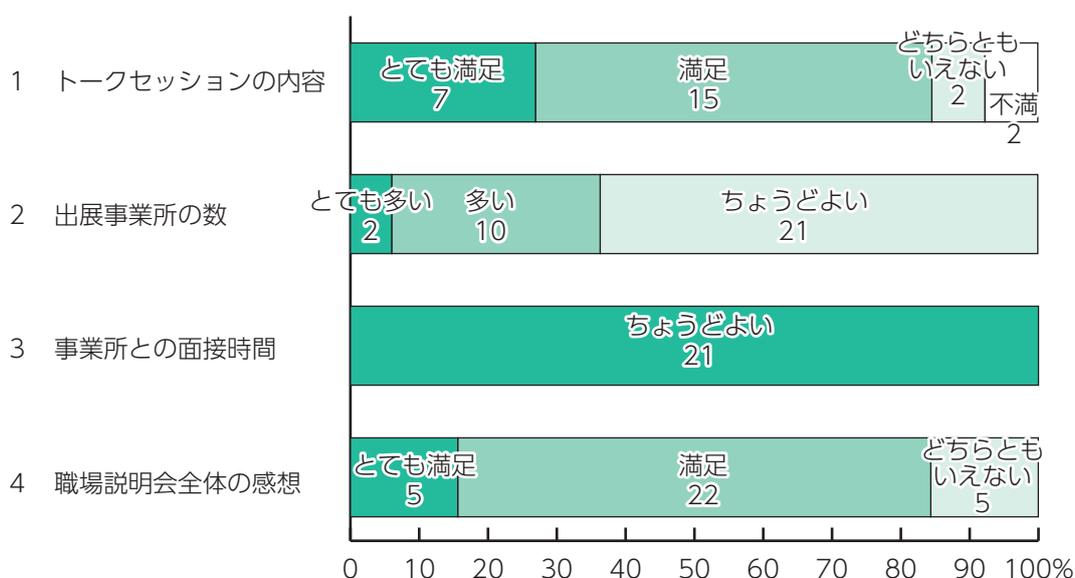
Q2 今回の職場説明会は何でお知りになりましたか？（複数回答）



Q3 この説明会に参加したきっかけは何ですか？（複数回答）



Q4 次の項目についておたずねします。



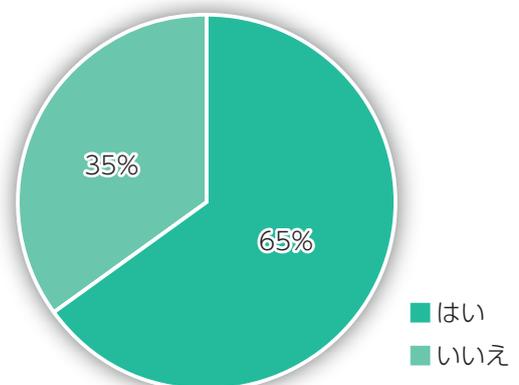
Q5 中高年が介護のお仕事に就くことについてどう感じますか？(自由記述すべて記載)

- ・社会参加は必要だと思います。できること、できないことを理解し、認めることも大切だと思います。
- ・経験・知識ともに豊富なので大きな力になると思います。高齢者に寄り添えると思う。
- ・自分がまさに中高年であり、生きがいを持って働ける職と思います。
- ・第2の仕事として考えている。
- ・それぞれの年代でできる事、役割があると知り、良いことだと思いました。
- ・人生のパートナーという立場でとても良いと思う。
- ・意欲があり介護の対象者（高齢者や障害者）に対して本気で対応する気持ちがあれば、年齢は問題ないと思う。
- ・体力的に大変だと思いますが、やりがいのある仕事だと思います。
- ・年齢的、体力的に自分は無理な仕事と思っていましたが、今日のお話を聞き、少し自信が持てた気がします。
- ・中高年の人材の1人として求職者の立場からマイナスのイメージばかり感じていましたが、中高年でもまだまだ介護現場では生かせるところもあるんだと自信を持つことができました。
- ・中高年だからこそ生かせることがあると思いました。
- ・人生経験など生かせると思うので重要かつ有意義であると考えます。
- ・中高年は若者より利用者と年齢が近く、価値観も受容しやすく重要な存在だと感じました。
- ・高齢化社会に向けて働くことはいいことだと思う。フルタイムでなく自分で時間を決められる会社が増えればよい。
- ・異業種からの転職でもそれまでの経験が役立つので積極的にかかわるとよい。
- ・体力など少し不安はあります。

Q6 就職してもよいと思う事業所はありましたか？

理由（抜粋）

- ・親身になって相談に乗ってもらえた。自分の理想に合った介護をしているから、自分に合っていそう。
- ・条件が良いと思ったため ハローワークさんから後日紹介していただく予定。
- ・もともと興味があり、ここで働いてみたいという気持ちが強くなりました。



Q7 その他ご意見ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

- ・トークセッションは、来場者参加型にしてもらえると楽しく聞けるように感じました。今回の進行はとても楽しく聞くことができました。
- ・多種多様な仕事、働き方があるということが中高年に伝わりにくいと思うので、工夫して欲しいと思いました。
- ・事業所の方と一対一でお話ができる貴重な場となりました。

●松本会場

開催日時：平成29年11月10日（金）

会 場：ホテルブエナビスタ

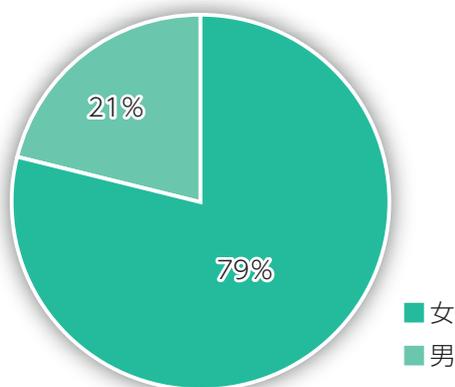
(1) 参加者・出展事業所

参加者				出展事業所			面接会					
一般		学生		参加者計	回答数	回収率 (%)	事業所数	回答数	回収率 (%)	面接者数	1事業所当たりの面接者 (人)	参加者1人当たりの面接回数 (回)
男性	女性	男性	女性									
31	65	1	0	97	41	42	60	40	67	174	2.9	1.8

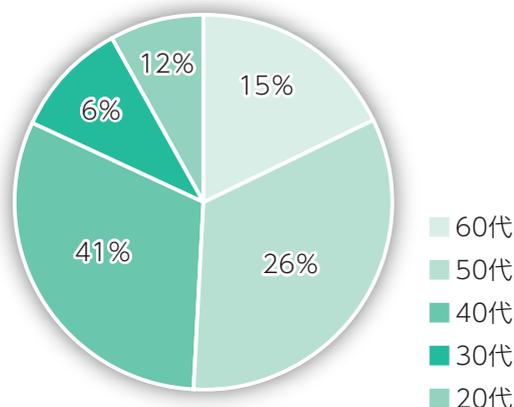
(2) 参加者アンケートより

Q1 あなたの性別・年齢についておたずねします。

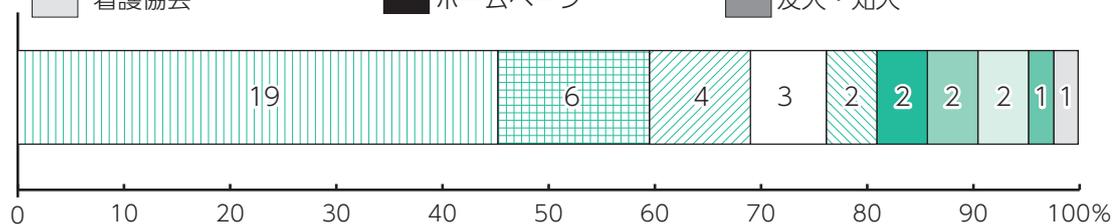
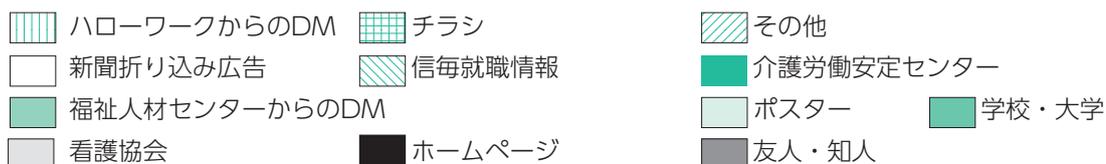
1 性別



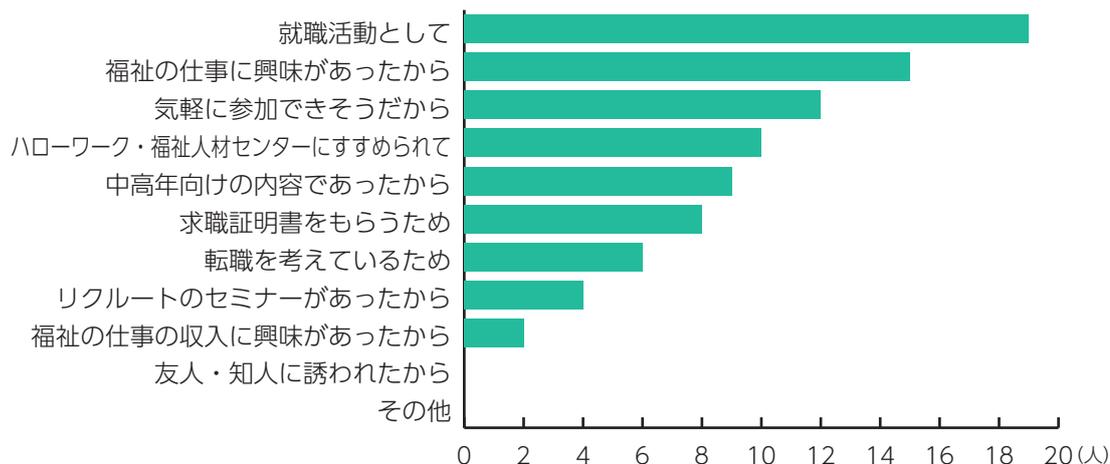
2 年齢



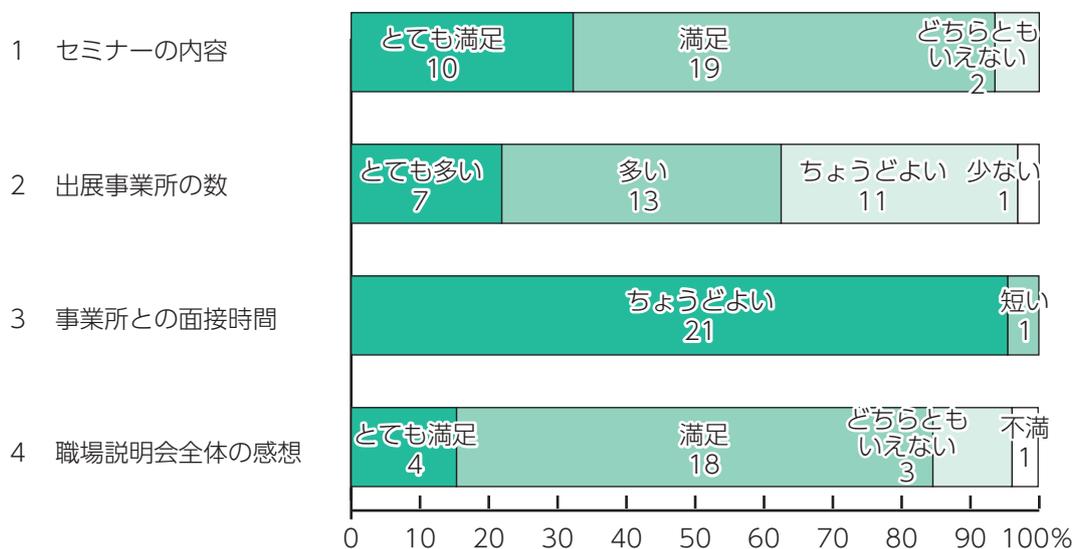
Q2 今回の職場説明会は何でお知りになりましたか？（複数回答）



Q 3 この説明会に参加したきっかけは何ですか？（複数回答）



Q 4 次の項目についておたずねします。



Q 5 中高年が介護のお仕事に就くことについてどう感じますか？（自由記述すべて記載）

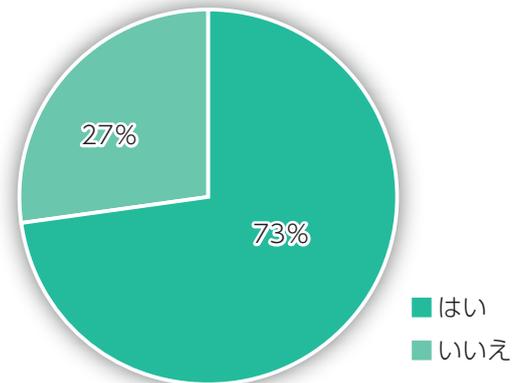
- ・働くことに年は関係ないと思う。
- ・親に接しているため、老人の気持ちなどがわかる。
- ・もっと沢山の情報がほしいです。みなさん人生最後の仕事、体がつづくかぎり続けたい仕事をさがしていると思います。
- ・体力面が問題なければ生きてきた時代観も近く、良いことが多いと思う。
- ・特に問題ないと思う。但し、体力的にも（身体能力）落ちてくるためそういう面も考えていかねばならない。
- ・経験を生かせる内容が多いので良いと思う。ただ、別業種で働いてきた者には資格がないので就職につながるのか不安でした。
- ・長寿の時代、介護の仕事では人員不足が続いています。低賃金では求人は無理ですよ。将来が見込めるような賃金は求めてもだめなのではないでしょうか？
- ・体力は若い人にはかなわないけど、人生経験が多いので、ありがたいと思います！

- ・あまり良いとは思わない。注意力の低下、ガンコ。でも、高齢者と年が近い分、分かり合えてよいと思う。
- ・定年を過ぎてでも働ける仕事があってほしい。
- ・体力、能力が十分に生かせるならば、発揮できるならばよいと思う。また、高齢者介護などでは、人生の先輩の生き方など学ぶ機会でもあると思う。

Q 6 就職しても良いと思う事業所はありましたか？

理由（抜粋）

- ・感じのよい雰囲気話をすすめてくださった。
- ・誠実に対応してくれた。
- ・事業者の目指すところに感動しました。



Q 7 その他ご意見ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

- ・のりおさんのお話し方、好きです。関西ご出身、ますます好きです。もっと関西弁聞きたかったです。
- ・実際に福祉の仕事に従事している方からのお話をうかがいたかった。一方的に話されているだけで心に響かなかったです。
- ・ポータブルスキル、勉強になりました。
- ・気づきもあり自分のできる事をもっと見つけようと思いました。ありがとうございました。
- ・福祉の職場の説明だと思い参加しましたが、自分を活かして働く、自分を知る、価値観を知る、がとても興味深く今の自分にとっても役立った。自分を活かして働けるように頑張りたいと思いました。
- ・柴田さんのお話、もう少し長く（詳しく）お聞きしたかったです。グループワークとかとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・強み発見、自己肯定感を高めるなど、面接から就業に生かせる内容のセミナーを今後も行っていただきたい。
- ・ブースマップを見ている時の声かけは遠慮していただけるとありがたい。

V

仕事と家庭が両立できる 福祉の職場セミナー

～女性が働きやすい・活躍できる

三重県福祉人材センター

標記セミナーを平成30年1月17日に四日市市三浜文化会館で開催した。

三重県では、定年退職された後の高齢者を対象にした「シニア世代介護職場就労支援事業」や介護資格有資格者の再就職を目的とした「潜在有資格者等再就業促進事業」、保育士資格有資格者を対象にした「潜在保育士現場復帰支援研修」は開催しているが、現在働いていない女性をターゲットにしたイベントを初めての試みとして開催した。

今回のイベントでは、働いていない女性をターゲットにしていたため、このモデル事業の趣旨でもある「どこで・どのような媒体で情報を仕入れている」のか、また、情報を仕入れても参加しないと分からないためターゲットが「参加してみたいと思えるような内容」にする、という2点に重点を置いて、さらに対象地域を四日市市と鈴鹿市に限定し効果を測りやすいように事業を進めた。

また、周知期間が短く、ポスターチラシなどの掲示は1か月ほどの募集期間で実施した。

1 事業実施結果

当日は、講演の読売新聞東京本社主任研究員の榊原氏が体調不良により急遽スカイプを利用したネットを通じた講義になり、シンポジウムの助言は会場の雰囲気や掴みにくいため、皇學館大学教授駒田氏にコーディネーターを依頼して実施した。

定員50人で募集を開始し、事前申込者は38名うち欠席2名、当日参加者は7名で、計43名のほぼ全てが講演・シンポジウムにも参加した。

相談・展示コーナーへは、「福祉のお仕事相談：7名」「栄養・食育相談：5名」「介護についての相談：5名」「子育ての悩み相談：1名」「介護食・福祉機器の展示：15名」「三重ヤクルトの相談・ヤクルトレディ募集：8名」「健康診断 骨密度測定：33名・血管年齢測定：44名・血圧測定：23名」の方が訪れた。

2 成果・発見

現状、三重県福祉人材センターで実施している各事業では、県内の「ハローワークへの啓発協力」「福祉養成校である大学・専門学校だけでなく、それ以外の大学・高校などの学生への啓発」などを実施しているが、今回の事業ではターゲットを絞っていたため、下記表の通り「スーパー」や「幼稚園」、その他働いていない女性が目に触れるような情報誌や場所に掲示やチラシを配布した。

女性が「働きやすい」・「活躍できる」

**仕事と家庭が両立できる
福祉の職場
セミナー**

平成30年 **1月17日**水
11:00~15:30

●相談コーナー・展示コーナー 11:00~13:00
●講演・シンポジウム 13:00~15:30(受付12:30~)

①講演「ワーク・ライフ・バランスのポイント」13:00~14:00
講 師：読売新聞東京本社 橋本 智子 氏
②シンポジウム「女性が働きやすい福祉の職場」14:00~15:30
コーディネーター：聖徳大学 教育学部 教授 飯田 和子 氏
助 言 者：読売新聞東京本社 橋本 智子 氏
シンポジスト：子育てしながら福祉施設へ就職し、家庭との両立をされている方など

参加費 無料 (①事前参加申込みをされた方にはお弁当(お茶付)をプレゼント
②当日参加者全員に相談券(お茶付)をプレゼント)

会場 四日市市三浜文化会館 2F 視聴覚室など
(三重県四日市市海山道町一丁目1532-1)
対象 育児や介護等で現在働いていない女性、福祉の仕事に興味のある方、一般の方など
※託児あり 要予約(時10名)※未定員20名(先着順)
定 員 50名(先着順 定員に達し次第、締切)
申込方法 要添付書類に必要事項をご記入いただきFAX又は電話でも申込みいただけます。

◎主催：社会福祉法人 三重県社会福祉協議会、三重県福祉人材センター
◎協賛：社会福祉法人 四日市社会福祉協議会、市社会福祉人材センター
◎後援：四日市市、鈴鹿市、社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会、社会福祉法人 鈴鹿市社会福祉協議会
◎協力：三重県福祉人材センター、三重県福祉人材センター、四日市市社会福祉協議会

お申し込み
お問い合せ 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 三重県福祉人材センター
〒514-8552 津市板橋2丁目131 TEL:059-227-5160

申込締切の日：1月10日(水)まで

お申し込み FAX : **059-222-0170**
(三重県福祉人材センター)

**仕事と家庭が両立できる
福祉の職場セミナー** **参加申込書**

No. _____	受付日 ____年 ____月 ____日
ふりがな	年 齢
名前	職 代
電話 (_____) - _____	託児希望 あり・なし
住所 〒 _____ - _____	お子様のお名前
	お子様の年齢 歳 月

※ご記入いただいた個人情報は、セミナーに関する連絡のために活用させていただきます。お申し込みの個人情報は個人情報保護法に基づき厳重に管理いたします。個人情報の取扱いについては社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 三重県福祉人材センター TEL:059-227-5160までお問い合わせください。

託児について

・就学前のお子様のみを対象
・当日の健康状態により、託児をお断りさせていただくことがあります。
・定員20名(申込先着順)※当日の申込みは不可
・託児時間 12:30~15:30(講座・シンポジウムの発着のみ)
・持ち物 水筒、オムツ、着替え等の必要用品

お弁当について(事前申込者のみ)

事前申込者にはお弁当とお茶をお渡しいたします。
※託児利用のお子様の昼食はご用意できません。
各自ご持参いただき、講演開始までにお渡せ下さい。

会場へのアクセス

四日市市三浜文化会館
(三重県四日市市海山道町一丁目1532-1)

(公共交通機関)
☆近鉄名古堂線「海山道駅」
海山道神社側出口より 徒歩約8分

(お車をご利用の場合)
☆国道1号「日永3丁目」交差点を東へ約5分
☆国道2号「海山道」交差点を東へすぐ
☆県道6号「塩浜街道」[大井の川]交差点を西へ約1分

四日市市三浜文化会館 周辺マップ

今回啓発を依頼した事業所、情報誌などの一覧を掲載するが、後述の口コミに繋がっている部分もあり評価をすることが難しい。

【今回、初めて啓発協力をお願いした所】

啓発依頼先	評価 1~5 (5が高点)	評価理由
<p>スーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパー一号館 (35店全店舗) ・スーパーサンシー番街店 		<p>本セミナーでは左記からの参加者は少なかったが、口コミに繋がっている可能性もあり、評価が難しい。</p>
<p>ショッピングセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオンモール四日市北店 ・カヨーショッピングセンター日永店 ・イオン四日市尾平店 ・ララスクエア四日市 		
<p>幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市内公立幼稚園 (21園) ・四日市市認定こども園 (2園) ・四日市市内私立幼稚園 (14園) ・鈴鹿市内私立幼稚園 (6園) ・鈴鹿市認定こども園 (2園) 		
<p>子育て支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市内子育て支援センター (17ヶ所) 		
<p>児童館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市内児童館 (3ヶ所) 		
<p>三重北勢健康増進センター</p>		
<p>四日市市中央老人福祉センター</p>		

四日市市こども子育て交流プラザ
四日市市おもちゃ図書館
四日市市立博物館・プラネタリウム
四日市市ファミリー・サポート・センター
四日市なやプラザ
NPO法人マザーズライフサポーター
ばんこの里会館
四日市市久保田シダックスカルチャーセンター
四日市健康文化センター
新ペアーレ四日市
ワイヤーママ三重 (子育て中の母親向けの情報誌)
ママハタみえ LINE情報 (子育て中の母親向けの就職支援事業)
CTY ケーブルテレビ
四日市年金事務所
四日市温泉 おふろcafé湯守座
郵便局

※「幼稚園」は、ポスターと全ての児童の保護者に届くようにチラシを必要数配布。

【普段から啓発協力をお願いしている所】

啓発依頼先	評価1～5 (5が高点)	評価理由
市役所での啓発	4	情報媒体として利用している方が多い
社協での啓発	3	情報媒体として利用している方が多い
ハローワーク	4	働くことに意欲があるため関心が高い
人材センターホームページ	3	アクセスカウンターがないため不明な点がある。

【福祉人材センター 登録者など】

啓発依頼先	評価1～5 (5が高点)	評価理由
人材センター求職登録者	4	元から関係づくりができており、働くことに意欲があるため関心が高い
潜在有資格者再就業促進研修 修了生うち未就労者	3	元から関係づくりができており、働くことに意欲があるため関心が高い
シニア世代介護職場就労支援事業 修了生うち未就労者	4	元から関係づくりができており、働くことに意欲があるため関心が高い。また家庭においても自由な方が多い。
潜在保育士現場復帰支援研修 修了生うち未就労者	3	元から関係づくりができており、働くことに意欲があるため関心が高い
子育て支援員研修 修了生うち未就労者	3	元から関係づくりができており、働くことに意欲があるため関心が高い

【事業によって啓発協力をお願いする・しないと分けている所】

啓発依頼先	評価1～5 (5が高点)	評価理由
あさひライブラリー 朝日町図書館(朝日町歴史博物館) 朝日町公民館 川越町中央公民館 川越町あいあいセンター図書館 北部児童館 富洲原地区市民センター 四日市地域総合会館あさけプラザ図書館 大矢知市民センター 四日市市立図書館 四日市市文化会館 四日市市ファミリー・サポート・センター (NPO法人 体験ひろば☆こどもスペース 四日市 内) 塩浜地区市民センター 四日市市楠公民館図書館 鈴鹿市図書館 鈴鹿市市民文化会館 鈴鹿市総合保健センター 鈴鹿市武道館 鈴鹿市体育館 鈴鹿市図書館江島分館		本セミナーでは左記からの参加者はいなかったが、口コミに繋がっている可能性もあり、評価が難しい。
フリーペーパー ai	3	四日市市内の各家庭へのポスティング
中日ホームニュース四日市	3	中日新聞への折り込み。三重県内では一番発行部数が多いため。

啓発については掲載期間が短かったこともあり、評価が難しい。ただし、今まで啓発協力を依頼していない所へ依頼した際、好意的に協力いただいた所もあり今後の繋がりや協力を活かしていきたい。

元より働くこと、働き方に興味のある方が人材センターへ求職登録を行っているため、このような層のセミナーの参加が一番多かった。

3 失敗・反省点

啓発期間が短かった。

「フリーペーパー」や「幼稚園」、「図書館」などで知った方は残念ながら少数ではあったが、上記口コミに繋げるための一因であった可能性もある。

子どもが幼稚園に通っている時間に開催する、開催の曜日を考えるなど、開催時間を検討しなければいけなかった。

4 今後の活動に活かせること

今回、単に開催案内を広く啓発するだけでは参加者の関心が薄くなると考え、「相談・展示コーナー」「粗品プレゼント」と興味をひく内容をそろえた。

後述のアンケートを読み解くと、「家族・友人・知人・その他（ ）からの紹介」で本セミナーを知った方の参加理由は「相談・展示コーナーに興味があったため」の割合が多い。これは、日頃から各個人が持っている悩みを他人に相談をしており、その相談相手が広告を見て当人に伝えたということが考えられる。このことは、相談者と当人双方がイベント内容に気づき、口コミに繋がっていると考えられる。

「市役所や社協」「三重県福祉人材センターからの案内」「ハローワーク」で本セミナーを知った方の参加理由は「講演・シンポジウム・セミナー全体に興味があったため」の割合が多い。仕事を探している方、講演・シンポジウムを聞きたいという自己学習・自己研鑽、将来のために参加されている方が多い。

上記の点から、自身又は近い人が関係する興味があることは目に留まり、参加や口コミに繋がると考えられる。就職フェアやセミナーなどの人材センター主催のイベントの啓発をする際はこの点に留意し、就職フェアだけでなく興味をひくイベントも併催し、そこに参加された方を取り込む工夫が有効であるといえる。

また、「どのような媒体で情報を集めているか」の部分では、「インターネット」と回答をしている方が数名おり、内訳は30歳代から60歳代までどの年代も突出せず幅広く答えていた。スマートフォンなどの操作は年齢層による差がなくなってきていると確認でき、今後は千葉県福祉人材センターが実施しているようなLineによる独自の情報提供や、ママハタみえ（子育て中の母親向け就労支援事業）との協力なども検討され、これらの結果は次回に活かしたい。



シンポジウムの様子



皇學館大学教授駒田氏による講評の様子



相談・展示コーナーの様子



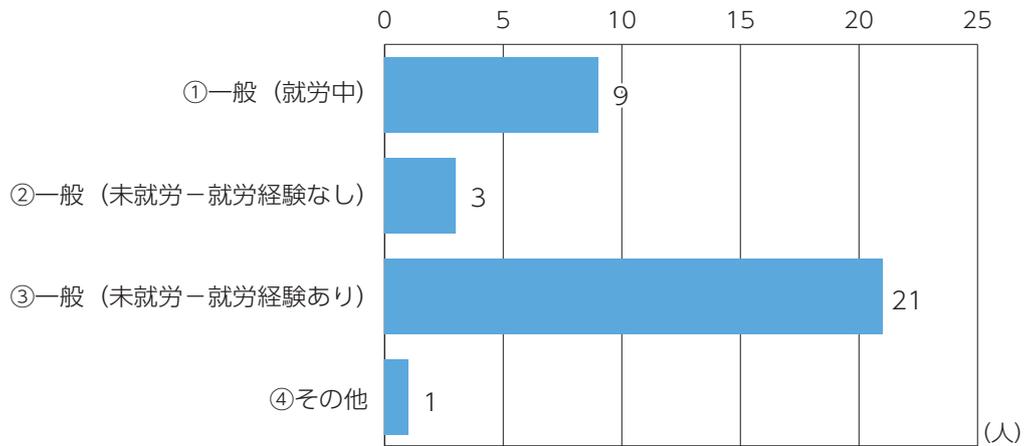
託児室の様子

5 アンケート集計結果

実施日：平成30年1月17日（水）

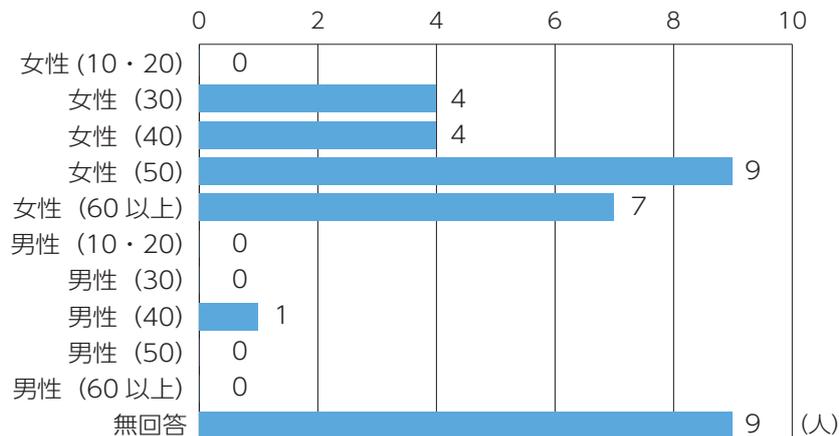
アンケート回答数：34名

問1 あなたの属性、就労状況を教えてください。

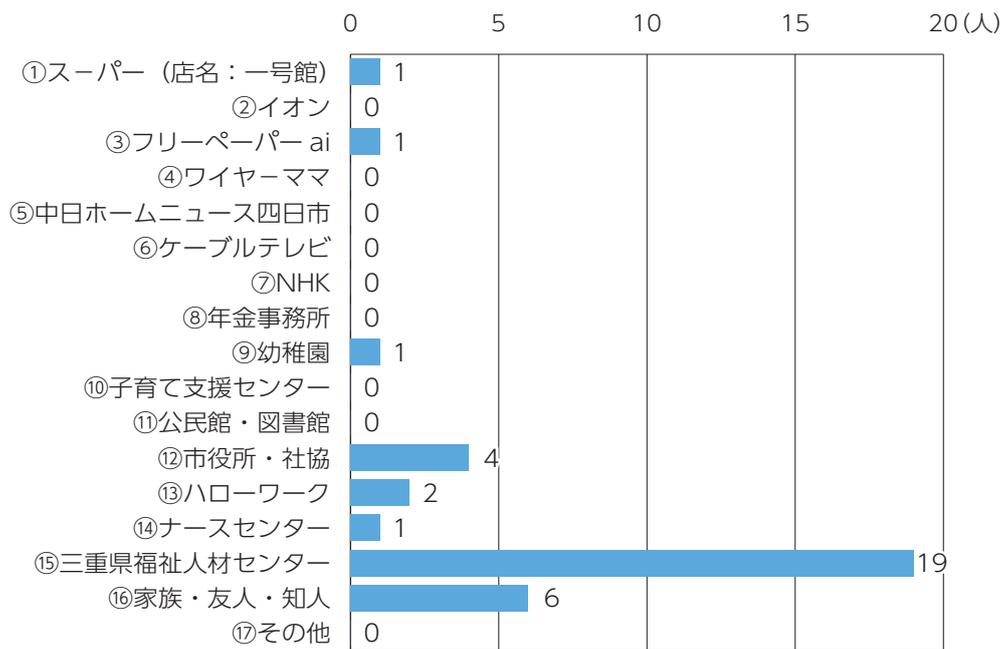


*④その他の回答は（シルバー）

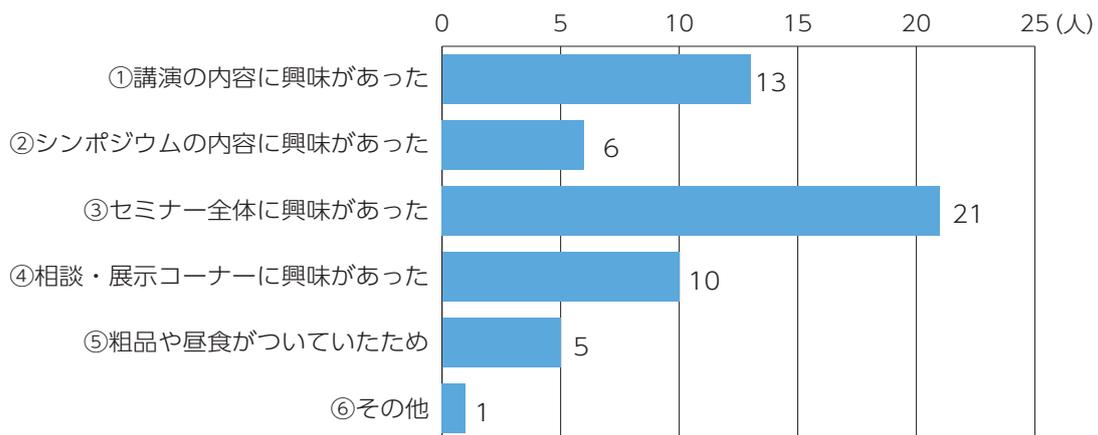
問2 あなたの年齢と性別を教えてください。



問3 今日のセミナーはどちらでお知りになりましたか？（複数回答可）



問4 どの分野に興味を持ち、ご参加いただきましたか？（複数回答可）



*⑥その他の回答は（代理）

*「④相談・展示コーナーに興味があったため」は、どの展示コーナーに行きましたか？

- 骨密度・血管年齢測定・栄養相談
- 介護用品展示コーナー
- 血圧測定・骨密度・血管年齢
- 骨密度測定・血管年齢測定
- 介護の相談
- シルバーカー
- 骨密度・血圧・血管年齢測定
- 全部体験した

問5 今日の講演会はいかがでしたか？

①良かった	24
②普通	8
③あまり参考にならなかった	0
無回答	2

具体的に：

- ・ 国のあり方 ‘一億総活躍’ をかみ砕いての説明があり、良く分かった。が、問題は、ただ単純に数値や比率で今の現状を打破できるとはとても思えない。現場の利用者の真の姿をとらえての社会福祉を考えなければいけないと思う。自分のこと全てを自分で行うのは無理。安易に地域力というが、そこでの育みがとても大切であることを再認識した。まずは、隣近所の気にしあう関係であると思った。国に言われてすることではない。生きていくための ‘力’ であると思った。
- ・ 社会とのシェアという言葉にハッとさせられました。連帯、応援し合う地域になるといいなと思いました。
- ・ 仕事と家庭とのバランス、時代とともに、地域・社会の支え合いがどれだけ大事か改めて感じました。
- ・ 仕事の働きやすい環境作りの話を聞いて良かった。
- ・ 今、そして、これからの社会に自分で何が出来るか、考えさせられました。
- ・ 家族の介護、義母・息子・義父・主人を送った後にこのセミナーを聞いたので、私自身、介護は「もう嫌かな～」と思っています。主人の介護が特に23年で体もガタガタになり、今、自分のメンテナンスしています。
- ・ 介護の仕事につきたい人はよかったと思う。私は70歳。主人の介護を終えて今度は自分がお世話になると思う。
- ・ 日本の人口減少について、よく理解できたし、この人口減少を防ぐため子供を増やすには、女性の社会進出、一億総活躍することで、人口減少を防ぐことがわかった。
- ・ 榊原智子氏に今の日本の問題を大変詳しく教えて頂きました。この様な貴重で、重要なお話が聞けて、本当に良かったと思います。全国に広めて頂きたいと思いました。
- ・ 資格を取りたいと思っていたので、勉強してみようと後押しされたような気持ちです。
- ・ 現在の置かれている日本の状況や具体的な事例などがよく分かった。これからの社会での、女性の活躍が大切であることがよく理解できた。
- ・ 他国と日本の状況を比較していただき分かりやすかった。未来の人口ピラミッドをみると、とても不安に思います。何とかしなければいけませんね。
- ・ 理想と現実とは、何タイコールとはならず、反比例だと思っています。女性の社会進出は良いのですが、子供がどこまで母親の仕事を理解してくれるか？様々な子供達（非行に走る子が多かった）を見てきたので、何とも言えないです。
- ・ 体調が悪い中、ご講演ありがとうございました。人口減少にある日本の社会状況が資料を見て分かった。

問6 今日のシンポジウムはいかがでしたか？

①良かった	26
②普通	4
③あまり参考にならなかった	0
無回答	4

具体的に：

- ・体験談は、こころにひびきます。理解ある職場、柔軟に対応してくれる職場が多いのかという印象をもちました。
- ・実際に現場におられる方の話を聞くことができ、よかったです。今後の仕事を探す際の参考になりました。
- ・それぞれの方たちが、女性の立場で働き方を考えてらっしゃるとは、とてもすばらしいと思いました。常岡さんの「勤務体系」を就職探しのポイントとすることも、とても大切だと思いました。
- ・自分も介護の世界へ入ってみようかと思えるお話をたくさん聞けたので。駒田先生の進め方もすごく楽しかったです。常岡さんのような上司のいるところで働けたら最高ですね。
- ・いろいろな方の働き方、又、各職場の周りのサポートの支え、働きやすくできるような体制、声かけ等、様々に身近に聞かせていただくことができました。本当にありがとうございました。今後、職に就く時の気持ちが受け止めることができました。仕事と家庭、育児との両立の大変さはありますが、すごく社会とのかかわりも知ることができました。
- ・チームワークを大事してくれたので良かった。何でも話ができるので良かった。
- ・実際の働いている方々の話を聞いて、大変現実的なことが理解できて良かったです。
- ・シンポジウムの方（水野さん）の具体的（せきららな）な経験談がとても参考になりました。百聞は一見に如かずが心に残りました。
- ・現場のことがよく分かりました。仕事についていた際は、協力し合っているいい職場になるよう努力したいと思いました。職場の中でのコミュニケーションも大切だと思いました。助け合い、大事ですね。
- ・実際に現場で就労しておられる方のお話が聞けたのがよかったです。特に、パート勤務の方の様子が変わり、よかったです。
- ・働きながら、育児をされている方のお話が聞いて良かったです。介護職の仕事の内容なども詳しく聞けたので、少しイメージがつかめました。
- ・福祉のことが理解できて良かったです。
- ・3人3様でよかったです。
- ・それぞれの方が、それぞれの立場から社会に貢献している姿を聞いて、自分も頑張ろうと思います。その方のお話も素晴らしかったです！！
- ・シンポジストの方の具体的な話が良かった。
- ・現場のことをわかりやすく話して頂き、職種は違いますが、共通に感じるところありま

した。相手を思いやる心チームワーク。

- ・年齢に関係なく「働きたい」思いは、持っている。大切な事だと思いました。
- ・パネリスト3名の話がそれぞれの立場で話をされて、とても分かりやすく良かったです。少しでも、福祉の仕事に興味をもっていただけたらと思います。
- ・労働状態が人口ピラミッドでよく分かる。

問7 今日の相談・展示コーナーはいかがでしたか？

①良かった	24
②普通	8
③あまり参考にならなかった	0
無回答	2

問8 その他、本セミナーに関して、お気づきの点、ご意見等ございましたらご記入ください。

- ・開催の時間帯が子供のいる女性が参加しにくいように感じました。曜日も幼稚園や学校の下校時間が早い水曜なのが、もったいないと思いました。(私はたまたま参加できたのですが……)
- ・女性にとって仕事のやりがいが高く分かり、すごく良かったと思いました。
- ・いろんな方の体験が聞けて良かったです。
- ・とてもいい機会をありがとうございました。現場の様子がよく分かり良かったです。
- ・介護現場は、今日新聞にのるくらいに事件がおきたりするが、職員の大変な所、給料に関して等、ちょっとマイナス面も聞きたかった。自分の姉が介護の仕事をやっていたので、いろいろ聞いたりして大変さがわかっているから～。現場の声をもっと前に出して働きやすい職場であってほしいと思います。
- ・今まで、一億総活躍とは。。。？という感じでしたが、駒田先生のコメントでよく理解できました。
- ・とても良い内容のセミナーだったと思います。ここだけでなく、県内のあちこちで聞いてもらいたいと思いました。
- ・会場の雰囲気も良く、まわりやすかったです。
- ・講師の急な病でのテレビ？会議（講義）ありがとうございました。(準備された方、お疲れさまでした)
- ・自宅介護における、資金援助などの方策があれば教えてほしいです。
- ・3人のシンポジストの方が、皆さま言われたことで、「感謝」のことは、心に残りました。
- ・施設長さん、職員に対しての気持ちの暖かさが伝わってきました。
- ・もう少し時間（午前中）があればと思いました。

問9 今後、どのような内容のセミナーがあれば受講してみたいですか？

具体的に：

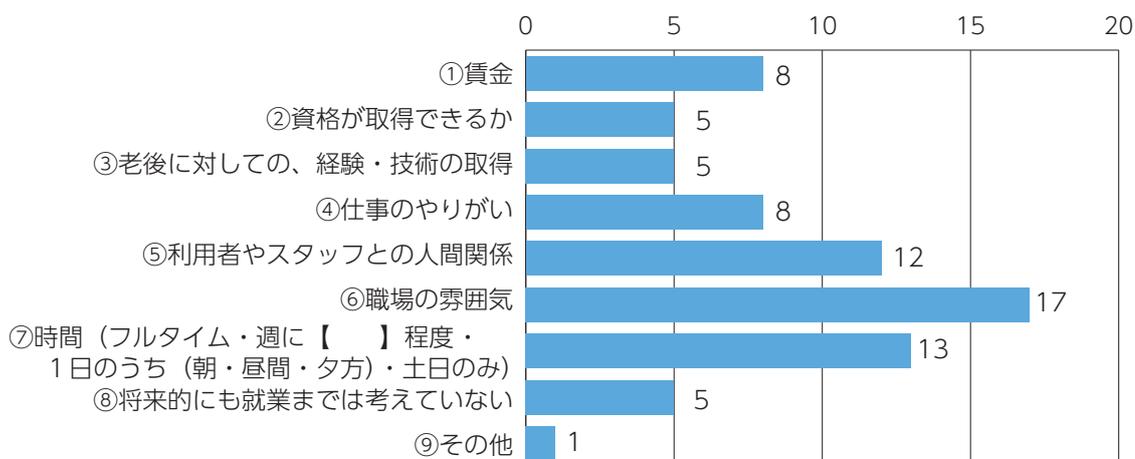
- ・介護の実践
- ・認知症について
- ・車の運転に関して（将来、車に乗らなくなった時の対処とか地域の助け合いとか
- ・今日の様な内容のセミナー
- ・体験型のもの
- ・家庭内、家族でみる介護……
- ・人材育成
- ・介護だけでなく、ネグレクト等、色々やって欲しいですし、栄養学、心理学等もやって欲しいです。
- ・食生活等々

問10 ふだんは、どのような媒体でセミナーや研修の情報をチェックしていますか？複数

数回答していただいて結構ですので、具体的な名前をご記入ください。

- ・県・市町広報（複数）
- ・ケーブルテレビ
- ・お知らせ版
- ・社協の掲示板・掲示物
- ・子育て支援センター等よりチラシ等
- ・ハローワーク等での案内チラシに細かく目を通している
- ・福祉人材センターさんからの案内（複数）
- ・労働安定センター
- ・案内の郵送やTEL
- ・証券会社案内
- ・職場内の掲示
- ・朝日・中日・伊勢新聞（複数）
- ・フリーペーパー（ai）
- ・インターネット（複数）
- ・津社協のホームページ
- ・姉の情報
- ・歯科医の先生から
- ・特にしてないです

問11 今後、介護や福祉の仕事に就くとしたらどのような条件を優先させますか？（複数回答可）



*⑦の内訳

- ・週に【2～3】日程度
- ・週に【3】日程度・1日のうち（朝・昼間）
- ・週に【5】日程度・1日のうち（朝・昼間）
- ・フルタイム
- ・週に【2】日程度
- ・週に【3】日程度・1日のうち（昼間）
- ・その他（週に3日うち6時間程度）
- ・フルタイム・週に【4～5】日程度・1日のうち（昼間）
- ・フルタイム・週に【5】日程度
- ・週に【1】日程度・1日のうち（朝）3～4時間程度
- ・週に【2】日程度・1日のうち（朝・夕方）

*⑨の内訳

- ・年齢的に無理・体力的に無理

VI

「あなたのライフプランから考える福祉の仕事のはじめ方」セミナー

奈良県福祉人材センター

1 事業実施結果

(1) 実施の背景

奈良県（以下、本県）は、近畿地方のほぼ中央にあり、大阪府・京都府と隣接し、公共交通機関の利便性が高いことから、県外就業率（他県で就業する人の割合）は、28.8%で全国第2位と高い水準である。【平成27年国勢調査 従業地・通学地集計結果より】

本県における介護分野の有効求人倍率は、平成29年11月時点で5.37倍【職業安定統計より】と年々上昇し、施設・事業所で今、必要とする利用者へサービス提供できる人材確保が急務の状況である。

また、本県の女性就業率は58.5%【男女共同参画白書 平成29年度版より】と全国で最も低い状況である。今後、女性活躍推進に向けた環境整備が進んでいくことにより、潜在する未就労女性の労働力が期待できる。特に、未就労女性が約80,000人とする県北部の奈良市・生駒市・大和郡山市での人材の掘り起こしが期待できる。

上記の状況を踏まえ、本県は、「就労していない女性」を対象に、県北部地域において、就労意欲の喚起から介護人材確保へとつながる事業を実施した。



(2) 事業内容

①事業名

「あなたのライフプランから考える福祉の仕事のはじめ方」セミナー

②ねらい

従前事業では、介護の仕事への就労意欲がある前提で、復職支援や仕事に興味がある方を限定とした企画を行ってきたが、「就労していない女性」が興味を持ち、就労意欲の喚

起につながるテーマとして、私自身と家族のこれからのライフイベントを見据えた『ライフプラン』をファイナンシャル・プランナー（以下、FP）のアドバイスをもとに描き、これから必要な資金を得ていくために働くことの提案とその不安や悩みの払拭、今の希望に合った多様な働き方ができる介護の仕事へつなげる内容とした。

③趣旨

結婚、出産、住宅購入、老後の生活……女性にはさまざまなライフイベントがある。働きたい女性と、共に暮らす家族の人生設計（ライフプランニング）をたてることは、それぞれの方に合った働き方を考えるベースとなる。

そこで、働きたい女性を対象に、ライフプランづくりと先輩女性の体験談からの学び、働くための基礎的な知識を得て、多様な働き方を提供できる「福祉のお仕事」を目指していただくことを目的とする。

④実施プログラム

	日程	内容
第1回	12月8日（金）	「私のライフプランづくりへ～仕事と家族とお金と～」 ・ライフプランとは。 ・個別ライフプラン作成に必要なヒアリングシートの記入説明 講師：凜法務行政書士事務所 ファイナンシャルプランナー 林 紫乃氏
第2回	12月15日（金）	「家庭（子育て）と両立する先輩に聞く！ 私らしい働き方と暮らし方」 ・3人の先輩職員の体験談を聞こう 協力：①特別養護老人ホームならやま園 リーダー長 上村 久美氏 ②けいはんなデイサービスセンター 介護職 井山 亜紀氏 ③生活支援センターあけび 支援員 小畑 美妃氏
第3回	1月18日（木）	「働く時の基礎知識～知ると得する労働法規～」 ・労働法に関する基本的知識（雇用形態、労働契約、社会保険、給与等を知る） 講師：草香社会保険労務士事務所 社会保険労務士 草香 有子氏
		「福祉・介護の現場への就活レッスン」 説明：奈良県福祉人材センター 「あなたのマイライフプランをプレゼント」 ・プランの活用方法の説明 講師：凜法務行政書士事務所 ファイナンシャルプランナー 林 紫乃氏

※会場は、いずれも奈良県女性センター（奈良市）

※時間は、いずれも13：30～15：30

⑤企画協力

未就労女性を対象とした初めての事業企画のため、内容の妥当性や時期・時間の設定、周知方法などについて、奈良県女性センターのアドバイスをいただいた。女性の就労への興味が高いこと、特にマネーに関する講座はすぐに定員に達するほど人気があること、行楽シーズンである秋は避けること（天候が良いと当日キャンセルがある）、セミナー時間は2～3時間程度が良いことなどを参考に企画に反映した。

ライフプランの講義及び参加者個々のライフプランの作成は、FPの協力が不可欠であることから、日本FP協会・奈良県支部を通じて、全国組織から講師を推薦いただいた。

ライフプランヒアリングシート

⑥参加者特典

第1回目のライフプランに関する講義を踏まえ、参加者にライフプラン作成シートを配布し、提出のうえ、FPによる個別のライフプランの作成期間をもち、第3回目に各個にライフプランシートをプレゼントした。

⑦配慮事項

子育て中の女性の参加を想定し、保育士による託児サービスを実施。いずれの日程も1名の利用があった。

(3) 広報方法

①発送先

セミナーチラシを作成し、県北部対象3市を中心に下記のとおり発送のうえ、配布。

チラシ作成数：35,000部（内、ポスティング28,000部使用）

発送先：3市行政・社会福祉協議会・図書館・公民館

該当ハローワーク・県域行政機関など 63箇所

②利用広告媒体とその評価

アプローチ方法	評価	評価の理由・コメント
フリーペーパー広告 (Co-to-mama)	1 ② 3・4・5	子育て情報誌として幼稚園・小児科・子育て支援センターなどに設置されているが、反応なし。
フリーペーパー広告 (マイタウン奈良)	1・2・3 ④ 5	対象エリアのポスティングフリーペーパー。20～60代女性の読者が多く掲載広告を見て参加者あり。

フリーペーパー広告 (ならりビング)	1 ② 3・4・5	対象エリアの新聞折込フリーペーパー。認知度が高く、女性の読者多いが、反応なし。
チラシのポスティング	1・2・3 ④ 5	対象エリア内の小学生生徒数が多い地域にチラシをポスティング。直接目に触れることから参加者あり。
Facebook広告	1 ② 3・4・5	対象エリアの女性に広告配信。2,800人にリーチしたが、反応なし。
フリーペーパー求人紙 (人材ニュース)	1 ② 3・4・5	企画に賛同いただいた求人紙発行会社より無料で広告掲載も反応なし。
ならどっとFM 番組での宣伝	1 ② 3・4・5	日本FP協会・奈良県支部長出演番組で紹介いただくも、反応なし。
無料イベントサイト への登録	① 2・3・4・5	イベントバンクプレス、ことさが、読売奈良ライフに登録するも、反応なし。

マイタウン奈良（広告原稿）

奈良新聞（12/9）掲載記事

（４）結果

①参加者数

第1回：1名、第2回：1名、第3回：3名 延べ5名

②アンケート集計結果【概要】

- a. 年代 20代：1名、30代：2名、50代：1名
 b. セミナーの受講動機（複数回答）

内容	人数	%
a. 仕事を始めたいと考えているため	3人	33.3%
b. ライフプランを作成してもらえるため	1人	11.1%
c. 福祉や介護の仕事に興味があるため	2人	22.2%
d. 働いている女性の話が聞きたいため	2人	22.2%
e. その他	1人	11.1%
合計	9人	100.0%

その他：（これから働いていくための知識についてのセミナーを受けたかったから）

c. 内容の理解度

すべてのプログラムについて（3日間6プログラム延べ回答数）

	人数	%
a. よく理解できた	11人	91.7%
b. まあまあ理解できた	1人	8.3%
c. 理解できなかった	人	0.0%
d. 内容がもの足りなかった	人	0.0%
合計	12人	100.0%

d. 参加者の感想

- ・ベテランとよばれるまで事故もなく、継続勤務ができるようになりたいです。
- ・1回だけの参加でしたが、とても良いセミナーを受けさせてもらい、ありがとうございました。
- ・家計が赤字になるタイミングがキャッシュフロー表で分かってよかった。正規雇用を目指してがんばりたいです。

2 成果・発見

(1) これまでは、仕事を探す求職者全般を対象に「やりがいがある」「未経験や無資格でも可」「働きやすい職場」などをうたい文句に就労へつなげる事業を実施してきた。

今回、「未就労女性」を対象としたことから、福祉・介護の仕事を全面に出さず、ターゲット層の暮らしのニーズに着目し、自分と家族の将来設計につながるライフプランの切り口から就労の必要性を感じてもらい、就労するなら多様な働き方が選択できる介護の仕事へとつなげていくというこれまでにない形での事業企画を進めることができた。

このことから、介護人材のすそ野拡大のターゲット（若年・未就労女性・中高年など）のニーズに応じた仕掛けの重要性と企画力が求められることを実感した。

(2) モデル事業を活用して、これまで実施したことのない広告媒体（子育て情報誌への広告やチラシポスティング）の活用することで効果の有無を測定できたことから、人材センターが実施する既存事業における有効な広報方法の選択につながった。

3 失敗・反省点

(1) マイライフプランをプレゼントした参加者には将来の生活設計に役立つと喜んでいただいたが、ライフプラン自体の内容をチラシなどで十分に周知できず、セミナー趣旨が伝わらなかったことが、参加者数につながらなかったと考える。

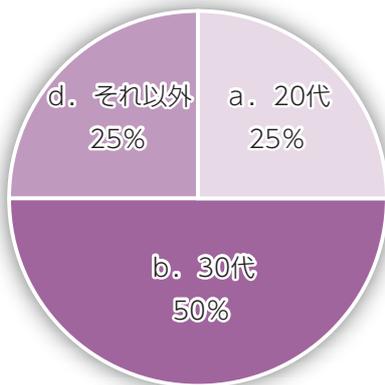
(2) FPによるマイライフプランの作成のため、期間を空けた3日間の日程とし、さらに年末年始を挟んだこと、また、連続参加でしかセミナー趣旨が伝わらないことから参加の躊躇になったと考える。

(3) 県や市町村行政の広報紙への掲載の有効性、子育て世代の情報収集媒体であるSNSの活用が効果あることの情報取得が遅れ、活用できなかった。

6 受講者アンケート結果

申込者	4名
出席者	4名
回答者	4名
回答率(回答者/当日出席者)	100%

Q1. あなたの年齢は？



Q2. 介護業務の経験の有無について

内容	人数	%
a. 有り	2人	50.0%
b. 無し	2人	50.0%
合計	4人	100.0%

→

職種	
介護員	1人
ヘルパー	1人

→

経験年数	人数	%
6ヶ月未満	0人	0.0%
6ヶ月以上1年未満	1人	50.0%
1年以上3年未満	1人	50.0%
合計	2人	100.0%

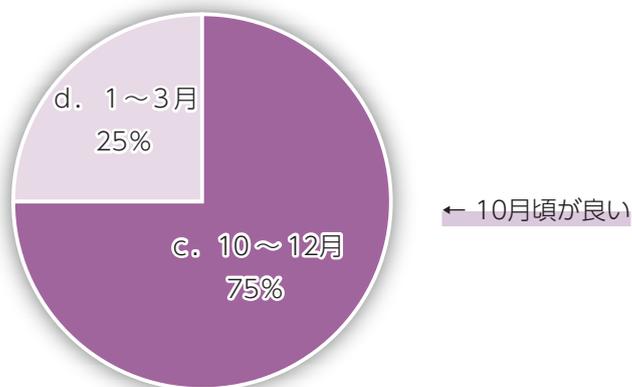
Q3. セミナーの受講動機について教えてください（複数回答）

内容	人数	%
a. 仕事を始めたいと考えているため	3人	33.3%
b. ライフプランを作成してもらえるため	1人	11.1%
c. 福祉や介護の仕事に興味があるため	2人	22.2%
d. 働いている女性の話が聞きたいため	2人	22.2%
e. その他	1人	11.1%
合計	9人	100.0%

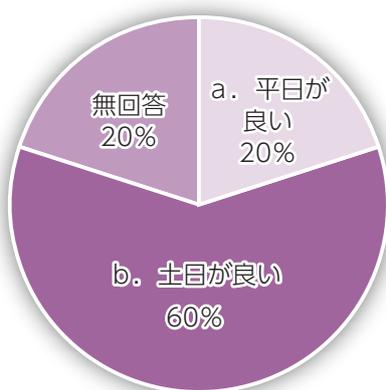
Q4. 本日のセミナーは何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

内容	人数	%
a. ポスティングチラシ(マイタウン奈良挟み込み)	1人	25.0%
b. 「ことまま」の広告	人	0.0%
c. 「マイタウン奈良」の広告	2人	50.0%
d. 「ならリビング」の広告	人	0.0%
e. ハローワーク、図書館等の公共機関のチラシ	人	0.0%
f. 福祉人材センターfacebook	人	0.0%
g. 知人・友人からの紹介	人	0.0%
h. その他	1人	25.0%
合計	4人	100.0%

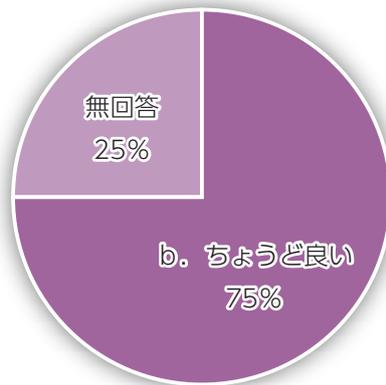
Q5. 本日のセミナーの内容についてお聞かせ下さい。



②開催曜日について



③時間について



④内容について

12/8：私のライフプランづくりへ～仕事と家族とお金と～



内容についてのご意見

〈講義〉【まあまあ理解できた】

- ・FPの先生のお話がおもしろくてためになった。

12/15：家庭（子育て）と両立する先輩に聞く！私らしい働き方と暮らし方



内容についてのご意見

〈講義〉【よく理解できた】

・10年以上の経験を持っている先輩の話を聞いた良かった。

12/15：座談会



1/18：働く時の基礎知識～知ると得する労働法規～



内容についてのご意見

〈講義〉【よく理解できた】

・詳しく知らなかった保険について分かりやすく説明いただいて新しい知識を得ることができました。

1/18：福祉・介護の現場への就活レッスン



内容についてのご意見

〈講義〉【よく理解できた】

- ・奈良県の福祉の現状や就職相談をすることができる「福祉人材センター」のことを知ることができました。

1/18：あなたのマイライフプランをプレゼント



内容についてのご意見

〈講義〉【よく理解できた】

- ・キャッシュフロー表をいただいたことによって将来について考える機会をいただきました。

Q6. 今後の就労意向について



【希望勤務形態】

- ・ すぐにでも就職したい
→ 常勤：1、パート：1

- ・ 少し先に就職したい
→ 正規：1、パート：1

Q7. 介護の仕事への就職に際して、不安だと感じている事は。(複数回答あり)

内容	人数	%
a. 未経験で受け入れてもらえるか不安がある	人	0.0%
b. 自分の希望や適性に合う就職先が見つかるかどうか不安がある。	3人	60.0%
c. 体力面の不安がある	2人	40.0%
d. 希望する収入が得られるか不安がある	人	0.0%
e. その他	人	0.0%
合計	4人	100.0%

Q8. 福祉人材センターの利用状況について



Q9. 就職活動を行う上で「こんなものがあれば助かる」と思うことがあれば教えてください。

- ・車がなくても通えそうな職場の情報+保育施設
- ・調理師免許が活かせる場所があれば

Q10. 今後、希望する内容や要望、その他本会・人材センターへの希望事項について明記して下さい。

- ・現在、介護に関する問題が増えてゆく社会状態を知って、少しでも役立てそうな職につきたいと考えていたので、セミナーに応募しました。産後の回復に時間がかかり、結局2回とも欠席してしまい申し訳なかったです。このようなお心遣いをいただき、感謝しております。
- ・ベテランとよばれるまで事故もなく、継続勤務ができるようになりたいです。
- ・1回だけの参加でしたが、とても良いセミナーを受けさせてもらい、ありがとうございました。
- ・赤字になったタイミングがキャッシュフロー表で分かってよかった。正規雇用を目指してがんばりたいです。

ふり返し・総括

ご紹介した6か所の人材センターでのモデル事業への取り組みのふり返し・総括について、以下のように整理してみた。

1 宮城県

他の人材センターが人の集まりやすい会場やショッピングモールなどでイベントを行ったなか、宮城県福祉人材センターは県内5か所の特別養護老人ホームを会場とし、呼びかけもあえて広域的には行わず、施設の所在する中学校区に広報を限定して事業を設定したところに特徴がある。

こうした設定をすることで地域住民に地元にある施設の生の現場を知ってもらい、介護の職場を身近に感じてもらうとともに、施設側にとっては今回の事業を通じて我が施設の地域での周知度・理解度などを感じ取ることができたといった効果もあったようだ。

アプローチ方法ではチラシやポスティングもある程度の成果にはつながったが、□□ミ（地域の民生委員・福祉委員の参加の呼びかけ）が最も成果が上がったという結果となった。チラシなどを通して「情報が手元に届いた」だけでは参加に向けた十分な動機づけにはならず、もう一步、知り合いや友人からの「必要性、有効性、楽しさ、手軽さ」などを含んだ声かけがポイントになったと分析している。

1件の施設を除いては1ヶ台の参加者数という結果ではあったが、狭域のみの呼びかけで絶対数が限られていたのでやむを得ない側面もあり、当日はむしろ少人数だということで参加者と開催者との距離が縮まったというプラスの面もあったように思われる。

正月休みの直後を含めた1月に研修会を集中させたことも参加者が伸び悩んだ一因と分析しており、外出しやすい「開催時期」の重要性を再認識できたことも収穫といえる。

「参加対象の制限をせず、まず来てもらう」「申し込み段階では就労に関わることを細かく聞かない」「電話でも申し込みも可など、申込手続きを簡素化する」「参加者層を踏まえ、プログラムを詰め込みすぎず、シンプルにする」「案内・周知に時間的な幅を持たせる」などといった手がかりも得られた。

研修会自体も、狙った年齢層の参加があり、内容も好評で地域での施設が持つ介護の専門性の評価が上がるなど、所期の成果が上がったものと思われる。

一方で、アンケートで「働きたい」という回答につながった件数は3割程度であり、「ボランティアやお手伝いならば可」との回答がこれに続いた。継続的な魅力の発信や関係性の維持が、今後のポイントになるといえる。

2 埼玉県

埼玉県福祉人材センターは人が集まるショッピングモールを会場に選定し、特に買い物客で賑わう日曜日にフェアを開催したが、明瞭な告知によりイベントの趣旨や何をやるのがきちんと伝わったことで、より参加してもらいたい層を大量に、効果的に集めることができた。

そのせいか、働くにあたっての希望の条件さえ満たせば、介護の仕事に興味を持てるとアンケートで回答した比率が4割を超えるという結果となった。

事前の告知もさることながら、イオンモールという集客力のある会場を手配できたことのメリットも大きく、目を引く催し物などにより、通りすがりに立ち寄った人々も巻き込むことができた。

介護福祉士でモデルの女性によるセミナーのほか、健康運動、認知症、介護ロボットの装着体験、エンディングノートなど、多岐にわたる言葉の発信も通りすがりの人々の関心にアプローチできたものと思われる。

DMにより効果的に伝えることができたほか、地元地方紙としっかりと連携・委託をすることで事前案内の記事やPR業務から開催報告の記事までの一貫した流れをつくることができた。

「就労していない女性は賃金や職場までの距離を重視」「中高年齢層は就業時間や賃金よりも職場までの距離や職場の雰囲気重視」「介護の仕事に興味を持ってもらうイベントには『健康運動』の要素を取り入れると有効」などといった手がかりがアンケートからは得られている。

DMなどで案内した参加者層では「認知症」など自分自身の介護予防に興味がある比率が高く、今後、一般の人に呼びかけを行う際のキーワードになりうると思われる。

その一方、介護施設の見学会への参加意向がアンケート回答者の3割程度と高いので、リーチしていない潜在希望層の掘り起こしが課題である。

3 神奈川県

かながわ福祉人材センターは政令指定都市である横浜市をセミナー会場にはせず、海老名市と藤沢市という県内でも概ね標準的な規模の市と、市では人口も多い藤沢市を選定し、2か所で開催した。無関心層を参加対象から外し、何らかの形で就労したいと考えている層に呼びかけを絞った点にも特徴がある。

結果としては、第1回目の海老名市では呼びかけに反応した参加者はなく、普段から個別相談に関わっている人の参加のみとなった。しかし、第2回目の藤沢市では第1回目の呼びかけ方を見直し、参加対象を中高年齢層に絞り、アプローチの媒体に選んだタウン誌の掲載を早めたところ、参加者は27名に増え、特に地域住民の参加が多く、「福

社人材センター」の存在を知らなかった人も含まれた。

アプローチ方法としては、タウン誌による広報に一定の成果があり、事前のミニセミナーや相談会なども参加へのきっかけづくりに役立った。また、個別相談がきっかけとなった方は確実な参加につながったと分析している。

チラシの新聞折込やタウン誌は効果的だったが、購読者層がアプローチ対象と異なるミニコミ誌などは効果が薄かった。また、ラジオCMがきっかけとなった参加者はおらず、この方法を採用するとすれば、複数日告知するなどの工夫が必要だと実感された。

開催日の設定については、他の介護・福祉関係のセミナー・ガイダンスなどと日程が近くなったり、重複しないよう、他機関・団体の状況なども踏まえて時期を設定することが必要であった。

開催の場所・エリアについては、海老名市と藤沢市というほぼ同程度アクセス条件のエリアでも、その地域に居住する層の比率の違いなどにより、反応に差が出た。

実施後の状況としては、2つのセミナーを通じて求職登録した人はいたものの、実際の見学・職場体験、就職相談会などまでつながる人は限定的だった。

また、一言で「アクティブシニア層」という一年齢層でも個人差が大きい状況があり、求人情報などさまざまな分野や業務内容、職員育成、新任指導状況の情報があることなどのPRを行うことが必要だといえる。

セミナー参加者で前向きな反応をされた人でも、一定の時間がたつと次の相談会などへの参加が億劫になる場合もあると考えられるので、“熱”が冷めないタイミングでの相談会などとの同時開催をするなどの工夫も必要だと分析している。

アンケート結果を見る限り、セミナー自体の評価は良好であった。また、賃金・待遇もさることながら、仕事の中身・内容に関心を持って集まった方が多かったことが確認できる。

フリーアンサーのコメントからは、「今までの人生経験がそのまま役立つ」、「未経験者の就職も可能」、「採用後に資格取得ができる」、「高齢者でも可能な介護の仕事がある」などが、中高年齢層が働いてもよいと思う際のキーワードだと類推できる。

4 長野県

長野県福祉人材センターは長野市と松本市の2か所を会場に、「福祉の職場説明会」のイベントに位置づけてモデル事業を実施し、参加対象となる層を聴取層として多く持つ局を選んでラジオCMの放送依頼するなどの取り組みを行ったが、反応は薄く、CM回数をできるだけ増やすことを優先させるべきだったことが反省点だとふり返っている。

集客の目玉に設定したトークセッションはイベントの盛り上がりにはつながったが、

来場者増や求職・採用につながる要素はあまりなかった。

一方で、チラシの新聞折込は、新聞広告の高い費用やサイズの小ささと比べて有効であった。また、広告を掲載しても、新聞は読み終わり閉じてしまえば再び開かれる可能性は低いが、チラシは興味のある人は抜き出してとっておいてくれるなどのメリットも実感することができ、「開催を知らせる」という点では確実に、効果は大きいことも分かったが、訴求性の高い折込向けのチラシのデザインを研究していくことが今後の課題だと捉えている。

長野市の会場ではラジオパーソナリティによる集客を試み、効果があまり上がらなかったのに対し、松本市の会場では「自分を活かして働く」をテーマに専門の講師によるセミナーを開催して良好な反応を得た。参加者のニーズにより近いプログラムを企画することが、人を集めるポイントの一つとなるとし、さらに、ターゲットを絞ることの必要性についてもレポートされている。

アンケート結果からは、ハローワークからのDMや介護労働安定センターの広報が参加のきっかけとなっている件数が多いこと、就職活動や福祉の仕事に対する興味が参加動機になっている件数が多いこと、中高年齢層が介護の仕事に就くことについては概ね肯定的であり、やりがいやこれまでの経験を活かせる点に魅力を感じているコメントが多い一方で、体力面やフルタイム勤務への不安も抱えていることなどが確認されており、多種多様な仕事や働き方が介護施設にもあることなどの情報を積極的に伝えていく必要があるといえる。

5 三重県

三重県福祉人材センターが四日市市を会場に実施したセミナーでは、呼びかけのターゲットを絞り、スーパーや幼稚園、働いていない女性の目に触れるような情報誌や場所に掲示やチラシ配布を集中させたが、掲載期間の短さが反省点として残った。

働いている主婦層に向けて案内をしながら、セミナー自体をそうした層が参加しやすい曜日や時間帯に設定できていなかったことも反省点として確認されている。

一方で、ハローワークや市役所など普段から協力を得ている場所では呼びかけも一定の成果があがり、また、人材センターへの登録者なども本人の目的と近いせいか、高い確率で参加につながった。

各個人が持つ家族や友人・知人など、「相談者」からの口コミで開催の情報が広がり参加につながっている可能性が確認できたことは、次回からのイベントの周知先などを組み立てる際のヒントとなると思われる。

さらに、家族や友人・知人などの紹介により参加したグループと、市役所や社協などで情報を得て参加したグループと、ルートの違いにより参加の理由が違っていることに

気づけたことも、今後の類似のイベントの併催企画を検討する際には役立つと手がかかりとなるであろう。

情報の収集方法のなかで「インターネット」が年齢層に関係なく定着してきていることが確認できたのも、今後の情報発信ツールを組み立てる際のヒントとなったといえる。

アンケート結果からは、セミナー自体も中高年齢層や主婦層などが介護の職場に参入していく意義について、背景にある生産年齢人口の減少やこれに対応する政策なども含めて参加者から肯定的に理解される機会となったことが窺われ、企画内容も良好だったことが分かる。

参加者の具体的な就業にあたっては、「利用者スタッフとの人間関係」「職場の雰囲気」「勤務時間が柔軟であること」が突出して優先度の高い項目となっており、参入の促進に向けては、事業所にこうした実態を理解させていくことも重要になるといえる。

6 奈良県

奈良県福祉人材センターはターゲットとなる未就労女性層が関心を寄せやすい「ライフプラン」をテーマに、ファイナンシャルプランナーから直接アドバイスや講義が受けられるセミナーを企画した。

アプローチの手法としては、まず、フリーペーパー3誌に広告掲載したが、それぞれの購読者層の差により、効果に違いが出た。また、ポスティングも効果的だった。

さらに、ターゲットのニーズに応じた仕掛けや企画力の重要性が実感できたほか、今後の人材センターの広報戦略に関して有効な媒体を見つけ出す手がかかりも得ることができたとレポートされている。

セミナーへの参加者は少数にとどまったが、「ライフプラン」という切り口で呼びかけを行ったためか、就業への意欲・関心の高い層を集めることができた。

ただ、イベントの目玉である「マイライフプランのプレゼント」を広報媒体のなかで十分に周知できなかったこと、期間を空けた3日間でフルのプログラムという開催日の設定が参加のしにくさにつながったと思われること、準備時間の不足で子育て世代の情報収集媒体であるSNSの活用まで展開できなかったことなどが反省点だとしている。

参加しやすいプログラムや会場の設定や雰囲気などに配慮し、SNSを活用した広報などを加えながら次年度もトライしていくという抱負もコメントされている。

アンケート結果からは、セミナー自体は、ライフプランの作成・アドバイスという企画も、介護や福祉の仕事の情報提供というねらいの面でも、初期の成果があがったと思われるアンケート結果であった。

就業にあたってこだわりたい条件としては、通勤面（車がなくても通える）、保育施設がある、持っている資格（調理師免許）が活かせる、などがあげられた。

今までの取り組みと違う要素を取り入れた分だけ、想定外のことも多かったようだが、発見の多いモデル事業になったものと思われる。

今回のモデル事業を通じて特に確認したかった事項については103頁の（別表1）にまとめた通りだが、6か所の人材センターの取り組みから見てきたことがいくつかある。例えば、狭い、小区域のエリアにイベントの案内をする際には、「口コミ」が有効である要素が複数件で見られたことだ。広告媒体などによって開催情報を相手の手元に届けただけでは参加への動機づけとしては十分とはいえず、そこに「安心して参加できるイベントである」「あなたに向けた催し物である」という友人や知人、地域の支援者などからの後押しの一語によって、単なる「情報」が「信頼できる情報」となり、より多くの、そして、主催者側の目指すものと一致した人々の積極的な参加を効率的に得るための一つの手がかりとなりそうだ。

ただ、広域的に案内をするとなると「口コミ」にも相当な仕掛けが必要となり、限界も見えてくる。今回の取り組みで広いエリアへの呼びかけで着実な評価を得たのは、新聞折込によるチラシの配布であった。同じ新聞でも広告掲載となると、紙面が小さい割にコストが高く、新聞を読み終えてしまうと閉じられ、しまわれて、再び読んでもらえる確率はかなり低いのに対して、折込の場合は、興味がある人はチラシだけを取って置いて催し物に持参してくるといった状況が確認されている。

インターネットやSNSなどを推す声もあったが、実際の効果の面ではほとんど成果が上がらず、地味で、オーソドックスながらもチラシによる配布が集客につながったというのは、中高年齢層や子育てを終えた主婦という「世代」によるものもあるのかも知れない。また、DMと比べて新聞の方が有効な結果が多かったのも、新聞を情報源とする「世代」だからではないかと推測される。ただ、これはあくまでも特定の「世代」の傾向に過ぎず、人材センターが行う他の世代への情報発信にまで汎用できるものではない点は注意をする必要がある。

タウン誌、ミニコミ誌などは成果にばらつきが出た。単にターゲットと情報誌の購読者層との一致だけではなく、購読者が求めている情報がどんなものか、例えば、収入や仕事、社会参加、キャリアアップといった情報を求めて読まれている媒体なのかを事前にチェックして広告掲載をしていかないと、成果に差が出ることになるようだ。

ラジオCM放送については、全体的に成果が上がらなかった。催し物の趣旨、内容、開催日時、場所などを限られた時間の枠内で伝えることは難しく、インパクトはあるものの、「話題提供」程度の効果にとどまってしまったようだ。いくつかのレポートにある通り放送の頻度を増やすことができれば効果は上がるのかも知れないが、現状としては、コスト面などを考えても、優先的に選択するアプローチ手法ではなさそうである。

また、アプローチ手法以外にも、催し物の内容やその案内の方法にも一考の余地があることも確認された。せっかくの興味深い企画も、呼びかけの際に込めるべき「伝えたいメッセージ」が広告の紙面から漏れていたり、参加者目線の伝え方になっていなかったりして、うまく参加につなげられなかった事例が散見された。ラジオパーソナリティなどを目玉に企画してみたものの反響は少なく、所期のねらいを十分に達成できなかったケースなどもあった一方で、参加者のニーズを的確に捉えた企画によるイベントでは、参加者数だけでなく、反応についても良好だったという事例も報告されている。

さらに、周知の期間や開催日時などについても、反省点が確認できた。催し物の開催を周知する時間が十分に確保できなかったケースでは、総じて参加者が伸び悩んだ。開催日時についても、ターゲットとなる層が最も参加しやすい時間帯や曜日などでの設定や、例えば、中高年齢層では、参加が負担にならないような短時間でのプログラムにするなどの配慮の必要もありそうだ。加えて、今回のモデル事業では、35万部発行のタウン誌への広告掲載など広域的な呼びかけを行い、ショッピングモールを会場に介護をPRするイベントを催したケースから、中学校区を呼びかけ単位とし、そこに所在する特別養護老人ホームを会場にした介護の職場を知ってもらう研修会まで実施されたわけだが、催し物の趣旨や内容、ねらいに合わせた会場選定ということも成果を分けるポイントになると思われる。

モデル事業への参加者に対してのアンケート結果では、予想以上に介護の職場で働くことに肯定的な回答が多かった。詳細については6か所の人材センターが集計したアンケート結果を参照いただきたいが、就業にあたって意識するポイントでは、主婦層は「収入」が根強いものの、中高年齢層では違って、年齢層が高くなるにつれて「職場の雰囲気」「仕事の内容」などが増加する傾向となっている。また、全ての層を通じて「職場からの距離」が上位となっている点も留意したい。今後の事業所との関わりのなかで今回確認できた傾向を情報共有し、こうした層を円滑に受け入れていくための環境や条件の整備を働きかけていく必要があるといえる。

これまでの人材センターの事業では、特定の層にターゲットを絞り、介護の仕事に興味をもってもらうためのアプローチを様々な手法を活用しながら行うなどという経験は皆無に近かったわけだが、複数回の催し物を実施したセンターでは、1回目よりも2回目、3回目と、実践を重ねるごとに良好な結果となり、手際も良くなるなど、短いインターバルのなかでも修正、改善が試みられていて、手探りで迷走しながらも今後につながる貴重な手がかりを数多く得たことが報告されている。

最後に、今回のモデル事業に参加した6か所の人材センターには、取り組みを通じて培った経験を糧に新しいすそ野の層へのアプローチ手法にさらに磨きをかけていただきたいが、他の全国の人材センターにおかれても、本事例集に抽出・整理された留

意点を踏まえながら試みを開始され、将来的には、全ての都道府県において介護の職場への様々な人材の参入が円滑に進められていくことを願いたい。

(別表1)

「介護人材のすそ野を広げるための
『就労していない女性』『中高年齢層』への
効果的なアプローチについての
モデル事業の実施概要と評価・分析

	アプローチ対象エリア	採用した手法	参加者数（名）	
宮城県	【中高年齢層向け 初めての介護研修】 ※いずれも仙台市内			
	①青葉区内-国見／貝ヶ森／国見ヶ丘等 7,000世帯（約14,000世帯中）	①地元新聞の折り込み（12月21日の河北新聞）	中高年	6
	②青葉区内-水の森・東勝山・あけぼの町・鷺ヶ森・双葉が丘・荒巻3地区・桜ヶ丘・中山・滝道等 17,450世帯（約17,500世帯中）	②軒並ポスティング（12月20日から3週間で配布）	中高年	5
	③宮城野区内-鶴ヶ谷・東・北・自由が丘周辺 8,000世帯（約8,000世帯中）	③軒並ポスティング（12月20日から2週間で配布）	中高年	4
	④太白区内 - 四郎丸・袋原・中田 7,000世帯（約12,000世帯中）	④地元新聞の折り込み（12月21日の河北新聞）、及び、口コミ・関係者での呼びかけ依頼	中高年	11
⑤泉区内 - 実沢・舘・中山 7,000世帯（約13,000世帯中）	⑤地元新聞の折り込み（12月21日の河北新聞） その他 ・地区内社協、町内会での広報	中高年	6	
埼玉県	【第9回健康・福祉フェア in イオンモール与野】 さいたま市、上尾市	右欄参照	20～50代 38% 60～80代 49% 不明 13%	2,226

手法への評価	参加者の就労への意識 (%)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元新聞への折込チラシ ・ 軒並ポスティング ・ 地区内社協、町内会での広報 ・ 口コミ・関係者での呼びかけ依頼 	3 3 1 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぜひ働きたい ・ 何かあれば働きたい ・ 仕事ではなく手伝いならば ・ どちらともいえない ・ 困難である 	7 31 33 25 7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内ダイレクトメール 900通 ・ たまログ（地元タウン誌）広告 35万部 ・ COOL求職登録者案内 約2,000件 ・ チラシ ・ 実施私設内掲示 ・ ステージでの講演・実演 ・ 個別展示コーナーでの実演 ・ 「ふくし」クイズ回答 ・ 商業施設での一般者接触 ・ 専門職の一般生活者へのPR ・ 埼玉新聞 記事掲載 ・ 想定対象へのアンケート調査 	4 3 3 1 2 5 4 1 5 3 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 【就労していない女性】 1) 賃金 2) 職場までの距離 3) 仕事内容 4) 職場の雰囲気 5) 就業時間・社会保険 6) 正職員かパートか 6) 働くスタッフの年齢構成 8) その他 【中高年齢層：45～69歳】 1) 職場の雰囲気 2) 職場までの距離 3) 賃金 3) 仕事内容 5) 就業時間・社会保険 6) 正職員かパートか 7) 働くスタッフの年齢構成 8) その他 【70歳～】 1) 職場の雰囲気 1) 仕事内容 3) 職場までの距離 4) 就業時間・社会保険 5) 賃金 5) 働くスタッフの年齢構成 7) その他 8) 正職員かパートか 	23 21 20 18 13 2 2 1 21 20 19 19 12 6 2 1 23 23 21 12 9 9 3 0

	アプローチ対象エリア	採用した手法	参加者数（名）	
神奈川県	<p>【福祉・介護のしごと はじめましてセミナー】</p> <p>①海老名市（高齢化率：23.4%、チラシ作成部数：25,898部）</p> <p>②藤沢市（高齢化率：23.5%、チラシ作成部数：89,532部）</p>	<p>(1)地元関係機関・団体への協力依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市社会福祉協議会登録ボランティア団体、介護関係研修受講者へのチラシ配布 ・コミュニティセンター、地域包括支援センター、子育て支援拠点等でのチラシ掲示・配布（海老名では大型スーパー、福祉施設の地域交流拠点、ともしびショップ、JA等にも依頼） ・近隣ハローワークでのチラシ配布 <p>(2)福祉人材センターからの広報<チラシ新聞折込み></p> <p>①10月14日(土) 朝日 6,950部、神奈川2,650部</p> <p>②11月11日(土) 朝日 39,950部、神奈川7,300部</p> <p><ラジオCM></p> <p>①10月25日(水) FM横浜 Lovely Day 9:55から60秒</p> <p>②11月14日(火) FM横浜 Lovely Day 9:55から60秒</p> <p><タウンニュース></p> <p>①10月20日(金) 外面7cm×2段6.5cm 27,850部</p> <p>②藤沢版 11月10日(金) 外面7cm×2段6.5cm 98,350部</p>	<p>①海老名市 中高年</p> <p>②藤沢市 中高年</p>	<p>4</p> <p>27</p>
			<p><参考> 横浜市 中高年 ※プログラムは同一</p>	<p>申込28 参加27</p>
長野県	<p>【平成29年度 第2回福祉の職場説明会・就職面接会】</p> <p>①長野市、②松本市</p>	右欄参照	<p>①長野市 中高年</p> <p>②松本市 中高年</p>	<p>76</p> <p>97</p>

手法への評価	参加者の就労への意識 (%)	
・チラシ	3	【セミナーで聞いたかったこと】
・ホームページ	3	※複数回答可
・ミニセミナー、相談会など各種事業	4	1) 仕事の内容・職種 37
・福祉人材センター、ハローワークなどでの個別相談	4	2) 就職活動体験談 20
・友人・知人などの口コミ	3	3) 資格取得 15
・コミュニティセンター、地域包括支援センター、子育て支援等地域交流地点でのチラシ掲示・配布	3	4) 労働環境（給料・シフト・休日など） 14
・チラシ新聞折込み	4	4) やりがい・魅力 14
・タウンニュース	4	6) その他 0
・ミニコミ紙	2	
・ラジオ生CM	3	
①長野市		①、②ともにアンケートの自由記
・チラシ（1万部）とポスター（ハローワーク、関係機関、介護福祉士養成校等、求職登録者あて）	3	述欄（66、68～69頁）を参照
・SBC信越放送のラジオスポットCM 50本	2	
・SBC信越放送のラジオパーソナリティのゲスト出演	1	
②松本市		
・チラシの新聞折込（信濃毎日新聞、51,680戸）	4	
・株式会社リクルートキャリアによる中高年向けのセミナー	5	

	アプローチ対象エリア	採用した手法	参加者数（名）	
三重県	<p>【仕事と家庭が両立できる福祉の職場セミナー】</p> <p>四日市市、鈴鹿市</p>	<p>以下の場所への掲示・チラシの配布</p> <p>(1)今回、初めて啓発協力をお願いした所</p> <p>(2)普段から啓発協力をお願いしている所</p> <p>(3)福祉人材センター登録者など</p> <p>(4)事業によって啓発協力をお願いする・しないと分けている所</p> <p>※(1)と(4)の具体的な配布先については、71～73頁を参照</p>	女性	43
奈良県	<p>【「あなたのライフプランから考える福祉の仕事のはじめ方」セミナー】</p> <p>奈良市、生駒市、大和郡山市</p>	<p>(1)チラシの配布（35,000部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスティング 28,000部 ・3市行政、社協、図書館、公民館、ハローワーク、けんいき行政機関など63か所 <p>(2)フリーペーパーへの広告掲載</p> <p>(3)Facebook広告</p> <p>(4)FM番組での紹介</p> <p>(5)イベントサイトへの登録</p>	女性	延べ5

手法への評価	参加者の就労への意識 (%)	
左記の(1)については、反応なし	1) 職場の雰囲気	23
(2)普段から啓発協力をお願いしている所(掲示・チラシの配布) ・市役所 ・社協 ・ハローワーク ・ホームページ	2) 時間(フルタイム、週に数日程度、1日のうち(朝・昼間・夕方)、土日のみ) 3) 利用者やスタッフとの人間関係	18 15
(3)福祉人材センター登録者など(掲示・チラシの配布) ・人材センター求職登録者 ・潜在有資格者再就業促進研修 修了生うち未就労者 ・シニア世代介護職場就労支援事業 修了生うち未就労者 ・潜在保育士現場復帰支援研修 修了生うち未就労者 ・子育て支援員研修 修了生うち未就労者	4) 賃金 4) 仕事のやりがい 6) 資格が取得できるか 6) 老後に対しての、経験・技術の取得	11 11 7 7
(4)事業によって啓発協力をお願いする・しないと分けている所のうち、反応があった手法 ・フリーペーパー ai(四日市市内の各家庭へのポスティング) ・中日ホームニュース四日市(中日新聞への折り込み)	6) 将来的にも就業までは考えていない 9) その他	7 1
<ul style="list-style-type: none"> ・フリーペーパー(子育て情報誌) 2 ・フリーペーパー(20~60代対象) 4 ・フリーペーパー(女性向け) 2 ・ポスティング(小学生徒数が多い地域に) 4 ・Facebook広告 2 ・フリーペーパー求人誌 2 ・ならどっとFMでの紹介 2 ・無料イベントサイトへの登録 1 	<p>【介護の仕事への就業の不安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未経験で受け入れてもらえるか 0 ・自分の希望や適性に合う就職先が見つかるか 60 ・体力面 ・希望する収入が得られるか 40 <p>【就職活動を行ううえで助かるもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤距離(車がなくても通える) ・保育施設 ・資格が生かせる 	0 60 40 0

介護人材のすそ野を広げるための

『就労していない女性』『中高年齢層』への効果的なアプローチについての **取り組み事例集**

発行：社会福祉法人 全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL 03-3581-7801 E-mail cjf-jinzai@shakyo.or.jp